

継続的な改善活動のために！

2015

在学生・卒業生・教職員

KIT総合アンケート調査結果 [報告書 (抜粋)]

学校法人 金沢工業大学

KIT総合アンケート調査結果について

学長 石川 憲一

周知のように、'70年代を境目として我が国における大学を始めとする高等教育は大きく変化し、最近に至ると修学年齢世代の約50%が大学・短大へと進学する所謂「大学教育のユニバーサル化現象」が生じてきております。このような状況は一面においては、資源小国である我が国にとって人材と言う『財』を然るべく育成し、国民の知的水準を向上することは望ましいことではあります。一方では卒業生の質的保証や当該大学に対する満足度等に関しては、従来から不明な点が多いのが現状であります。

金沢工業大学は、開学以来50年の歴史を着実に刻み、'12年4月より工学部、情報フロンティア学部、環境・建築学部、バイオ・化学部、から成る4学部14学科体制を有する理工系総合大学に移行しております。このような展開の中にあって、'95年度以来実践して参りました教育改革の成果の内、外部評価の一環として'02年度には機械系並びに材料系、'03年度には環境系並びに建築系、'05年度には電気系、'08年度には化学系の教育プログラムに対して『日本技術者教育認定機構：JABEE』の認定を受け、加えて'12年度に日本高等教育評価機構が実施した大学機関別認証評価の判定結果として、「金沢工業大学は、公益財団法人日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしている。」と認定されました。これからは、全ての教育プログラムのJABEE認定を目指すと共に、日本経営品質賞等の視点やメジャーの異なる外部評価を受ける予定であります。そして、'03年度に文部科学省が実施いたしました『特色ある大学教育支援プログラム：GP』に「工学設計教育とその課外活動環境」が採択されたことを受けて、更に本学教育改革を推進させるために、'96年並びに'02～'14年に引き続いて在学生・卒業生・教職員の各位に対して11種類のアンケートを依頼致しました。

通常、この種のアンケートは自己点検・自己評価の下に行われる訳ですが、本学では第三者である(有)アイ・ポイントにアンケートの設計から調査結果の評価並びに分析に至るまで全てを依頼いたしましたので、より客観性のある報告書になり得たものと考えております。

本アンケートはこれからも継続して実施すると共に、今回得られた結果を踏まえて本学の工学教育・技術者教育へフィードバックしながら、卒業生・修了生の質的保証や在学生の更なる満足度の向上に資することに致したく思っておりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、本アンケートにご協力いただきました関係各位に対しまして、衷心より感謝申し上げる次第であります。

目次

※本報告書(抜粋)のページ番号は、報告書(全文)の目次に対応しているため、連動しておりません。

<1>	本調査の全体像	1
<2>	在学生、卒業・修了生の基本属性	7
<3>	在学中の目的・目標意識	11
<4>	大学に対する満足度	17
<5>	授業・学習支援の評価	35
<6>	課外活動に関して	65
<7>	大学院進学に関して	79
<8>	教職員と大学の改善取り組み状況の評価	89
<9>	KIT-IDEALSに関して	97
<10>	卒業時の能力	107
<11>	卒業・修了生アンケートの分析結果	115
<12>	新入生アンケートの分析結果	127
<13>	教職員アンケートの分析結果	145
<14>	全体のまとめ	159
<15>	フリーアンサー集	185
<16>	調査票見本	321

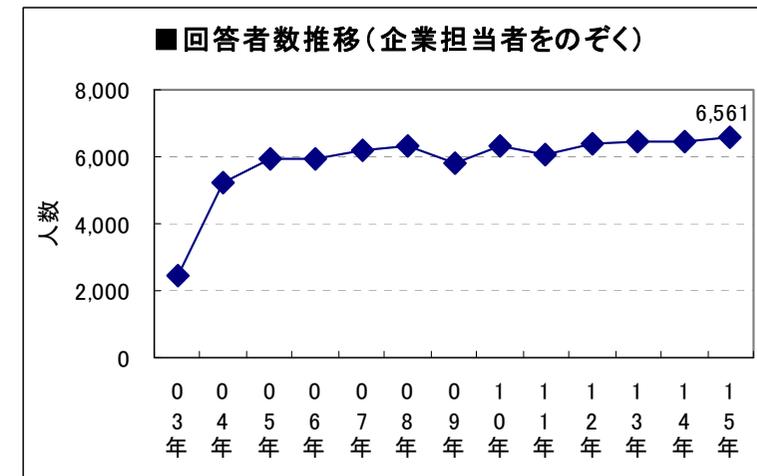
<1-1> 調査の目的と概略

■ 調査目的

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)を取り囲む関係者の中から、「在学生(新生～卒業・修了直前)」「卒業・修了生」「教員」「職員」を対象として、KITに対する評価や満足度を聞き、過去の回答と比較しながら現状を把握することを主目的としている。
- 上記の各層が「KITをどのように見ているか?」「各々の見方にはどのような違いがあるのか?」「以前とどのように変わっているのか?」といった基礎的な情報を把握し、今後の学校運営、広報の検討に活用できるようとりまとめている。
- 本調査は2003年より実施しており、今回が13回目となる。同一内容で比較できる設問に関しては時系列変化で分析している。

■ 調査方法

調査時期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2015年2月～4月に実施。 ・ 在学生への調査期間は2005年の調査より、年度当初(4月)から年度末(2月)に変更している。
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「在学生」は学内で配布、「教職員」はメールで配信し、回収ボックスで回収した。「卒業・修了生」は郵送によって配布、回収した。 ・ 全て『無記名式』とした。
回収数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の全回収数は6,561サンプルであった。 ・ 属性別の回収数は下記の通り。
調査主体	学校法人 金沢工業大学
集計分析	(有)アイ・ポイント



■ 年度別回収数

対象者	調査時点での属性	03年 回収数	04年 回収数	05年 回収数	06年 回収数	07年 回収数	08年 回収数	09年 回収数	10年 回収数	11年 回収数	12年 回収数	13年 回収数	14年 回収数	15年 回収数
新生	入学直後	724	1,672	1,610	1,747	1,642	1,652	1,568	1,723	1,607	1,745	1,886	1,614	1,664
1年次生	1年次終了時点	106	1,007	1,379	1,364	1,505	1,461	1,369	1,293	1,411	1,299	1,562	1,587	1,447
2年次生	2年次終了時点	49	792	1,533	1,313	1,267	1,455	1,146	1,185	1,022	1,321	1,059	1,337	1,545
3年次生	3年次終了時点	106	449	441	599	768	793	643	760	781	756	741	769	744
卒業・修了直前	卒業・修了直前	976	914	610	549	669	664	711	960	808	873	829	790	865
卒業・修了生	卒業・修了生	163	107	97	80	90	57	110	137	149	146	144	104	125
教員	在職中の教員	143	133	151	157	136	118	118	112	115	108	118	131	80
職員	在職中の職員	187	131	134	153	144	109	155	148	202	139	143	93	91
企業担当者	卒業生が就職した企業	—	—	485	—	—	660	—	—	686	—	—	872	—
合計(企業除く)		2,454	5,205	5,955	5,962	6,221	6,309	5,820	6,318	6,095	6,387	6,482	6,425	6,561

※2014年より、「卒業・修了直前」は「卒業直前」と「修了直前」に、「卒業・修了生」は「卒業生」と「修了生」に分けて調査票を作成したが、件数としては合わせた数で表示している。

■集計に関して

分野	注意点
無回答に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・無回答は全て集計から除外した。 ・割合を見る分析、加重平均を見る分析ともに、無回答は除外して集計した。
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。 ・今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 ・加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。 ・「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"> ・折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に本来の棒グラフでは見にくくなるため、折れ線グラフで表現しているものもある。

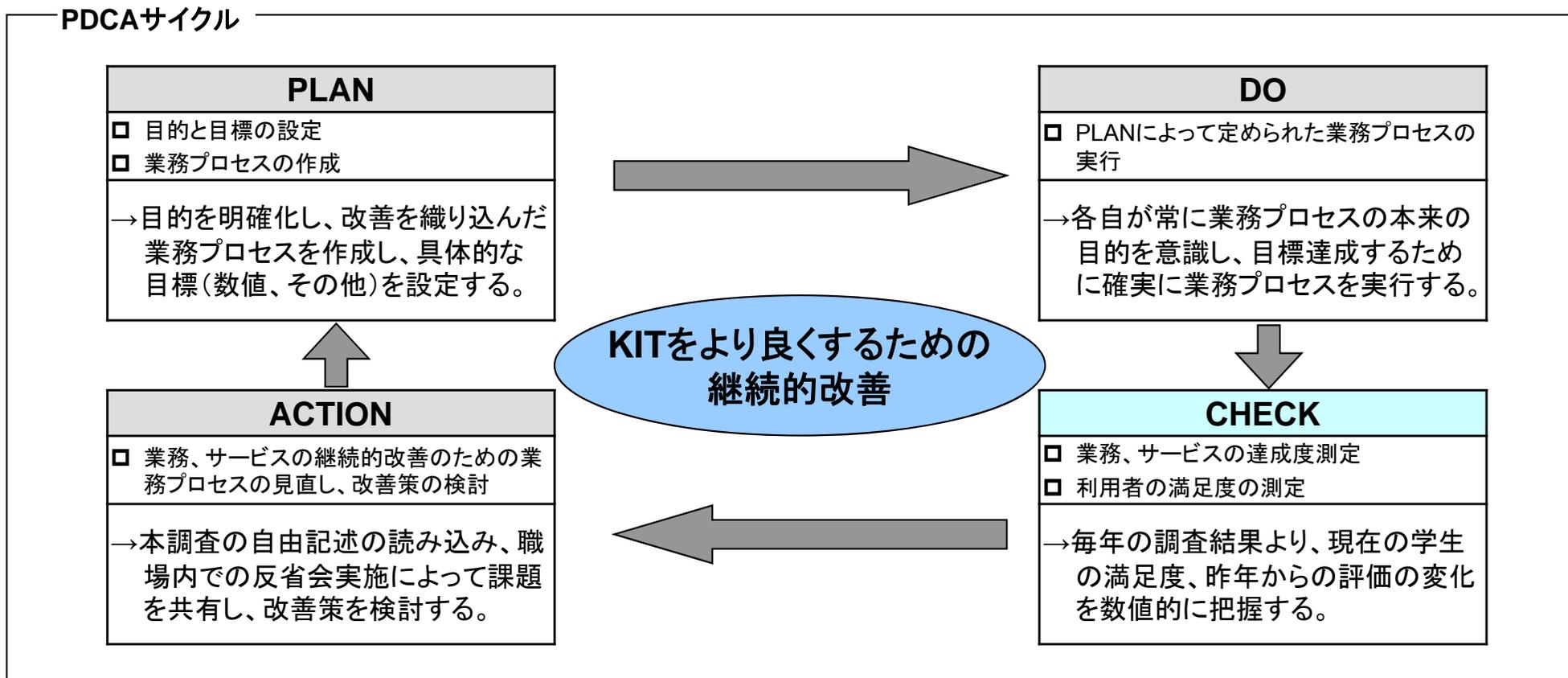
■回収率

属性	配布数	回収数	回収率
新入生	1,701	1,664	97.8%
1年次生	1,607	1,447	90.0%
2年次生	1,840	1,545	84.0%
3年次生	1,621	744	45.9%
卒・修直前	1,635	865	52.9%
在生計	8,404	6,265	74.5%
卒業・修了生	1,484	125	8.4%
教員	354	80	22.6%
職員	298	91	30.5%
全体計	10,540	6,561	62.2%

<1-2> 調査の位置づけ

■PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は前出の目的に基づいて作成されているが、具体的なPDCAサイクルの中では下記のように位置づけられる。



- 今回の調査によって得られた「KIT関係者のKITに対する評価、満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「他の施設や機能と比較して評価がどうであったか？」という相対的な結果を見るよりも、「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見る方が、よりPDCAのサイクルに則した見方ができるものと思われる。
- また、今後の改善策を検討するためには「自由記述」が有効であり、多くのヒントが含まれているものと思われる。
- 本調査企画は昨年から改善を重ねて内容を見直しているため、質問方法、選択肢などが異なる部分もあるが、今後はこれらの違いをできるだけ少なくし、より比較検討が行いやすい内容にしていく予定である。

<2-1> 在学生・卒業生の基本属性

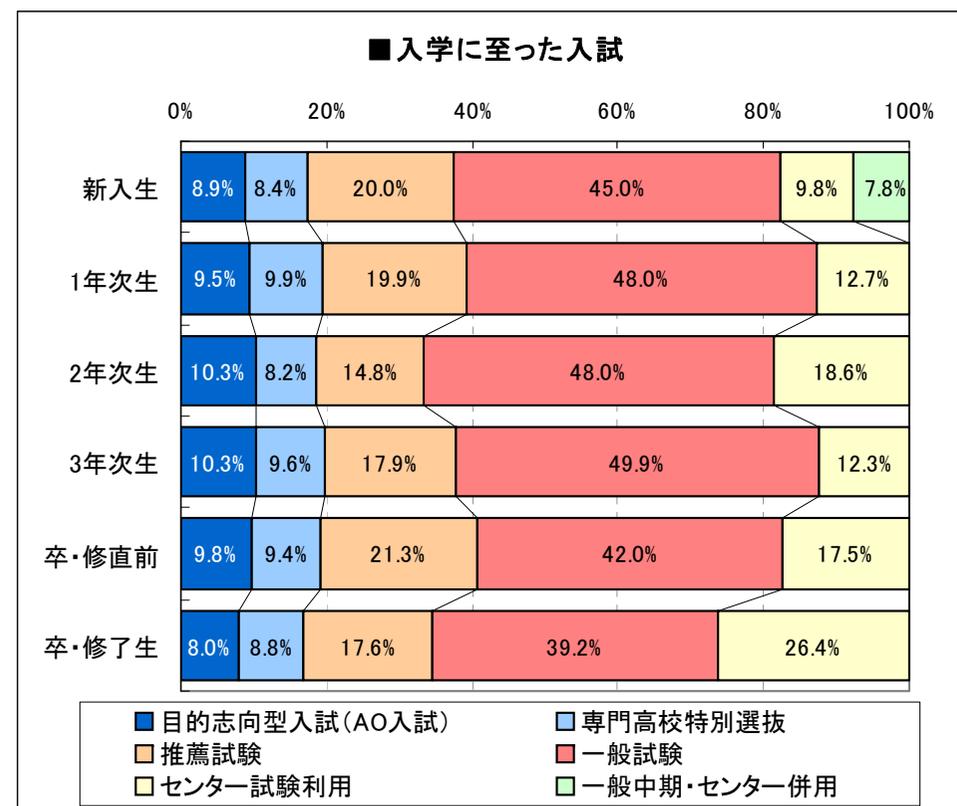
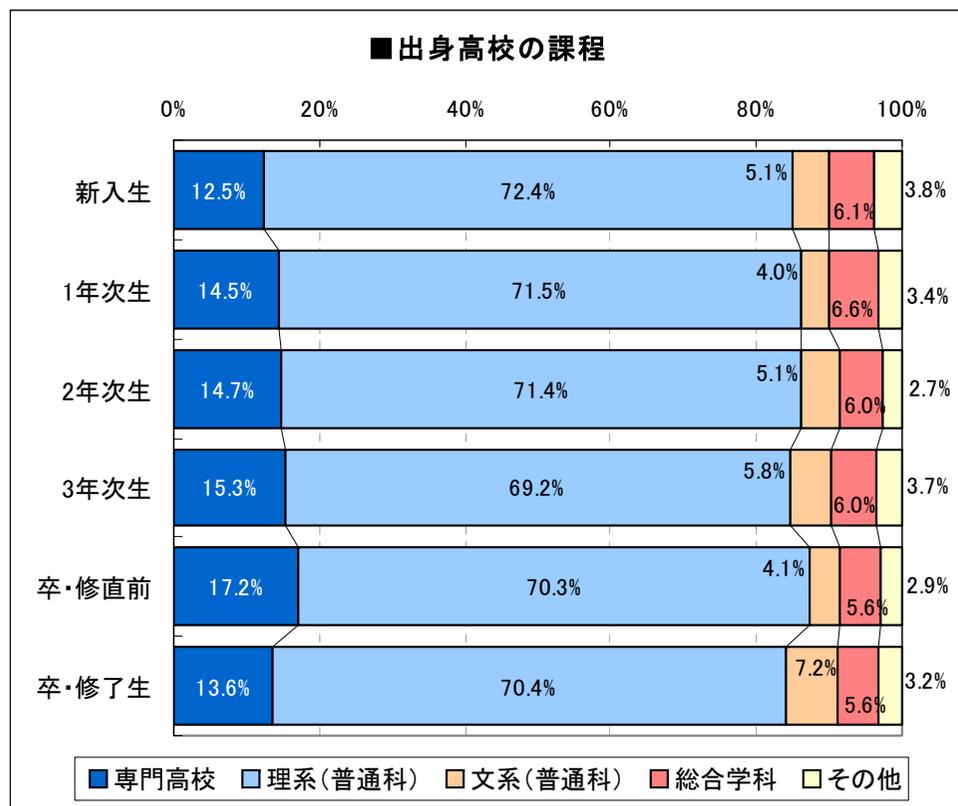
■ 所属学部、出身高校の課程、入学に至った入試

■ 在学生・卒業生の所属学部

(単位:人)

属性	工学部	情報フロンティア学部	環境・建築学部	バイオ・化学部	無回答	全体
新入生	856	269	356	178	5	1,664
1年次生	762	231	292	142	20	1,447
2年次生	793	260	300	173	19	1,545
3年次生	384	132	140	81	7	744

属性	工学部	情報学部	環境・建築学部	バイオ・化学部	大学院	無回答	全体
卒・修直前	355	203	121	105	77	4	865
卒・修	43	26	16	21	17	2	125



※「推薦試験」は「修了直前」と「修了生」では「推薦試験・女子特別選抜」となっている。

※「一般中期・センター併用」は「新入生」のみ対象となっている。

■在学生の出身地域

■在学生の出身地域

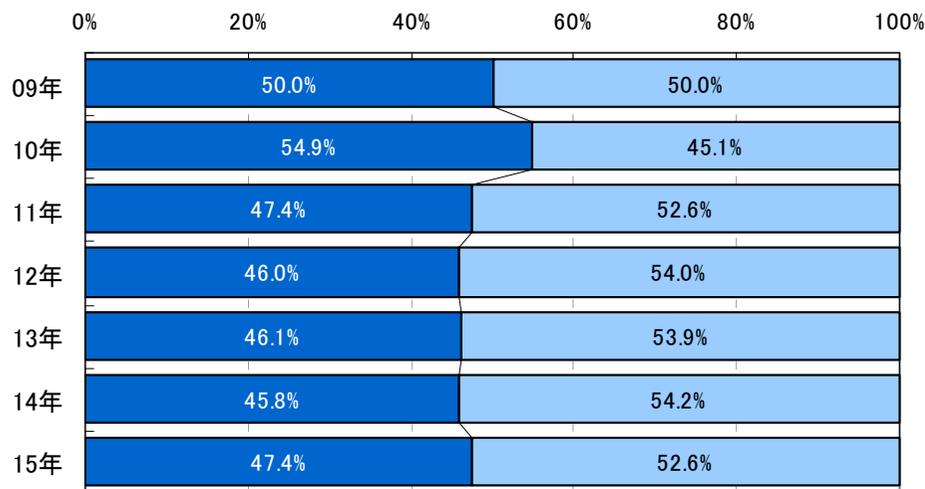
	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州・沖縄	全体
1年次生	68	66	209	633	212	139	61	42	1,430
	4.8%	4.6%	14.6%	44.3%	14.8%	9.7%	4.3%	2.9%	100.0%
2年次生	80	72	220	725	228	132	48	37	1,542
	5.2%	4.7%	14.3%	47.0%	14.8%	8.6%	3.1%	2.4%	100.0%
3年次生	30	21	117	349	107	74	27	9	734
	4.1%	2.9%	15.9%	47.5%	14.6%	10.1%	3.7%	1.2%	100.0%
卒・修直前	37	35	132	413	114	80	40	11	862
	4.3%	4.1%	15.3%	47.9%	13.2%	9.3%	4.6%	1.3%	100.0%
全体	215	194	678	2,120	661	425	176	99	4,568
	4.7%	4.2%	14.8%	46.4%	14.5%	9.3%	3.9%	2.2%	100.0%

<3-1> 在学中の目的・目標意識

■現在の目的・目標意識

- 「大学生活を送る上で何らかの目的・目標を持っていますか？」という質問に対しては47.4%が「目標あり」、52.6%が「目標なし」と答えており、「目標なし」の方が5.2ポイント多かった。
- 以前と比較すると、「目標あり」は前回より1.6ポイント増加したものの、11年より大きな変動は見られなかった。
- 学年別・年度別の比較で15年の結果を見ると、「新入生」の「目標あり」の割合は78.2%で、目立って高かった。次に高かったのは「1年次生」の51.6%だったが、最も低い「2年次生」では43.5%で、それほど大きな差は見られず、「新入生」以外の学年は横並びとなっていた。
- 学年別の年度別推移を見ると、「1年次生」では12年から、また「新入生」では13年から継続的に「目標あり」が増加していた。また、「卒・修直前」は前回の38.0%が47.5%に一気に増加していた。前回は下回ったのは「2年次生」と「3年次生」だけであった。

■現在の大学生活での目的・目標意識（在学生）

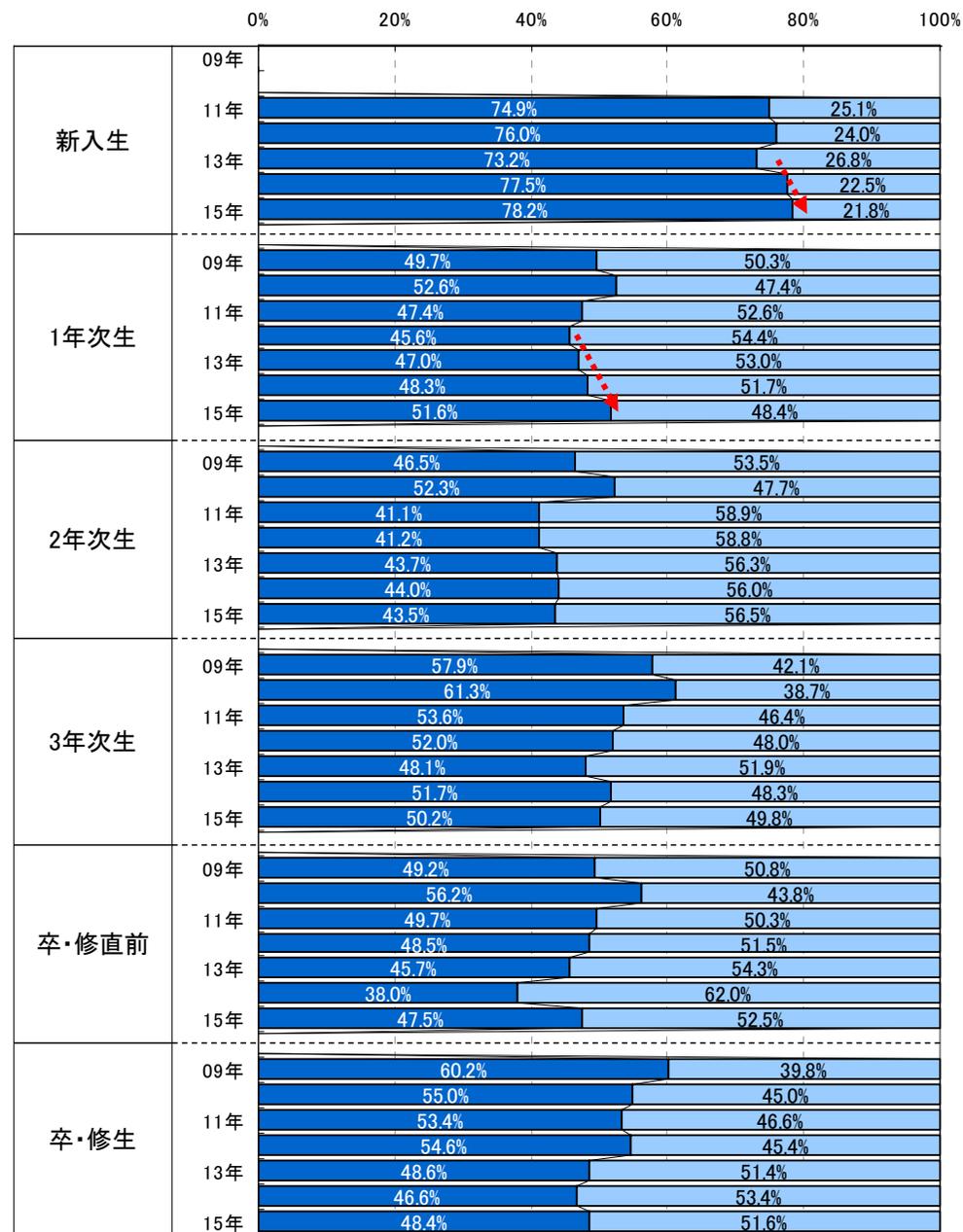


※この質問は「新入生」「在学生」「卒業生」に聞いているが、上記グラフは「在学生(大学院を含む)」のみを対象として比較している。

■ 目標あり

■ 目標なし

■現在の大学生活での目的・目標意識 学年別・年度別比較

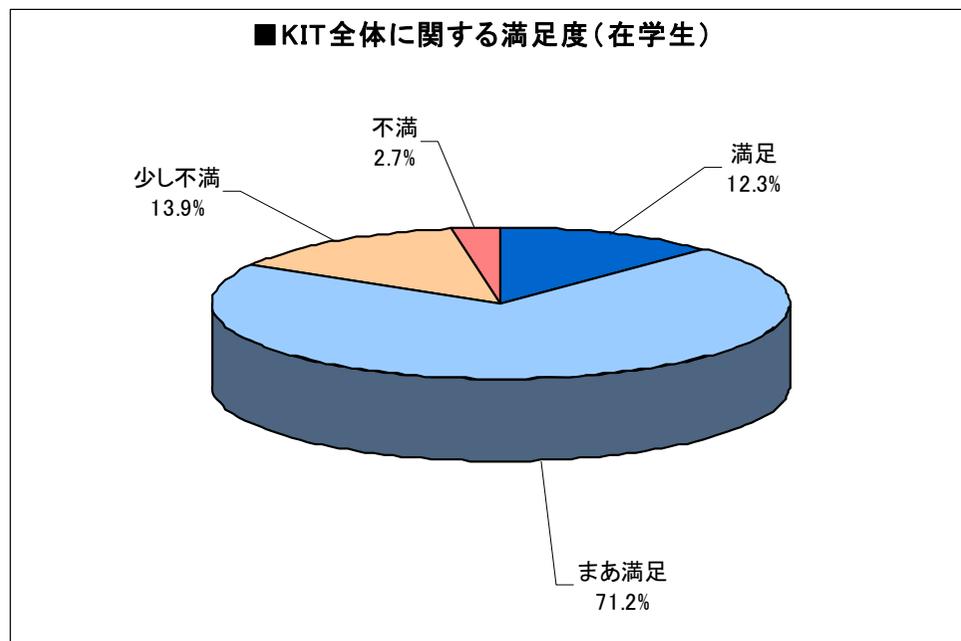


※上記グラフでは、「新入生」には今回から「大学に入ってこれやりたいという目的・目標を持っていますか？」と聞いている。

<4-1> KITの総合満足度

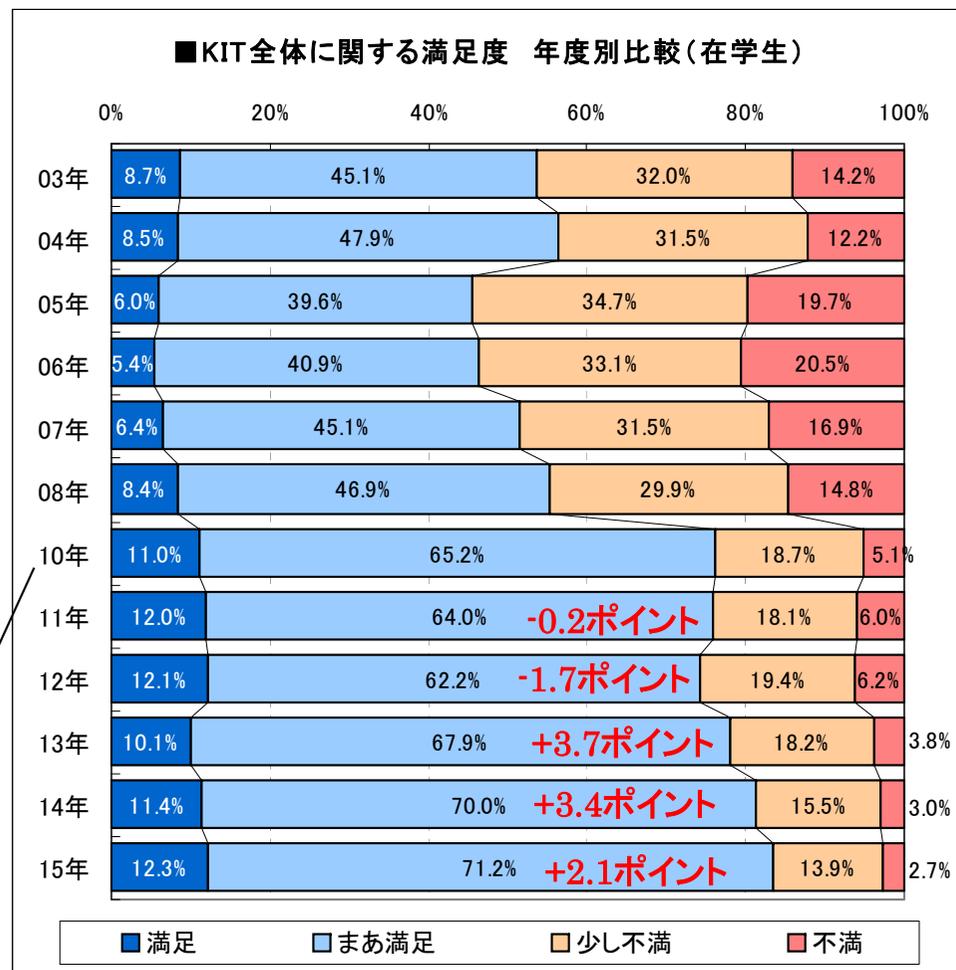
■KIT全体に関する満足度

- 「KIT全体に関する満足度」では、「満足」が12.3%、「まあ満足」が71.2%であり、合わせると83.5%が満足と答えており、不満という回答(16.6%)を66.9ポイント上回っていた。
- 総合満足度は08年までは「今のKITに満足していますか?」と聞いており、09年には質問自体を削除している。そして、10年からは「KIT全体に関する満足度」として「満足」～「不満」を選ぶ聞き方になっている。
- 05年から08年にかけては満足度がわずかずつ増加していた。10年に聞き方が変わったためか、一気に7割以上が満足しているという回答になっており、12年まではほぼ横這いとなっていた。
- 12年以降は満足度の向上が続いており、今回も前回は2.1ポイント上回って、過去最高の満足度となっていた。



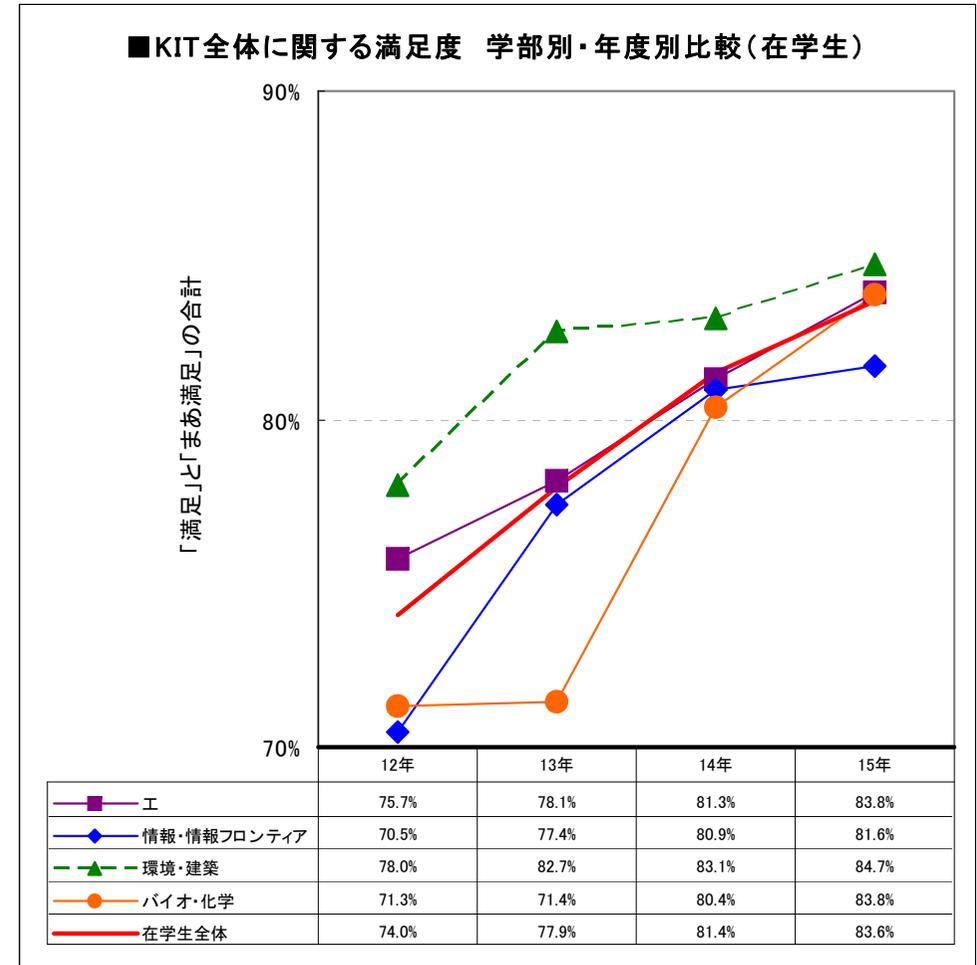
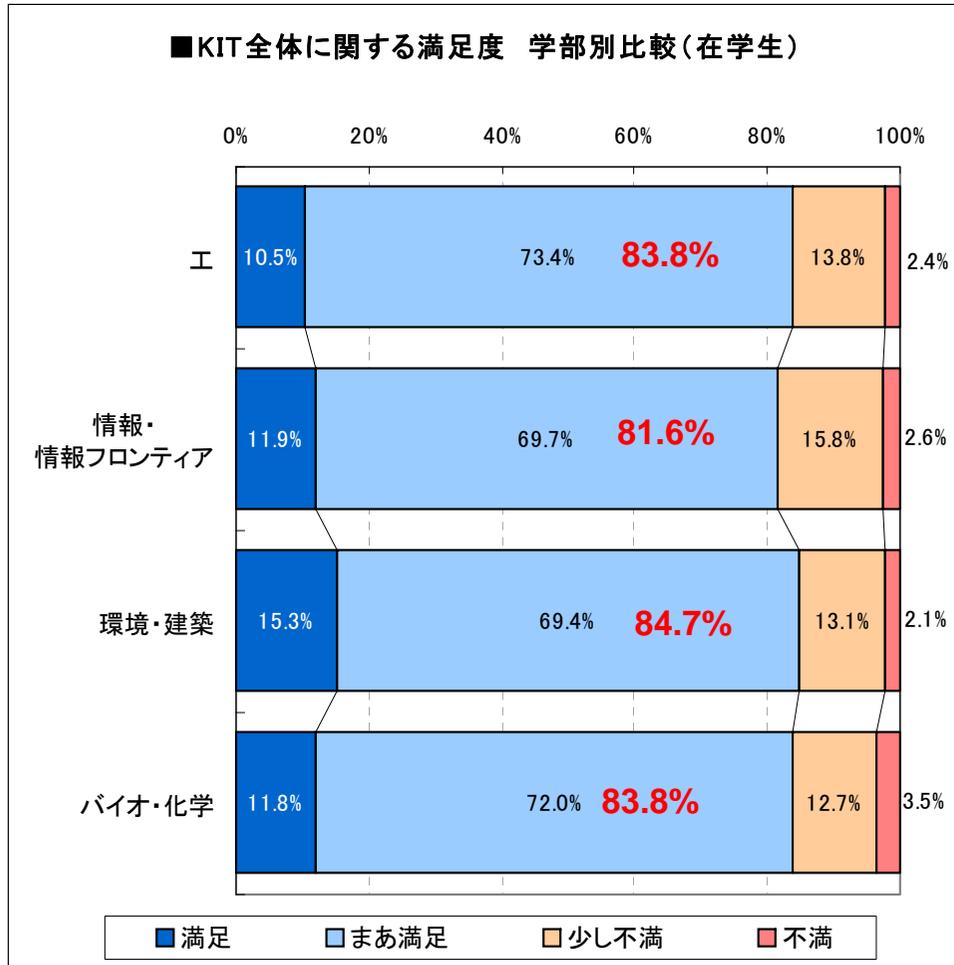
満足している(83.5%) > 不満を持っている(16.6%)

10年から聞き方が
変わっている



■学部別比較

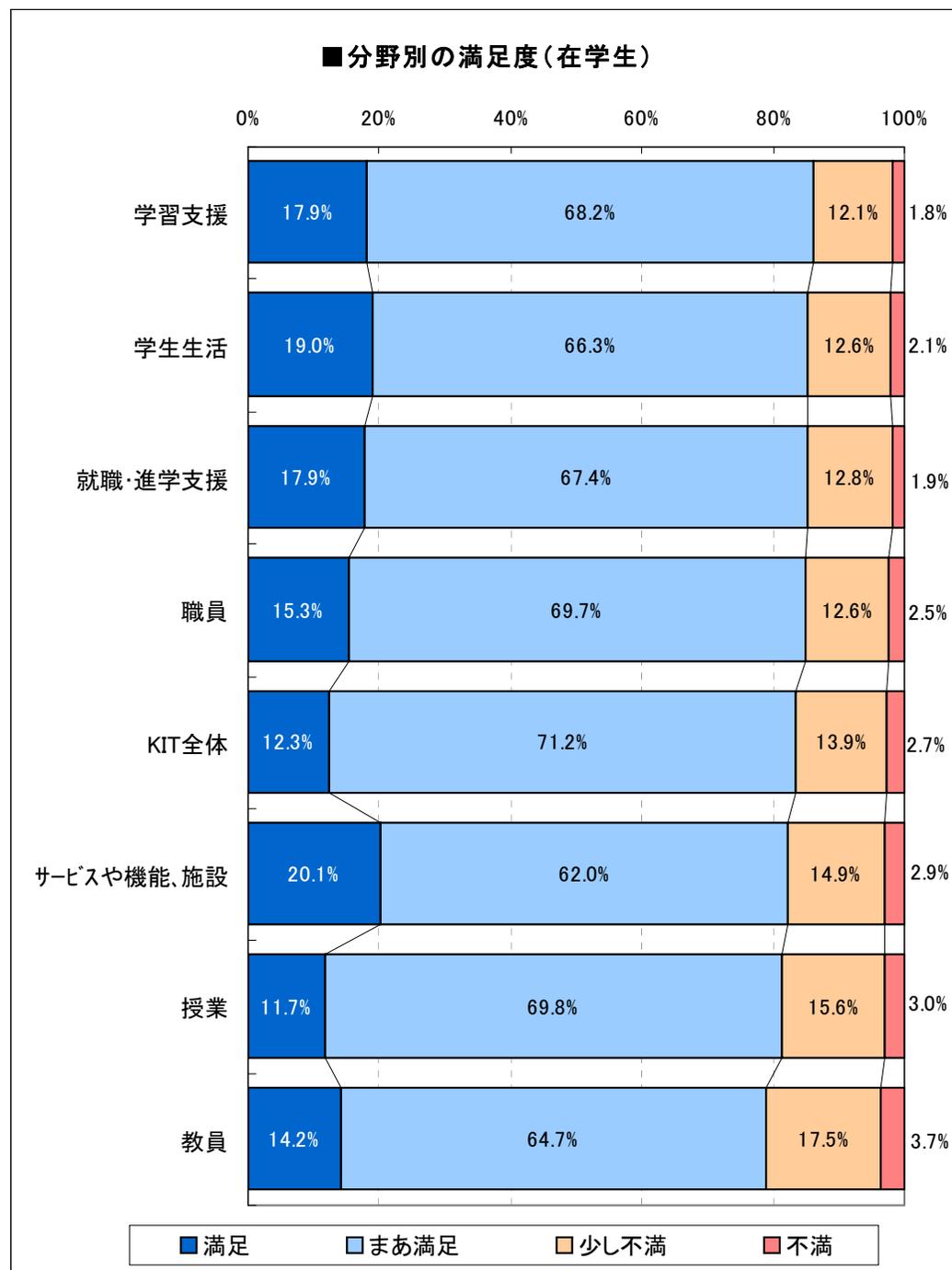
- 学部別の比較では、学部構成が異なる「修直前」を除いて4学部で集計を行っている。
- 「満足」と「まあ満足」の合計で比較すると、学部間の差はそれほど大きくなかったが、「環境・建築」が84.7%で最も満足度が高く、次いで、「工」と「バイオ・化学」が共に83.8%、「情報・情報フロンティア」が81.6%と続いていた。
- 4学部制となった12年以降の学部別・年度別の比較を見ると、4学部共に前回の満足度を上回っていた。特に「バイオ・化学」の満足度は大きく上がっており、「情報・情報フロンティア」の向上は少なめであった。
- 12年からの継続的な変化を見ると、差はあるものの4学部共に全て前回の満足度を上回ってきていた。そして、12年、13年の満足度は学部による差が大きかったが、14年以降は差が少なくなるという傾向も見られた。



<4-2>分野別の満足度

■分野別満足度

- 満足度を分野別に比較したところ、「学習支援」の満足度が最も高く、「満足」と「まあ満足」を合わせると86.1%となっていた。
- 上記に次いで「学生生活」と「就職・進学支援」が85.3%、「職員」が85.0%となっていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「教員」であったが、満足している割合は78.9%で、8割には満たなかったものの、決して満足度が低いというものではなかった。そして、「授業」が81.5%、「サービスや機能、施設」が82.1%と続いていた。「満足」という回答だけを見ると「サービスや機能、施設」が20.1%と最も高く、この点に強い満足を感じている学生がいることがわかった。

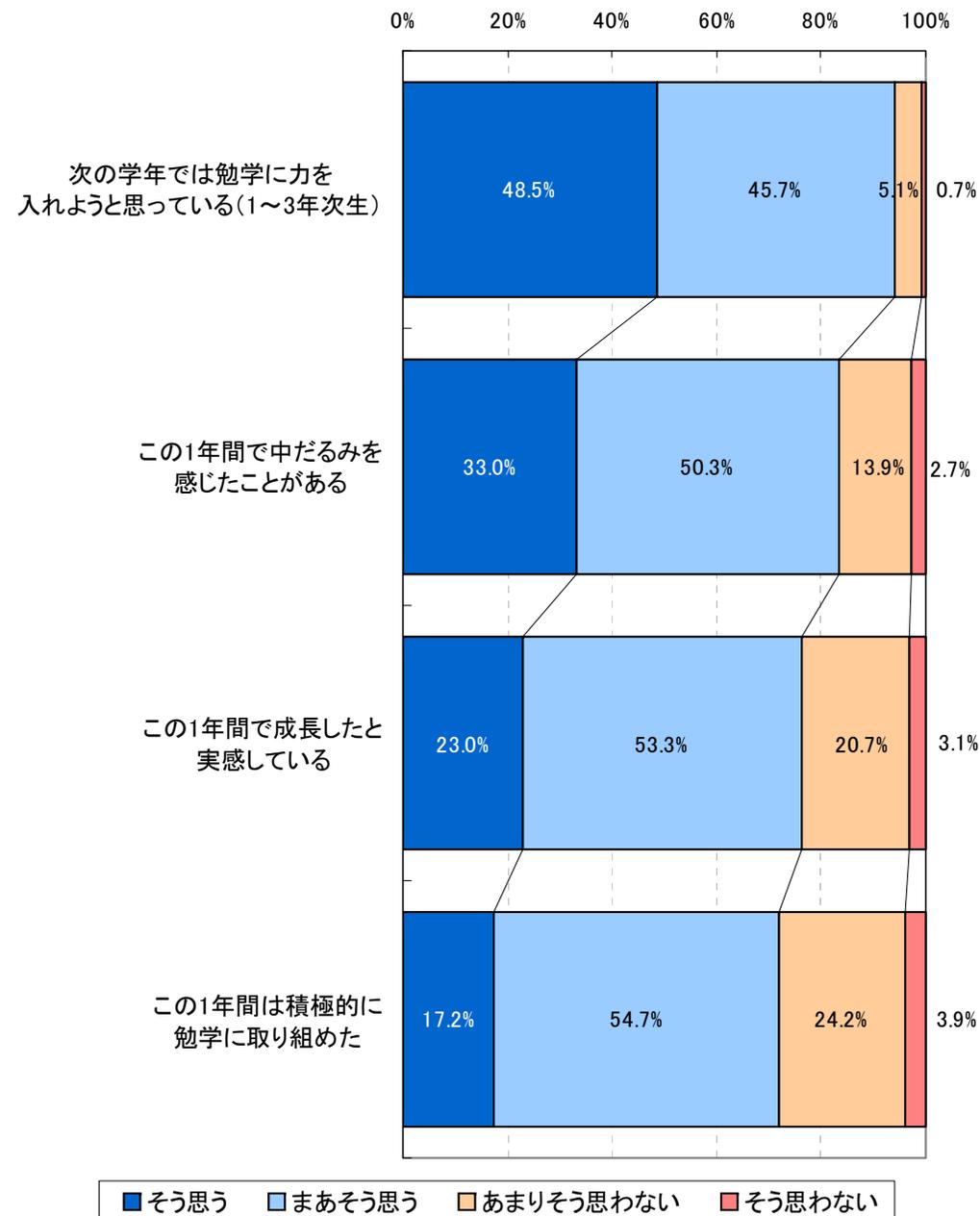


<4-3>この1年間の振り返り

■この1年間の振り返り

- 「この1年間の振り返り」で肯定的な意見(「そう思う」と「まあそう思う」の合計)が最も多かったのは、「次の学年では勉学に力を入れようと思っている」の94.2%であった。これは1～3年次生のみに行ったものであるが、「そう思う」という回答が48.5%と半数に近く、次の学年に向けての心構えが感じられる結果となっていた。
- 上記に次いで「この1年間で中だるみを感じたことがある」では83.3%が肯定的な意見であった。この質問では、肯定的であるほど中だるみを感じているということになるため、全体の8割が中だるみを感じていることになり、この割合は非常に高いと言える。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「この1年間は積極的に勉学に取り組めた」であった。この項目への肯定的な意見は71.9%と、少ないわけではなかったが、「そう思う」という回答だけを見ると、17.2%しかなく、他の項目に比べて低さが目立っていた。また、「この1年間で成長したと実感している」では76.3%が肯定的な意見であり、「そう思う」は23.0%であった。
- 全体を見ると、約7割の学生は積極的に勉学に取り組み、成長したと感じているが、約8割が中だるみを感じていた。そして、9割以上の学生が次の学年に勉学に力を入れようと考えており、多くの学生が中だるみと、次の年へ新たな気持ちをもって向かっている様子がうかがえた。

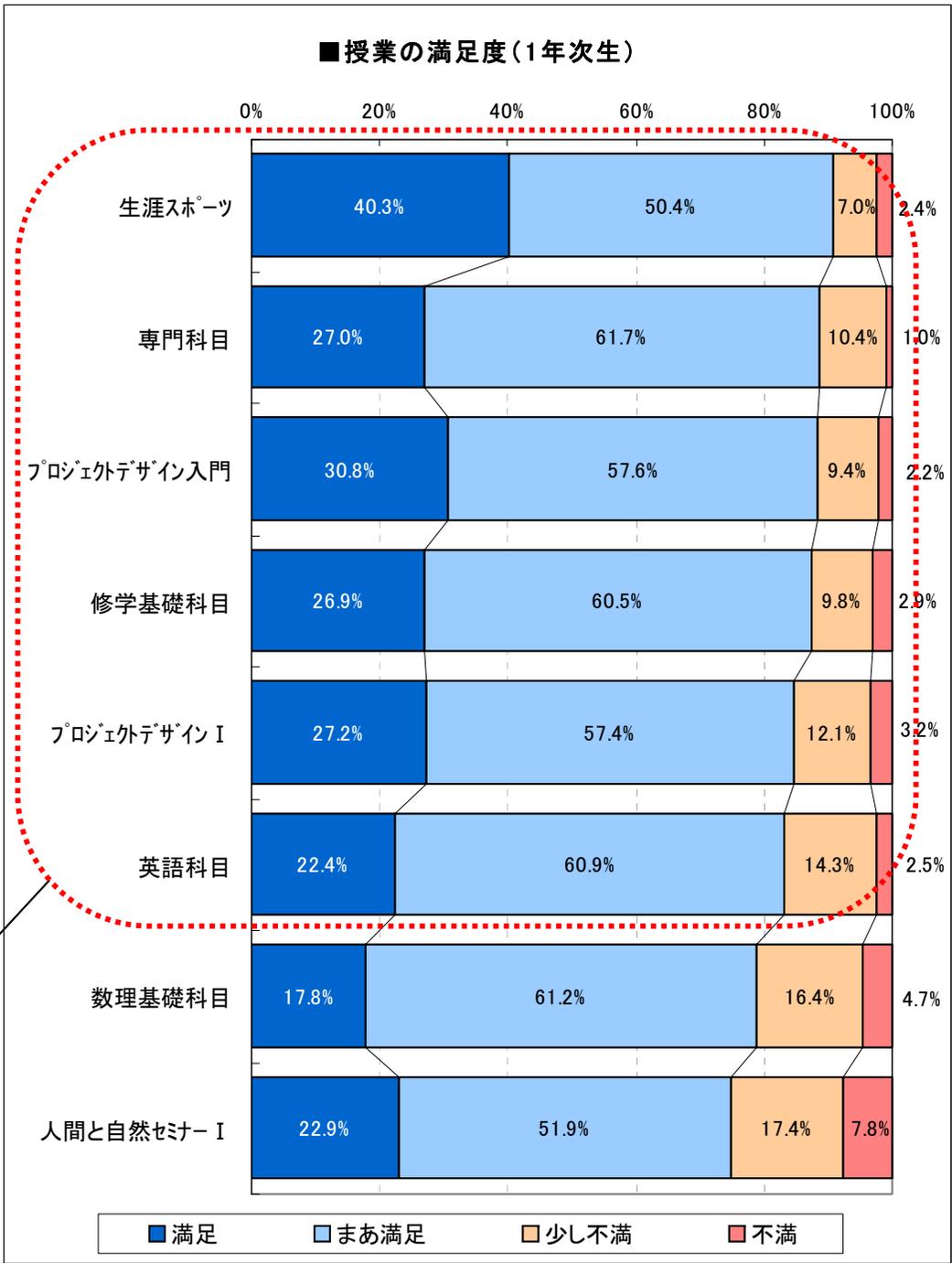
■この1年間の振り返り(在學生)



<5-1> 授業の評価

■ 授業の評価 1年次生

- 「1年次生」の授業満足度を見ると、2科目を除いた科目で満足している割合が8割を超えており、全体的に満足度は高いと言える。
- 最も満足度が高かった科目は「生涯スポーツ」であり、「満足」が40.3%と高く、「まあ満足」(50.4%)と合わせると90.7%が満足しているという評価をしていた。
- 上記に続き、「専門科目」で88.7%、「プロジェクトデザイン入門」で88.4%、「修学基礎科目」で87.4%が満足と評価していた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「人間と自然セミナー I」であり、肯定的な回答は74.8%であった。そして「数理基礎科目」が79.0%で続いていた。しかし、この2科目の満足度も決して低いものではなく、「人間と自然セミナー I」では「満足」という回答が22.9%であり、一部の学生の満足度が高かったことがうかがえる。

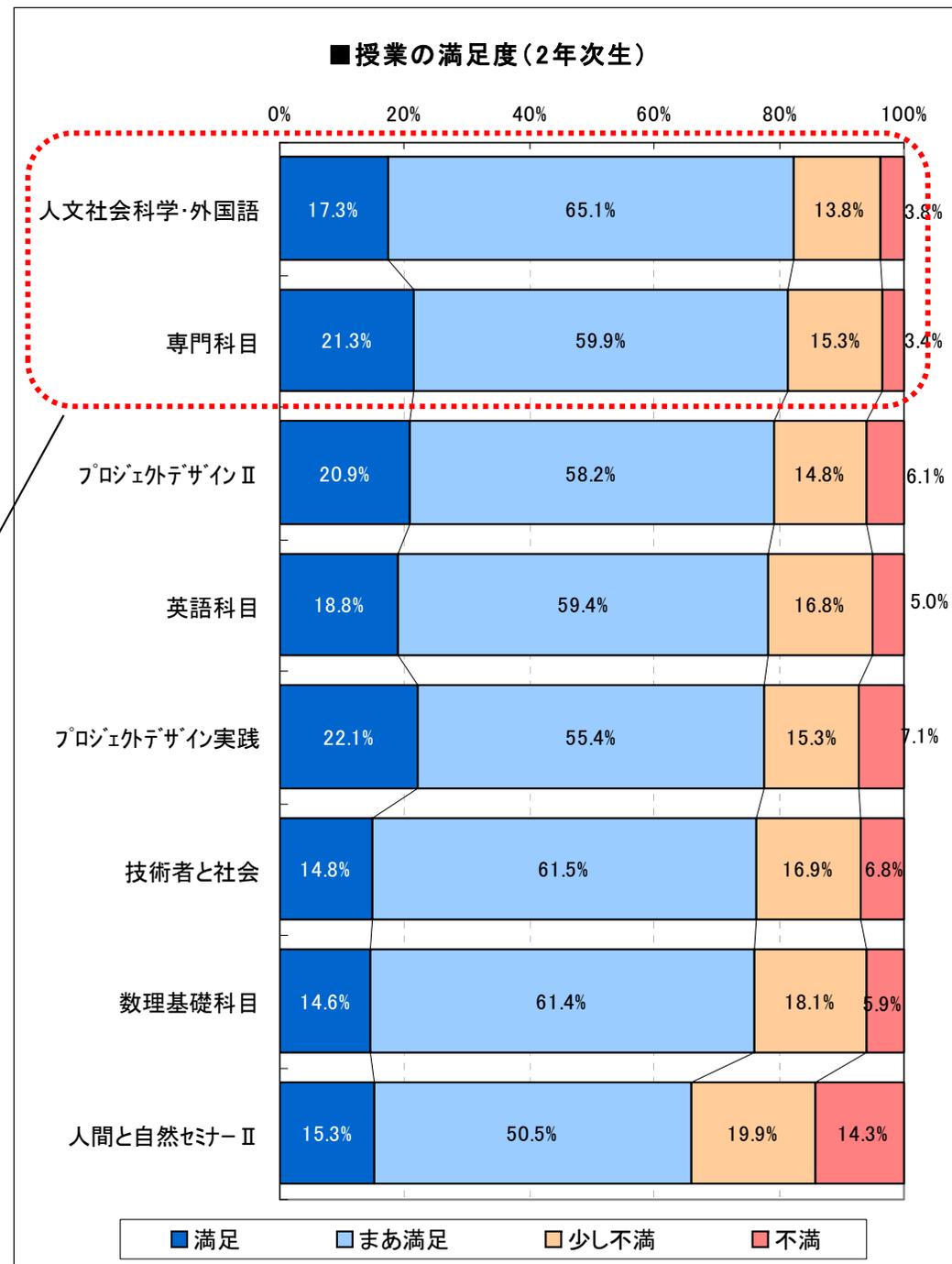


満足している層が8割以上

■授業の評価 2年次生

- 「2年次生」で満足している割合が8割を超えていたのは「人文社会科学・外国語」(82.4%)と「専門科目」(81.2%)の2科目であった。
- 次いで「プロジェクトデザインⅡ」(79.1%)、「英語科目」(78.2%)、「プロジェクトデザイン実践」(77.5%)と続いていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「人間と自然セミナーⅡ」で、満足している割合は65.8%であり、全科目の中で唯一満足度が7割に満たなかった。そして、2番目に満足度が低かったのは「数理基礎科目」の76.0%であった。

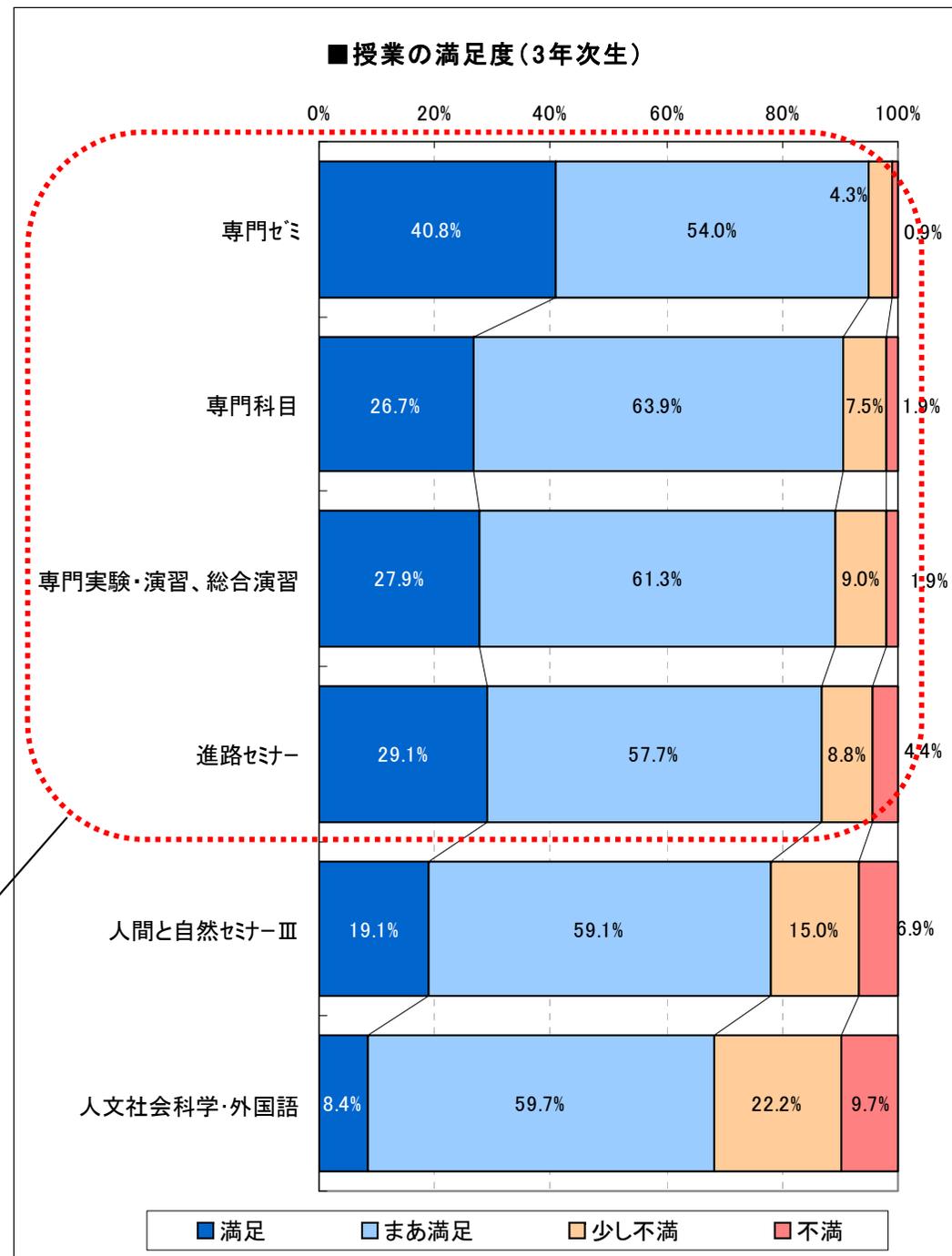
満足している層が
8割以上



■授業の評価 3年次生

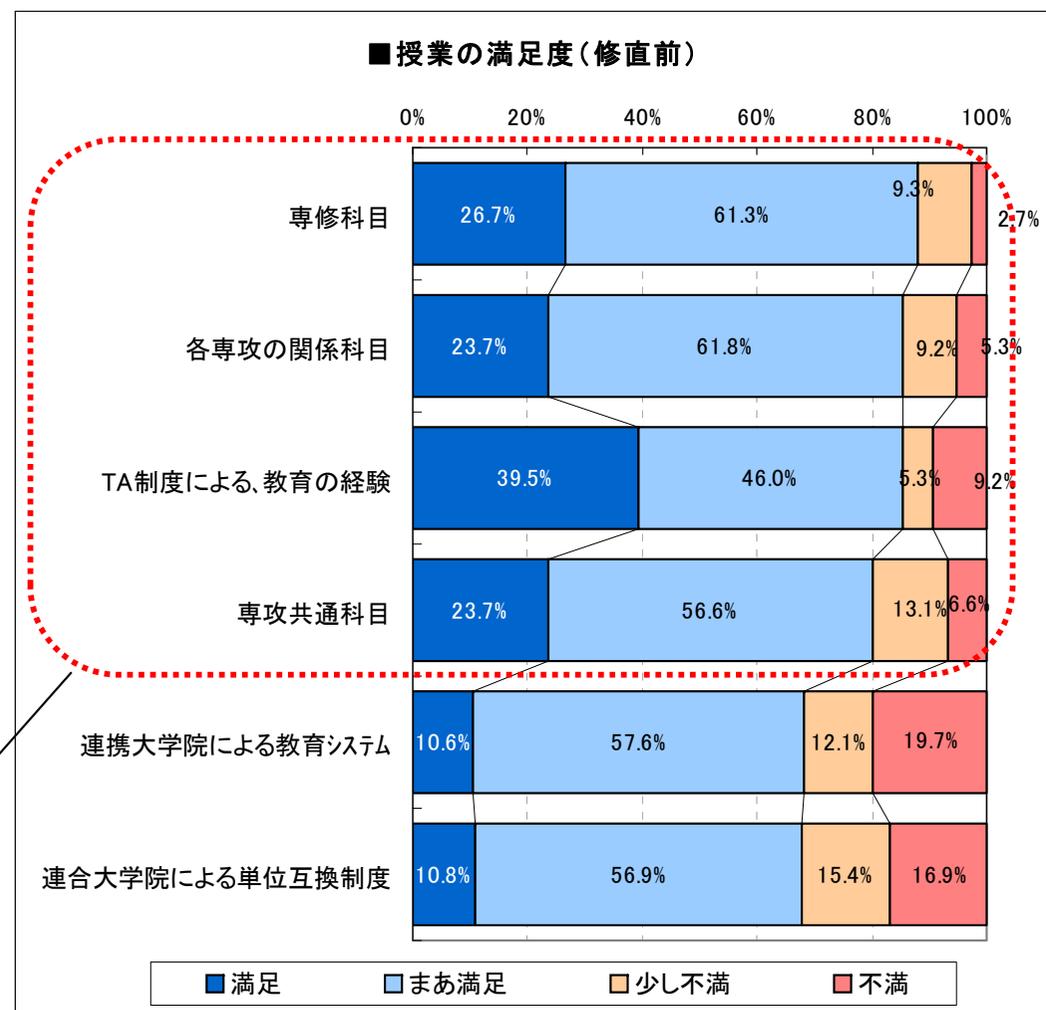
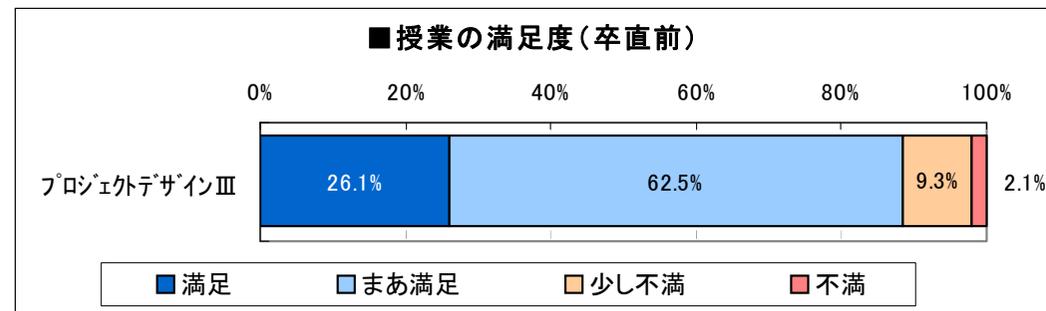
- 「3年次生」の授業で最も満足度が高かった科目は「専門ゼミ」であり、満足している割合は94.8%であった。「専門ゼミ」は「満足」という回答だけでも40.8%を占めており、満足度の高さがうかがえる結果であった。
- 上記に次いで、「専門科目」が90.6%、「専門実験・演習、総合演習」が89.2%、「進路セミナー」で86.8%が満足しており、ここまでの4科目の満足度は8割を超えていた。次の「人間と自然セミナーⅢ」でも、満足している割合は78.2%と、わずかに8割に満たなかったが満足度としては低くはなかった。
- 一方、最も満足度が低かったのは「人文社会科学・外国語」で、満足している割合は68.1%であり、3割以上が不満を持っていることが分かった。

満足している層が
8割以上



■授業の評価 卒直前・修直前

- 「卒直前」には「プロジェクトデザインⅢ」の満足度だけを聞いているが、満足している割合は88.6%であり、満足度は高かった。
- 「修直前」では6科目のうち4科目で満足している割合が8割を超えていた。
- 最も満足度が高かったのは「専修科目」の88.0%であった。次いで、「各専攻の関係科目」と「TA制度による、教育の経験」が85.5%で並んでいた。ただし、「TA制度による、教育の経験」は「満足」という回答が39.5%を占めており、強く満足している層が6科目の中で最も多かった。
- 一方、満足度が低かったのは「連合大学院による単位互換制度」(67.7%)と「連携大学院による教育システム」(68.2%)であり、いずれも不満を持っている割合が3割を超えていた。

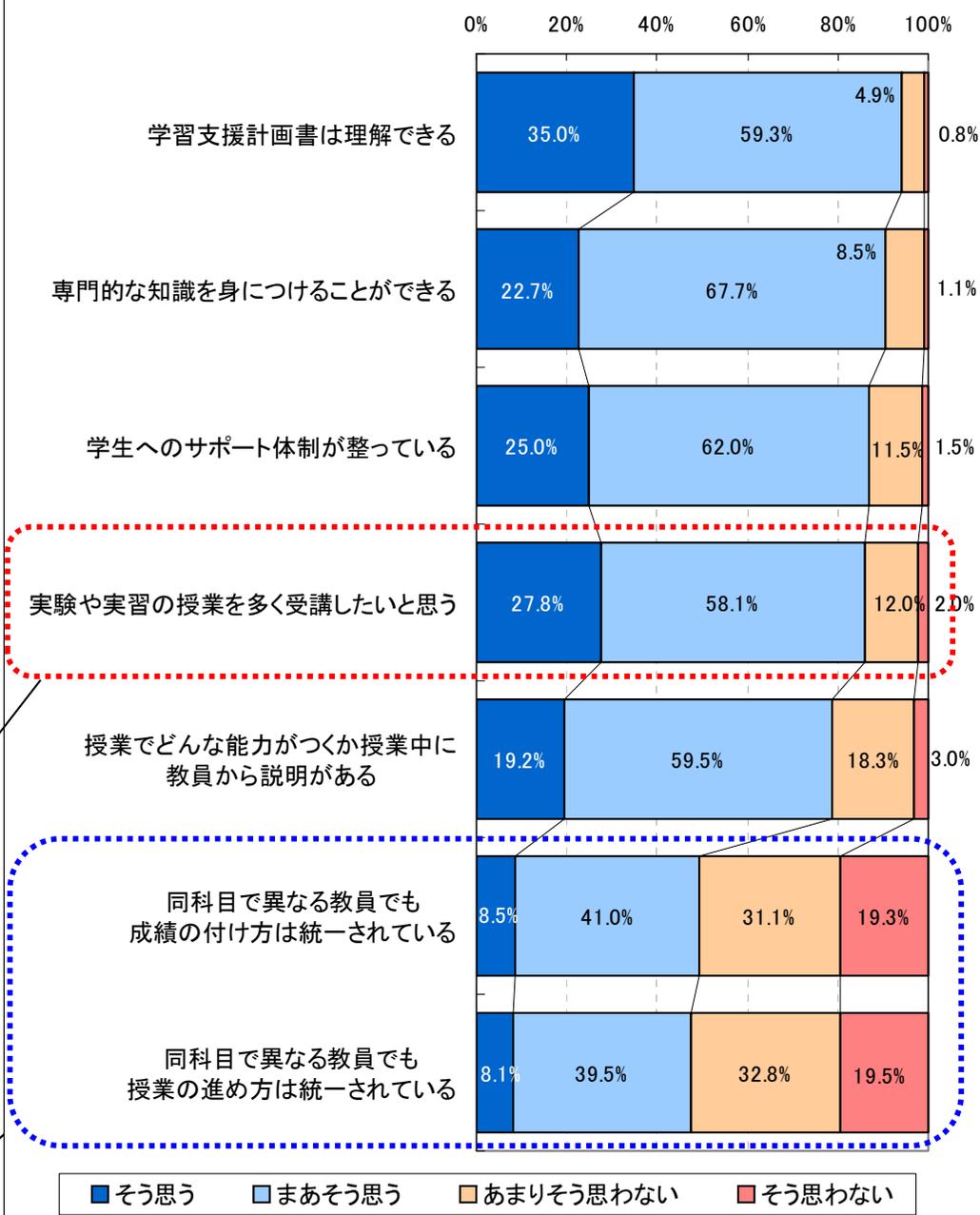


<5-2> 授業の仕組みの評価

■ 授業の仕組みの評価

- 授業の仕組みの評価では、現状の評価を聞く質問と要望を聞く質問が混在しているが、要望を聞く質問である「実験や実習の授業を多く受講したいと思う」では85.9%が肯定的な意見であり、実験・実習に対する強い要望が感じられた。
- 上記以外は現状の評価を聞くものであるが、肯定的な意見が多かったのは「学習支援計画書は理解できる」であり、94.3%が肯定的な意見であった。
- 上記に次いで、「専門的な知識を身につけることができる」が90.4%、「学生へのサポート体制が整っている」が87.0%で続いていた。
- 一方、評価の低さが目立っていた項目が2つあった。1つは「同科目で異なる教員でも成績の付け方は統一されている」であり、肯定的な意見は49.5%であった。2つめは「同科目で異なる教員でも授業の進め方は統一されている」であり、肯定的な意見は47.6%となっていた。この2項目は「同科目で異なる教員の対応」に対する不満であり、この点が大きな不満になっていることがわかる。

■ 授業の仕組みの評価 (在学生)



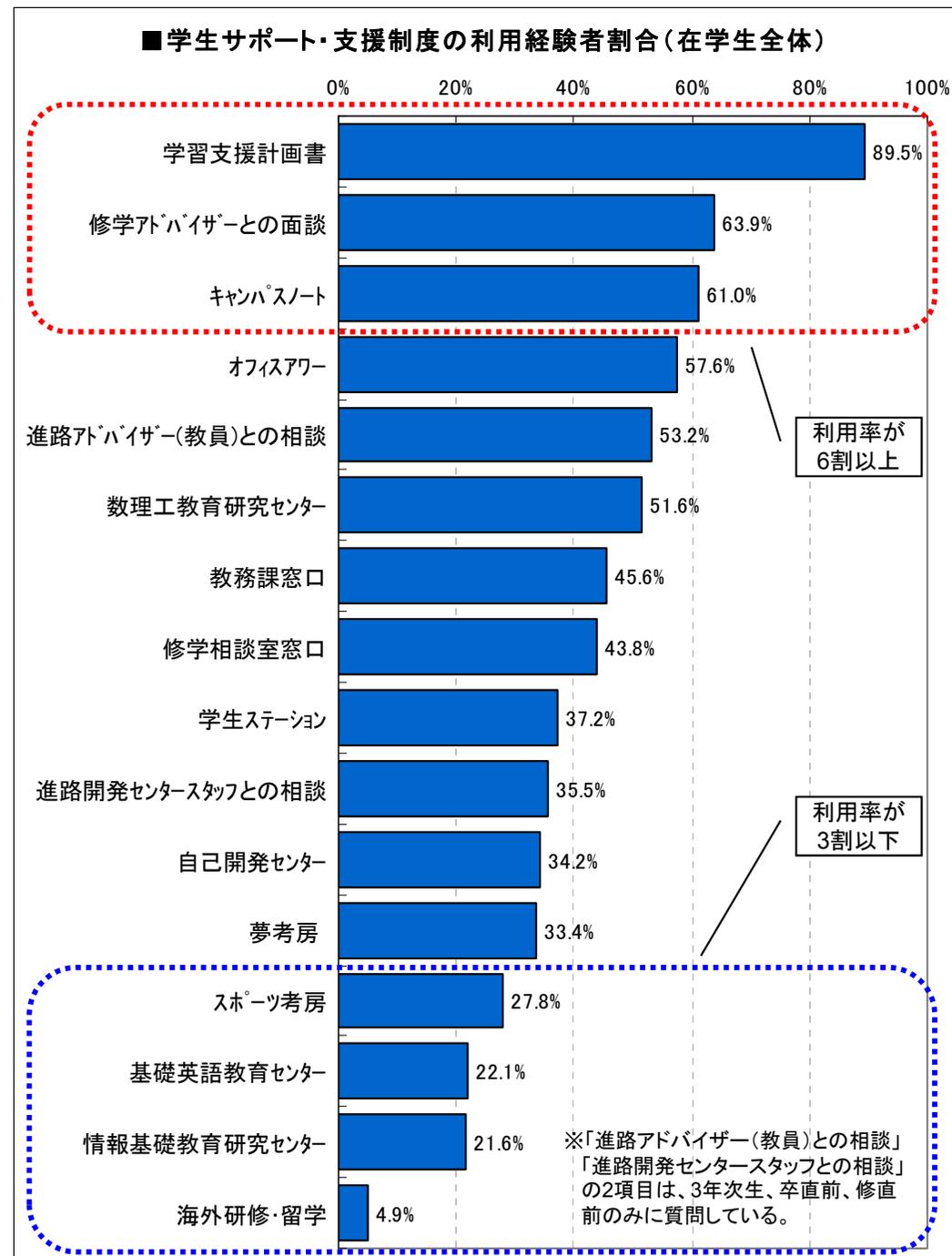
要望を聞く質問

「同科目で異なる教員」の対応に大きな不満がある

<5-3> 学生サポート・支援制度の利用状況

■ 学生サポート・支援制度の利用経験者割合

- 学生サポート・支援制度に関して、利用経験と、利用経験者から評価を聞いた。今回より「学生ステーション」と「スポーツ考房」を追加している。
- 利用経験者の割合が最も高かったのは「学習支援計画書」であり、89.5%が「利用経験あり」と答えており、他の項目と比べて高さが目立っていた。
- 上記に次いで、「修学アドバイザーとの面談」が63.9%、「キャンパスノート」が61.0%となっており、ここまでの3項目は利用者割合が6割を超えていた。
- 一方、最も利用経験者の割合が低かったのは「海外研修・留学」の4.9%であり、この低さも他に比べて突出していた。次に「情報基礎教育研究センター」が21.6%、「基礎英語教育センター」が22.1%、今回追加した「スポーツ考房」が27.8%となっており、ここまでの4項目は利用経験者の割合が3割に満たなかった。

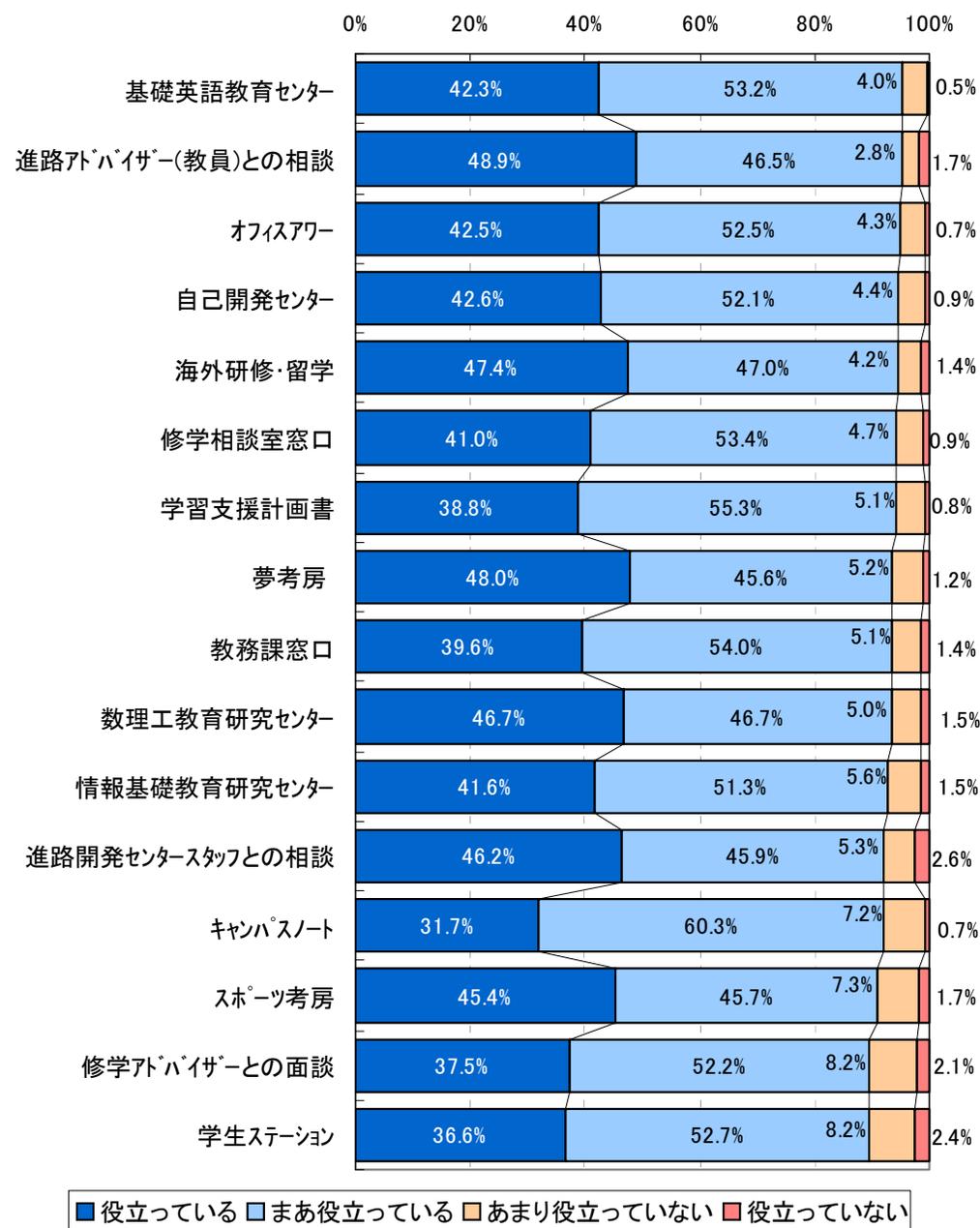


<5-4> 学生サポート・支援制度の評価

■ 学生サポート・支援制度の評価

- 各学生サポート・支援制度を利用したと答えた学生に、機能が役立っているかを聞いた。
- 肯定的な意見(「役立っている」と「まあ役立っている」の合計)を見たところ、ほとんどの項目で9割以上が役立ったと回答しており、学生サポート・支援策の評価は非常に高かった。
- 肯定的な意見が最も高かったのは「基礎英語教育センター」であり、95.5%が役に立ったという意見であった。次いで、「進路アドバイザー(教員)との相談」が95.4%、「オフィスアワー」が95.0%、「自己開発センター」が94.7%、「海外研修・留学」が94.4%が続いていた。
- 一方、評価が最も低かったのは「学生ステーション」の89.3%で、評価としては決して低いものではなかった。次に「修学アドバイザーとの面談」が89.7%、「スポーツ考房」が91.1%となっていた。

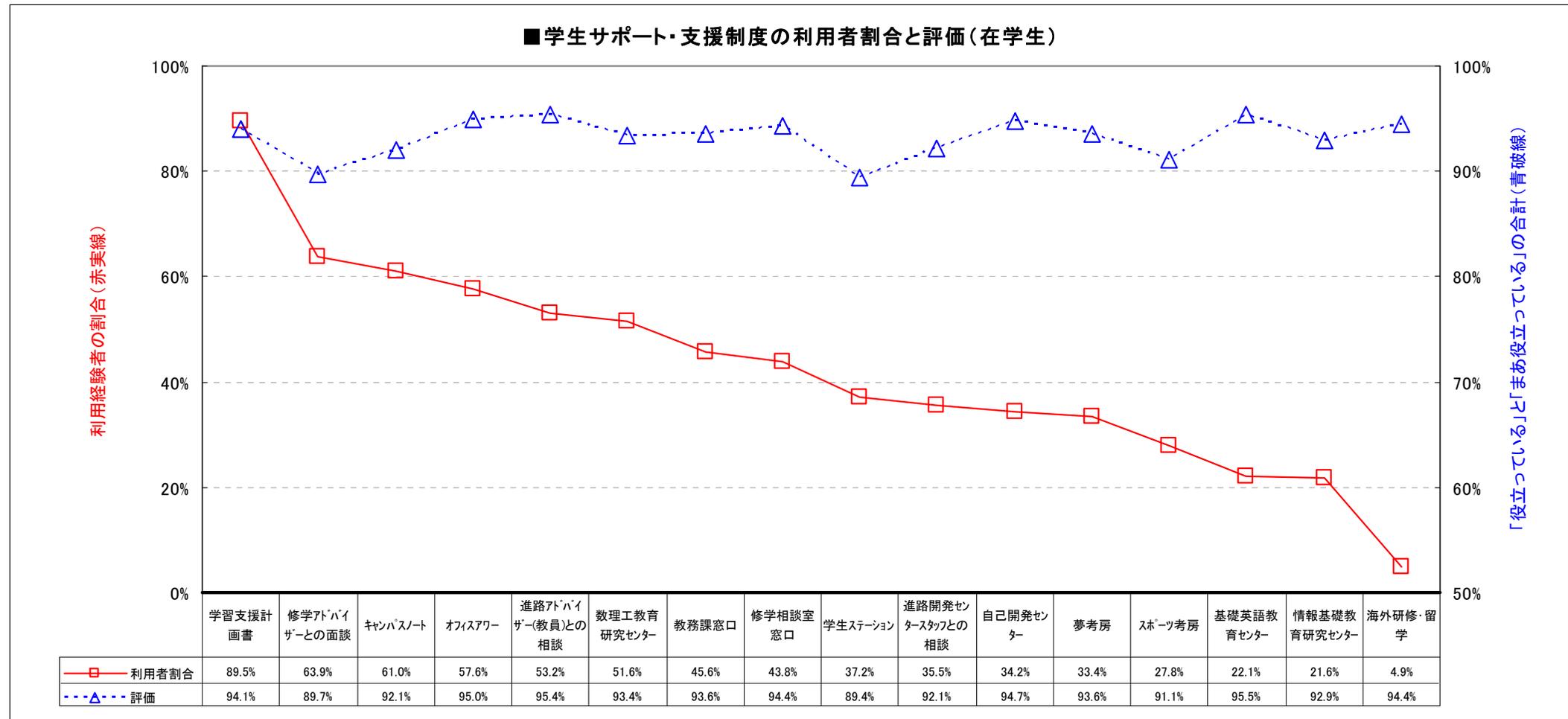
■ 学生サポート・支援制度の評価(在学生)



<5-5> 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価

■ 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価の比較

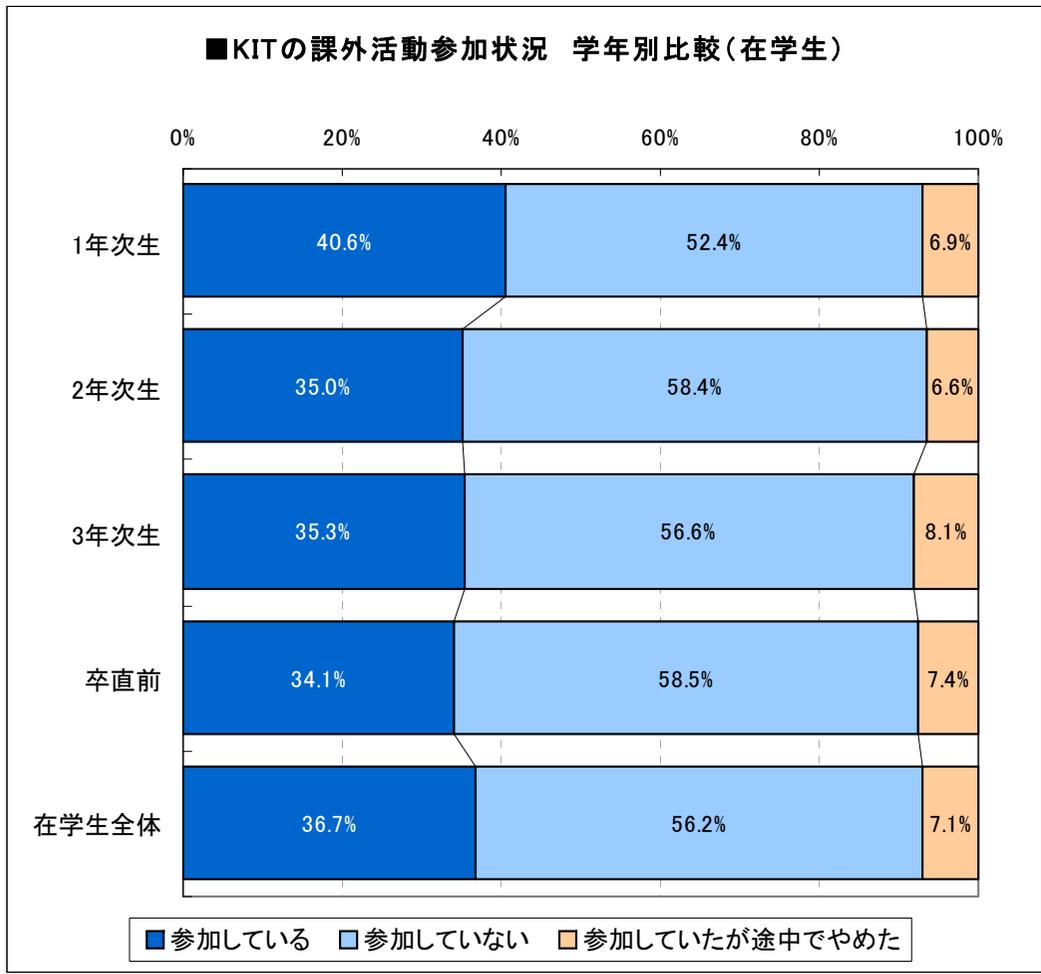
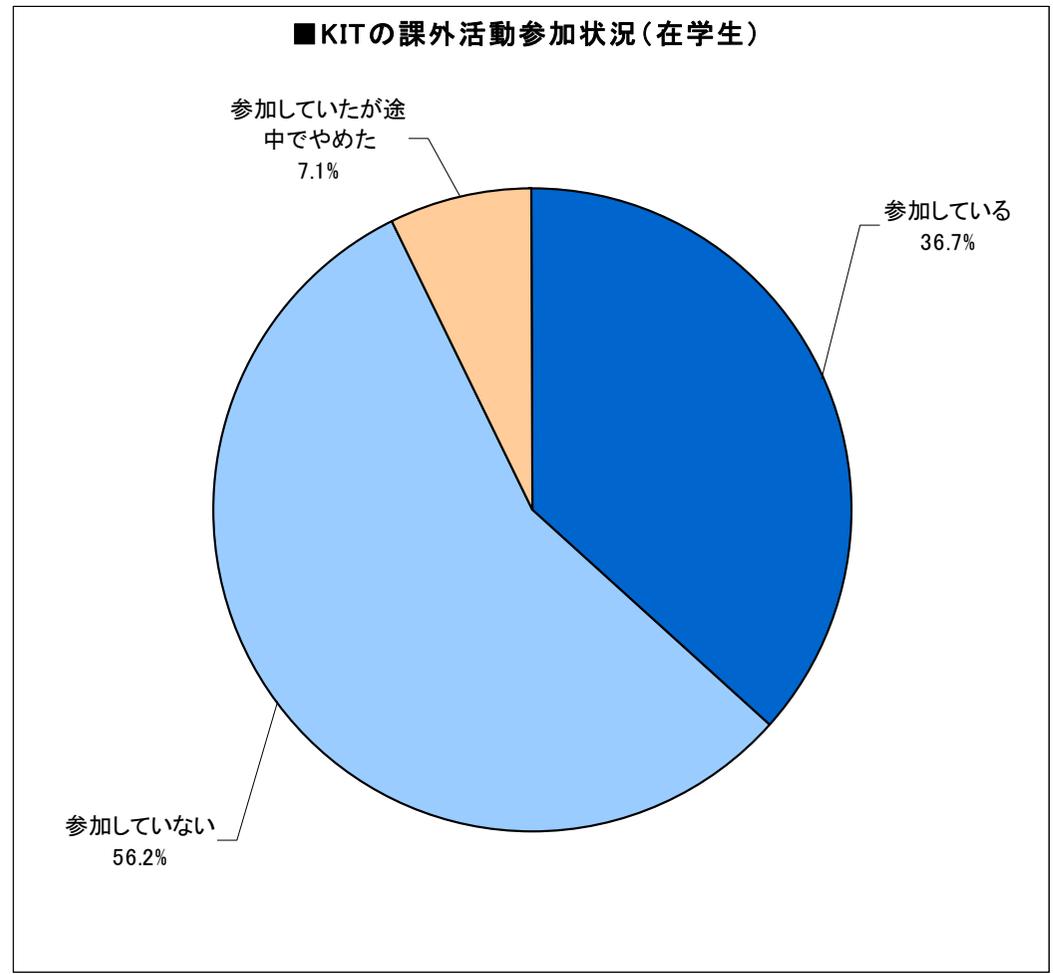
- 学生サポート・支援制度の利用経験者の割合と内容評価をまとめると、下記のグラフのようになる。赤い実線が利用経験者の割合で、グラフの左側の数値軸に対応しており、青い破線は「役立っている」と「まあ役立っている」の合計で、右の数値軸に対応している。
- 利用経験者の割合は「学習支援計画書」の89.5%から「海外研修・留学」の4.9%まで大きな差が見られたが、評価に関してはほとんどの項目で9割以上が役に立っていると回答されており、利用者が多いかどうかにかわらず、全体的に高い評価になっていることがわかる。



<6-1> 課外活動への参加状況

■ 課外活動への参加状況、学年別比較

- 課外活動に関する設問群は今回から追加したものである。
- 最初に、在学生に対して「KITの課外活動参加状況」を聞いたところ、36.7%が「参加している」、56.2%が「参加していない」、7.1%が「参加していたが途中でやめた」と答えていた。
- 学年別に比較をしたところ、それほど大きな差は見られず、「参加している」の割合は「1年次生」で40.6%とやや多く、次いで、「3年次生」が35.3%、「2年次生」が35.0%、「卒直前」が34.1%となっており、差は最大でも6.5ポイントであった。そして、「参加していない」「参加していたが途中でやめた」についても、学年による大きな差はいずれも見られなかった。



<6-2> 課外活動の内容

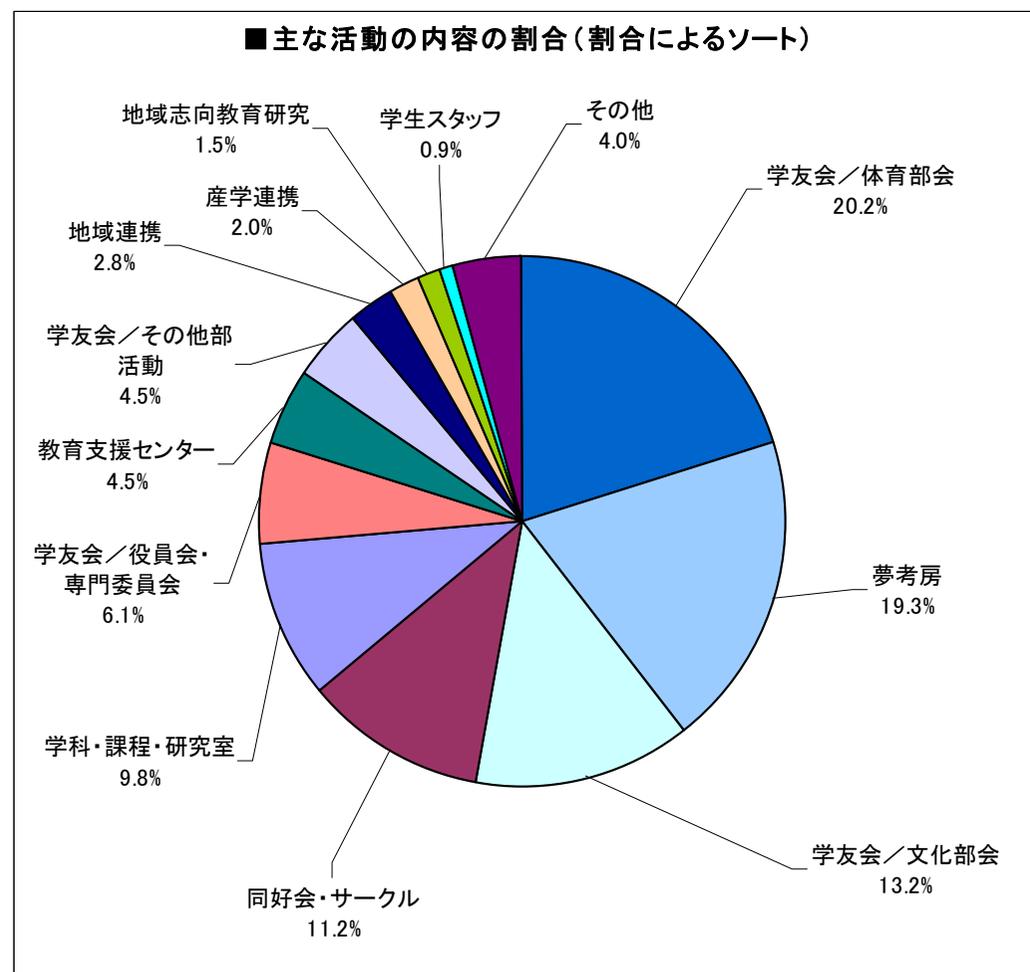
■ 課外活動への参加状況

- 主な活動の内容を自由記述で聞いているが、それを内容によって分類したところ下記のようになった。前出の通り「参加している」割合は36.7%であり、人数にすると1,614人であったが、具体的に記入があったのは1,581人であった。
- 表は自由記述で記入されたものを「KITの課外活動」で定められているものに当てはめたものであり、「その他」には「部活」「同好会活動」など、具体的な記入がなかったものなどが含まれている。
- 最も多かった活動は「学友会／体育部会」の20.2%であった。そして、「夢考房」が19.3%、「学友会／文化部会」が13.2%、「同好会・サークル」が11.2%で続いていた。

■ 主な活動の内容(自由記述を分類)

プログラム		回答者数	割合
学科・課程・研究室		155	9.8%
教育支援センター		71	4.5%
産学連携		31	2.0%
地域連携		44	2.8%
夢考房		305	19.3%
学友会	役員会・専門委員会	97	6.1%
	体育部会	320	20.2%
	文化部会	208	13.2%
	その他部活動	71	4.5%
地域志向教育研究		24	1.5%
学生スタッフ		14	0.9%
同好会・サークル		177	11.2%
その他		64	4.0%
総計		1,581	100.0%

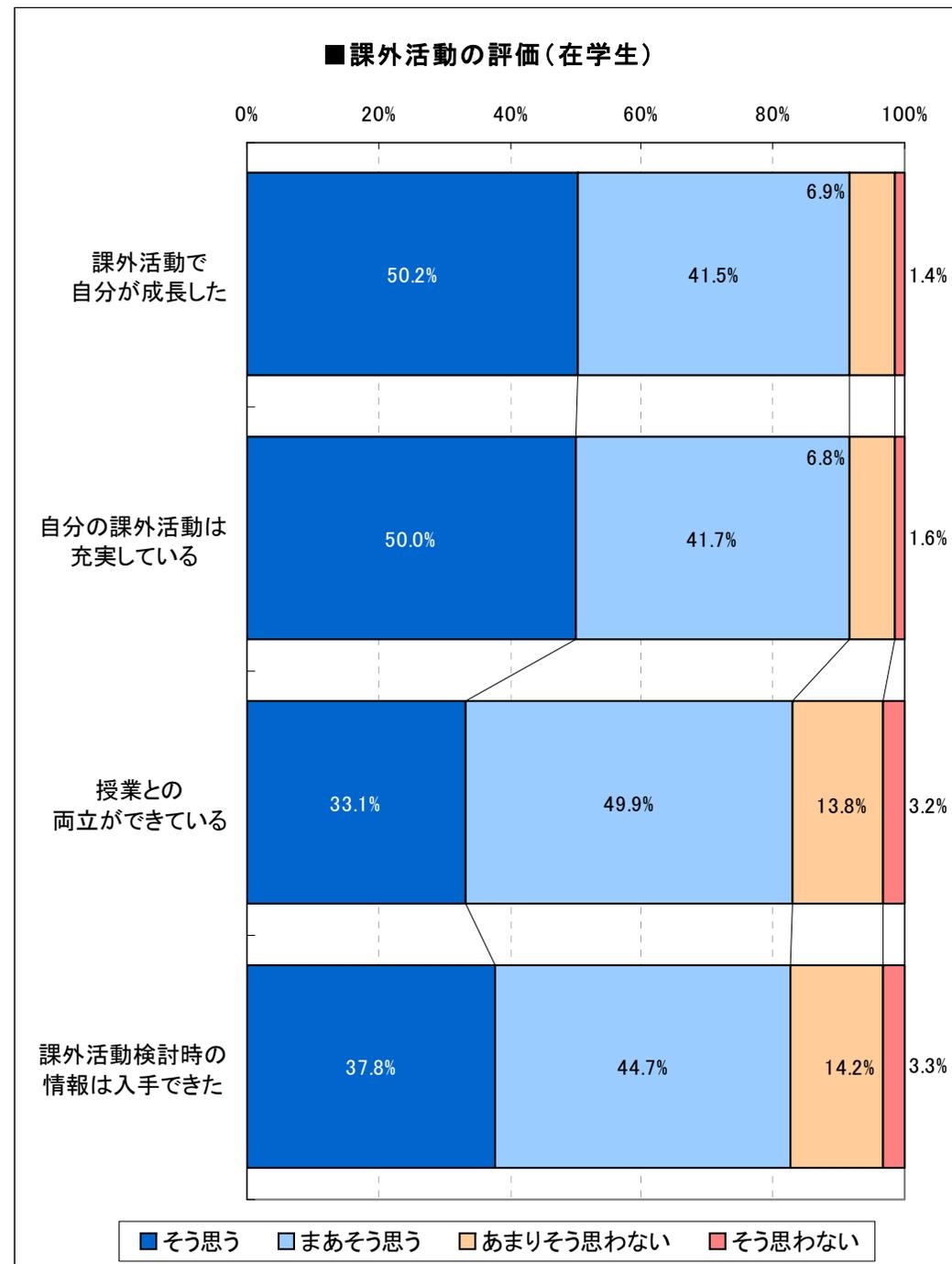
■ 主な活動の内容の割合(割合によるソート)



<6-3> 課外活動の評価

■ 課外活動の評価

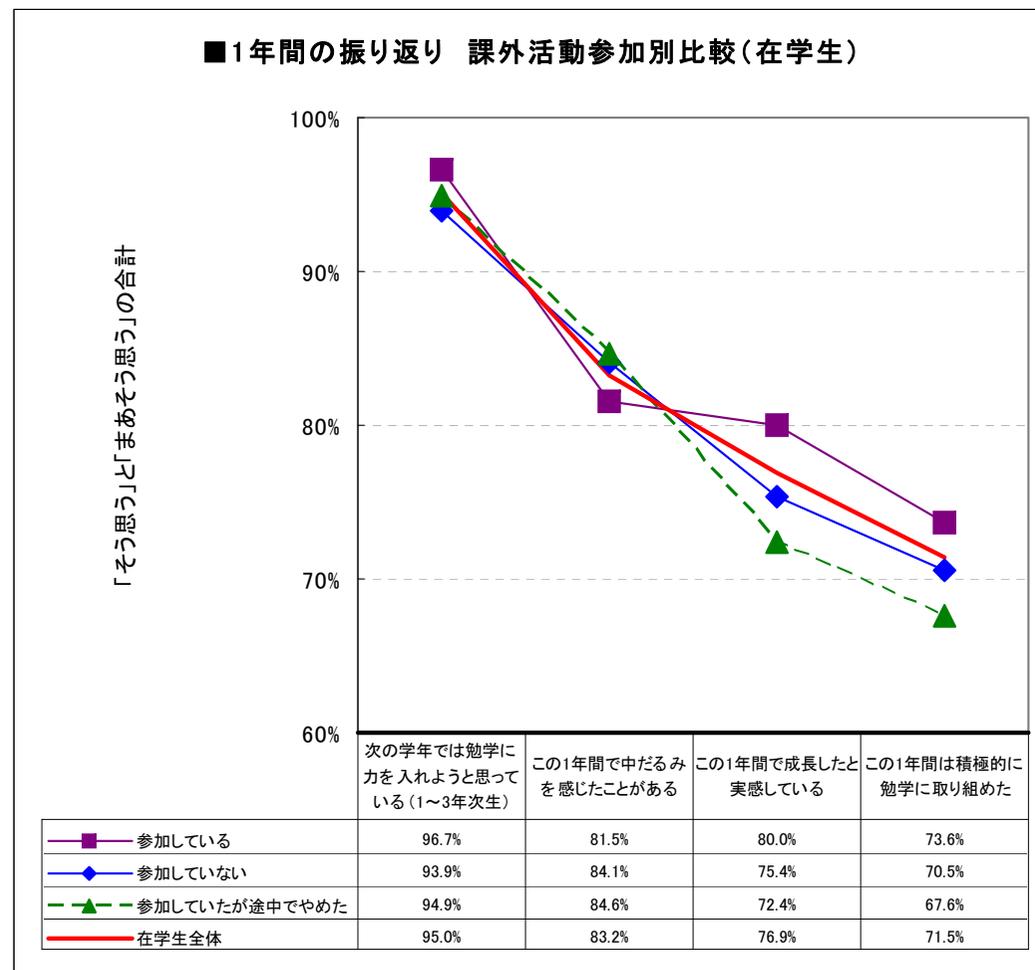
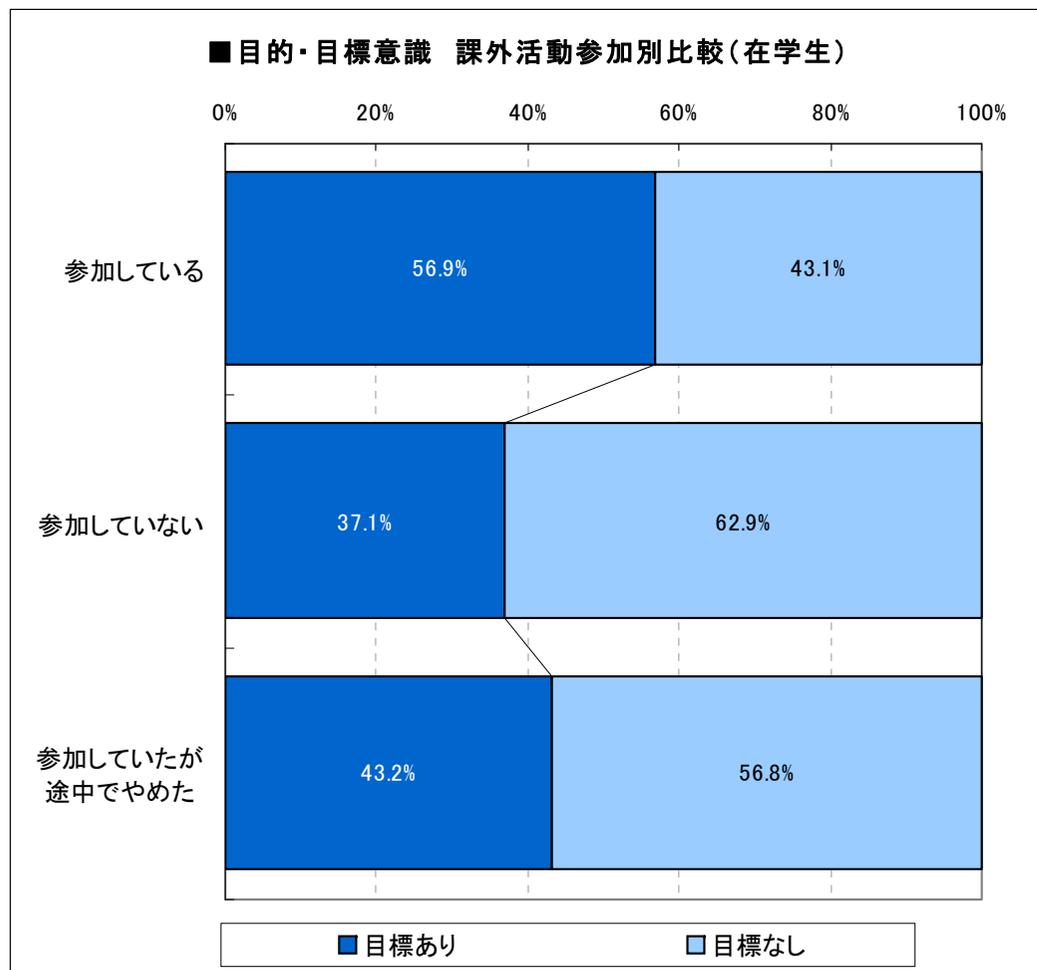
- 「課外活動に参加している」と答えた学生に、活動内容の評価を聞いたところ、全ての項目で高い評価となっていた。
- 「課外活動で自分が成長した」という質問には「そう思う」が50.2%、「まあそう思う」が41.5%であり、合わせると91.7%が肯定的な意見となっていた。また、「自分の課外活動は充実している」も91.7%が肯定的な意見であり、9割以上の学生が充実した課外活動を行っていることがわかった。
- 「授業との両立ができている」では83.0%、「課外活動検討時の情報は入手できた」では82.5%が肯定的な意見となっており、大きな問題はなさそうであったが、「授業との両立ができている」で「そう思う」という回答が33.1%とやや少ない点が気になった。



<6-4> 課外活動と他の主要指標との関係

■目的・目標意識 1年間の振り返りとの関係

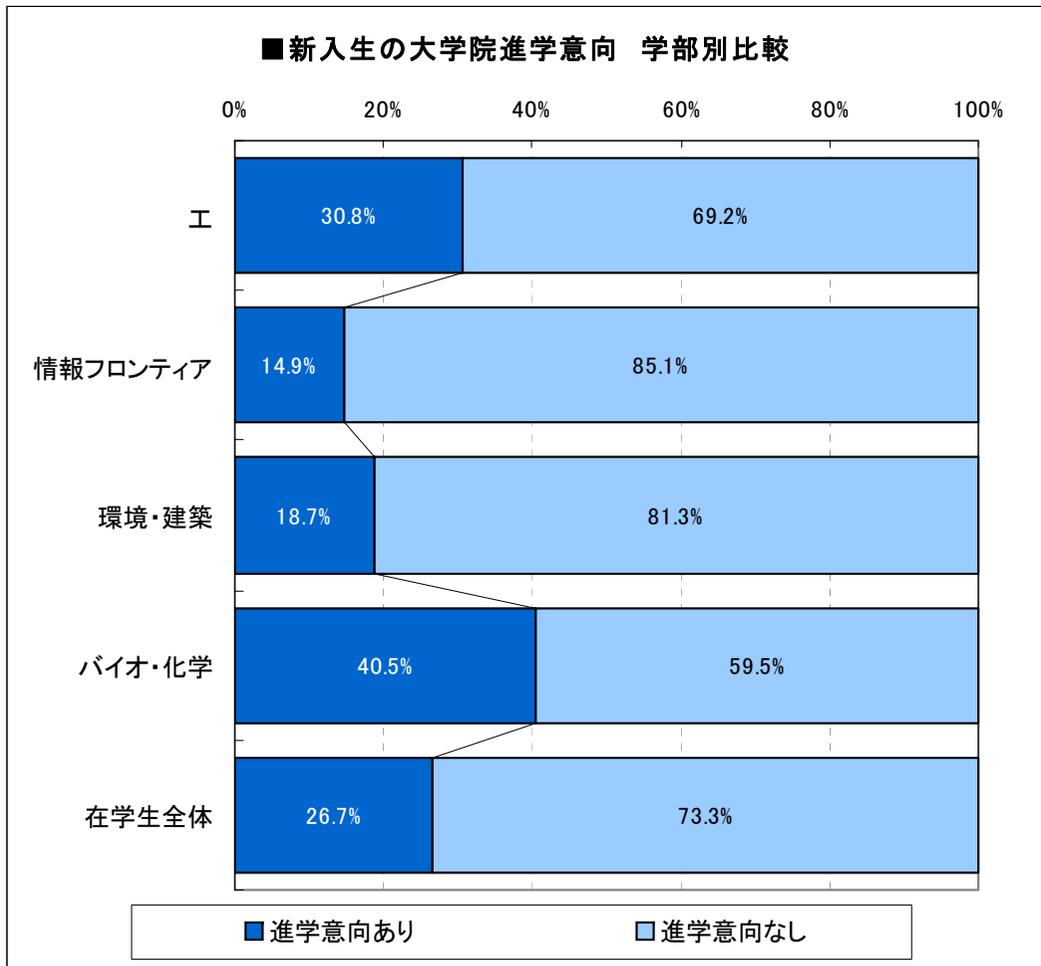
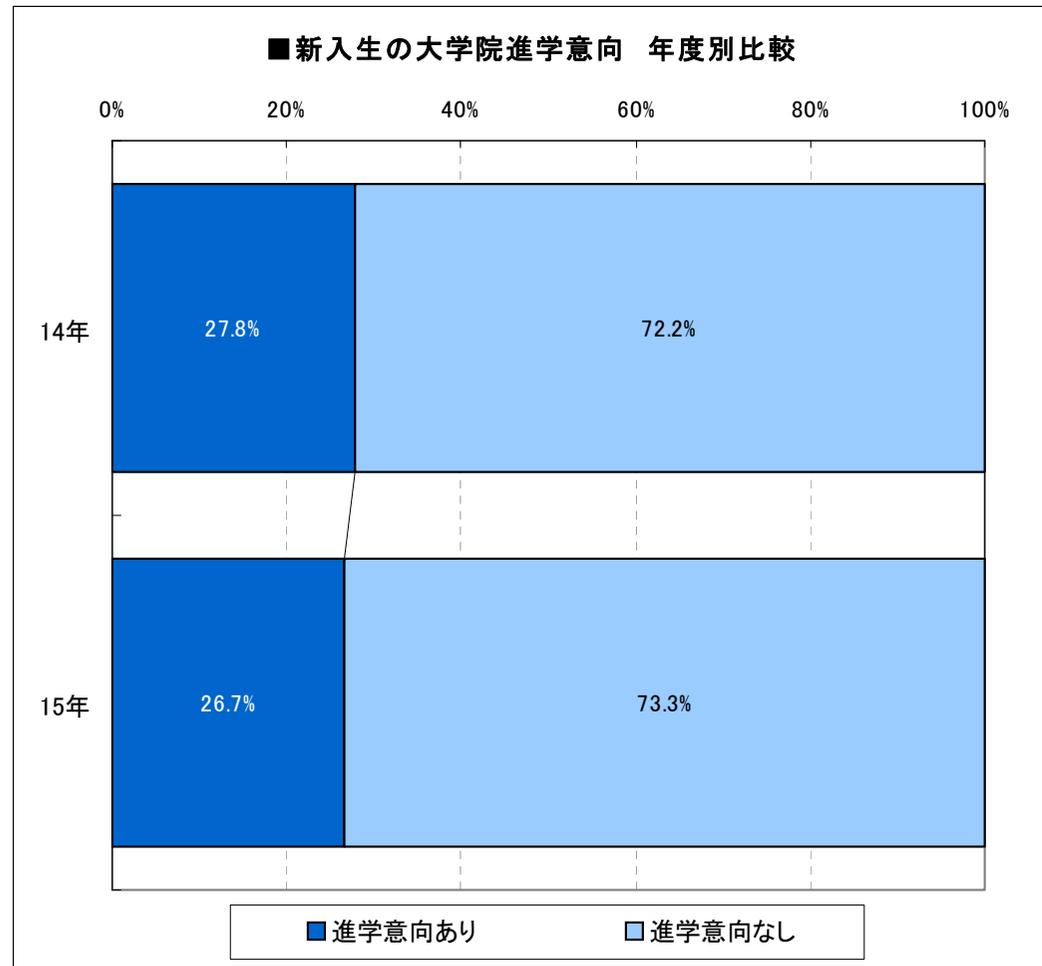
- 課外活動の参加状況の違いによって、学生の考え方や行動にどのような差があるのかを確認した。
- 最初に「目的・目標意識」との差を見たところ、課外活動に「参加している」という学生の56.9%は「目標あり」と答えており、「参加していない」学生の37.1%と比べると19.8ポイントの差が見られた。そして、「参加していたが途中でやめた」という学生は中間の43.2%となっていた。
- 「1年間の振り返り」との関係を見ると、「この1年間で成長したと実感している」と「この1年間は積極的に勉学に取り組めた」では明確な差がついており、「参加している」という学生は勉学の面でも最も充実しており、「参加していたが途中でやめた」という学生の充実度が最も低かった。
- また、差は少ないものの、「参加している」と答えた学生は「次の学年では勉学に力を入れようと思っている」が高く、「この1年間で中だるみを感じたことがある」が低くなっており、充実した1年間で過ごしつつ次の年への積極性も持っているという、好循環が見られた。



<7-1>大学院への進学意向

■新入生の大学院進学意向

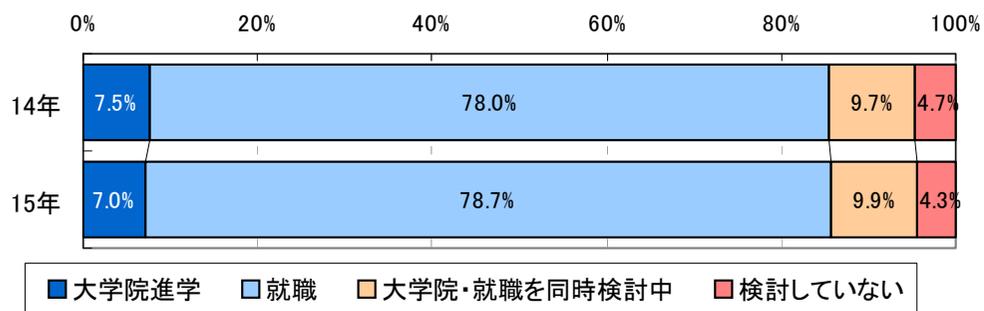
- 新入生に対する大学院への進学意向の質問は今回で2年目となるが、今回は「進学意向あり」は26.7%となり、前回は1.1ポイント下回った。
- 学部別に比較すると、「バイオ・化学」で40.5%が「進学意向あり」と答えており、非常に高かった。次いで、「工」が30.8%、「環境・建築」が18.7%、「情報フロンティア」が14.9%となり、「バイオ・化学」と「情報フロンティア」との差は25.6ポイントとなっていた。



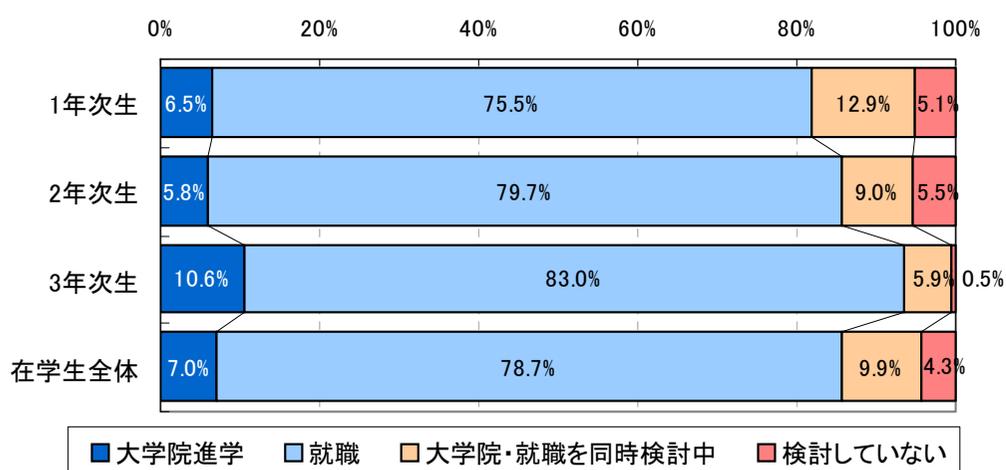
■1～3年次生の大学院進学・就職意向

- 1～3年次生には14年より4択で大学院進学意向を聞いているが、今回、「在学生全体」で見ると「就職」が78.7%であり、「大学院・就職を同時検討中」が9.9%、「大学院進学」が7.0%であり、「検討していない」が4.3%となっていた。前回と比較すると、目立つ差は見られなかった。
- 学年別の比較で目立っていたのは「大学院・就職を同時検討中」の変化であり、「1年次生」の段階では12.9%であったが、「2年次生」で9.0%、「3年次生」で5.9%と減少してきており、学年が進むにつれて進路が決まってきた様子がうかがえる。
- 学部別の比較では、「情報・情報フロンティア」と「環境・建築」で「就職」の割合が多く、「工」と「バイオ・化学」で「大学院・就職を同時検討中」が多くなっていた。また、「バイオ・化学」では「大学院進学」が10.2%と最も多く、学部の特徴がうかがえた。

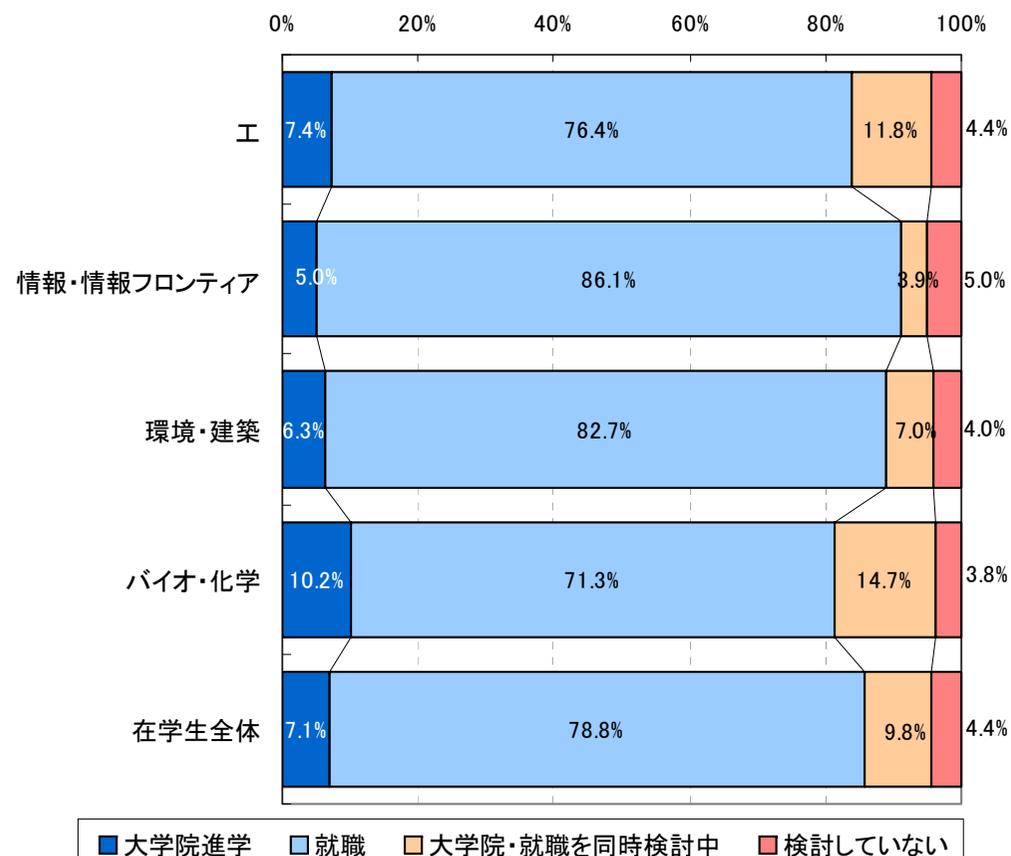
■1～3年次生の大学院進学・就職意向 年度別比較



■1～3年次生の大学院進学・就職意向 学年別比較

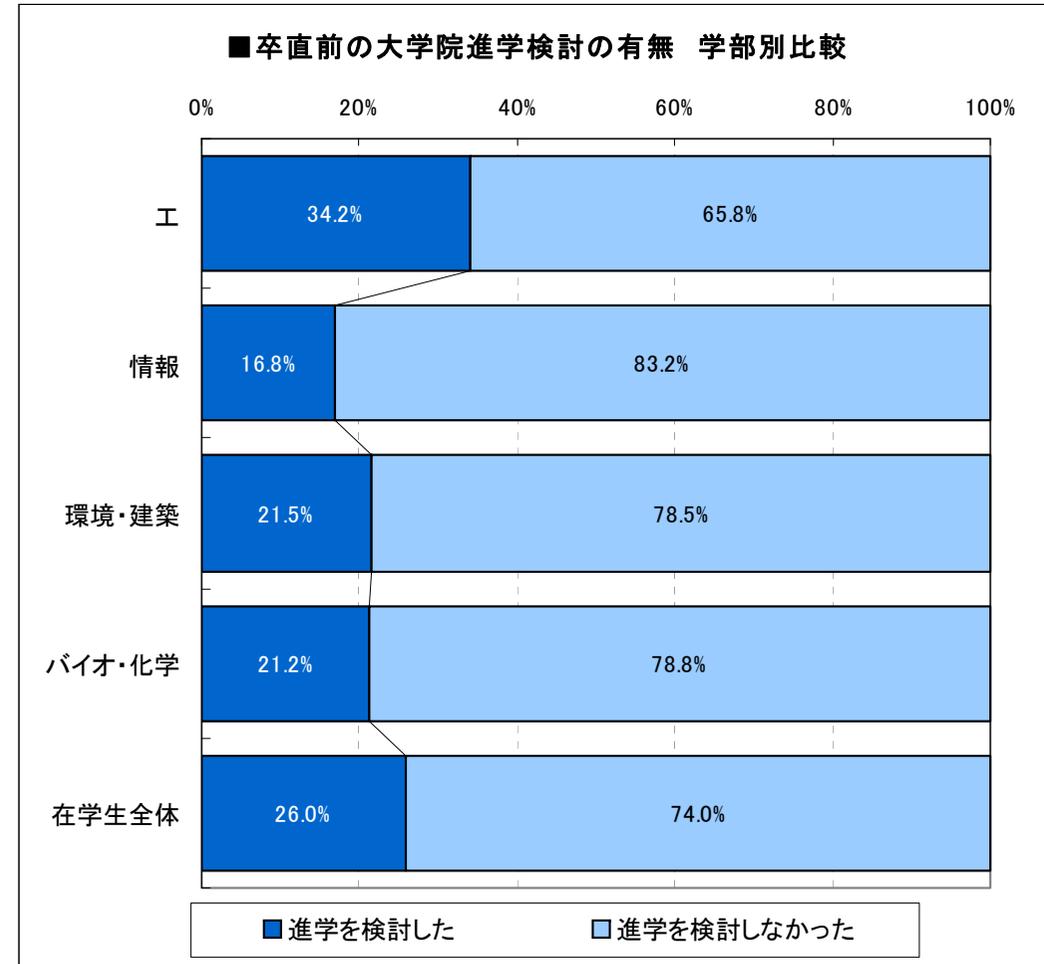
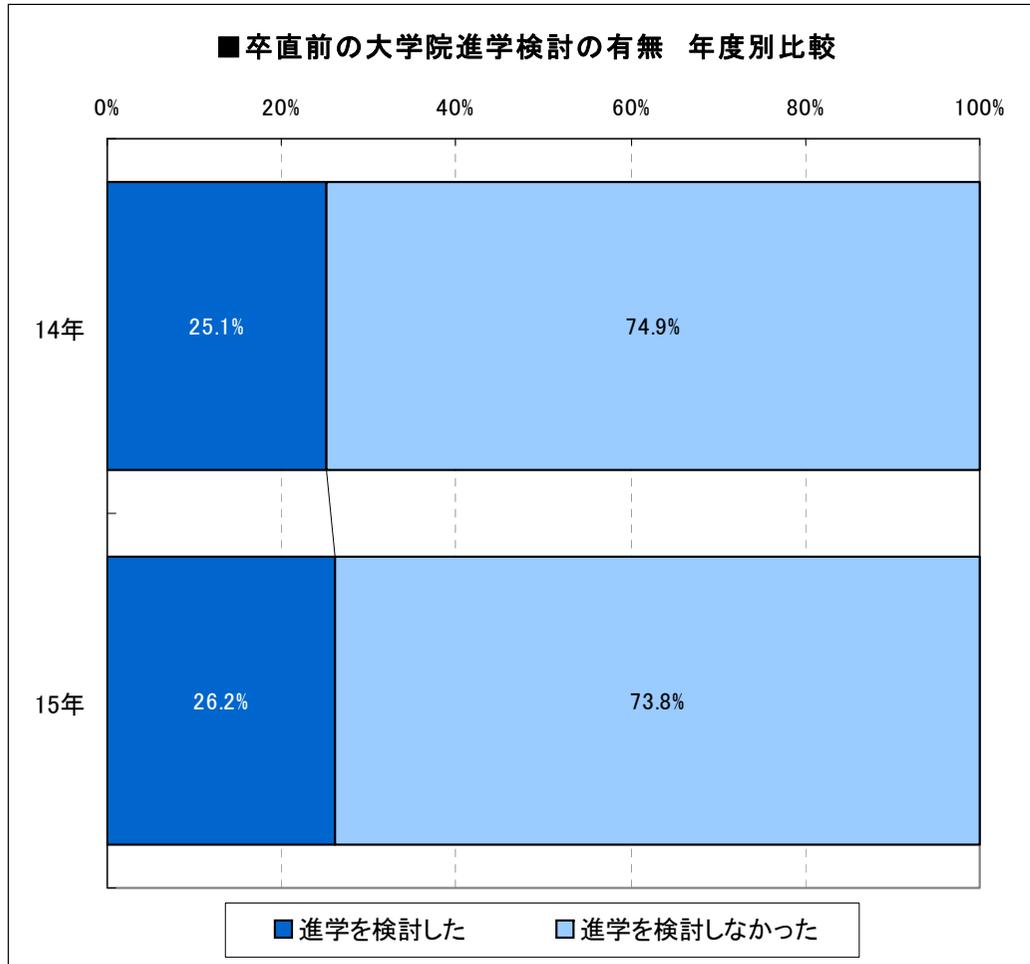


■1～3年次生の大学院進学・就職意向 学部別比較



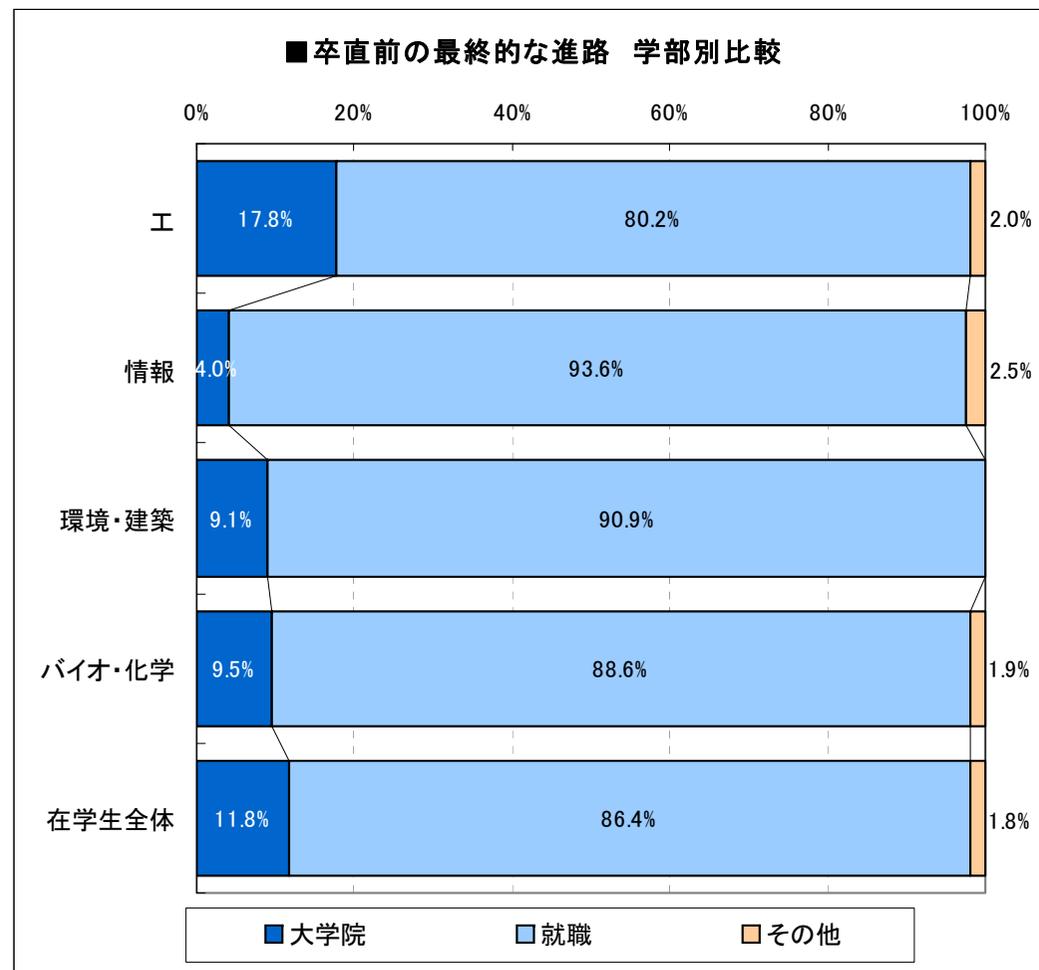
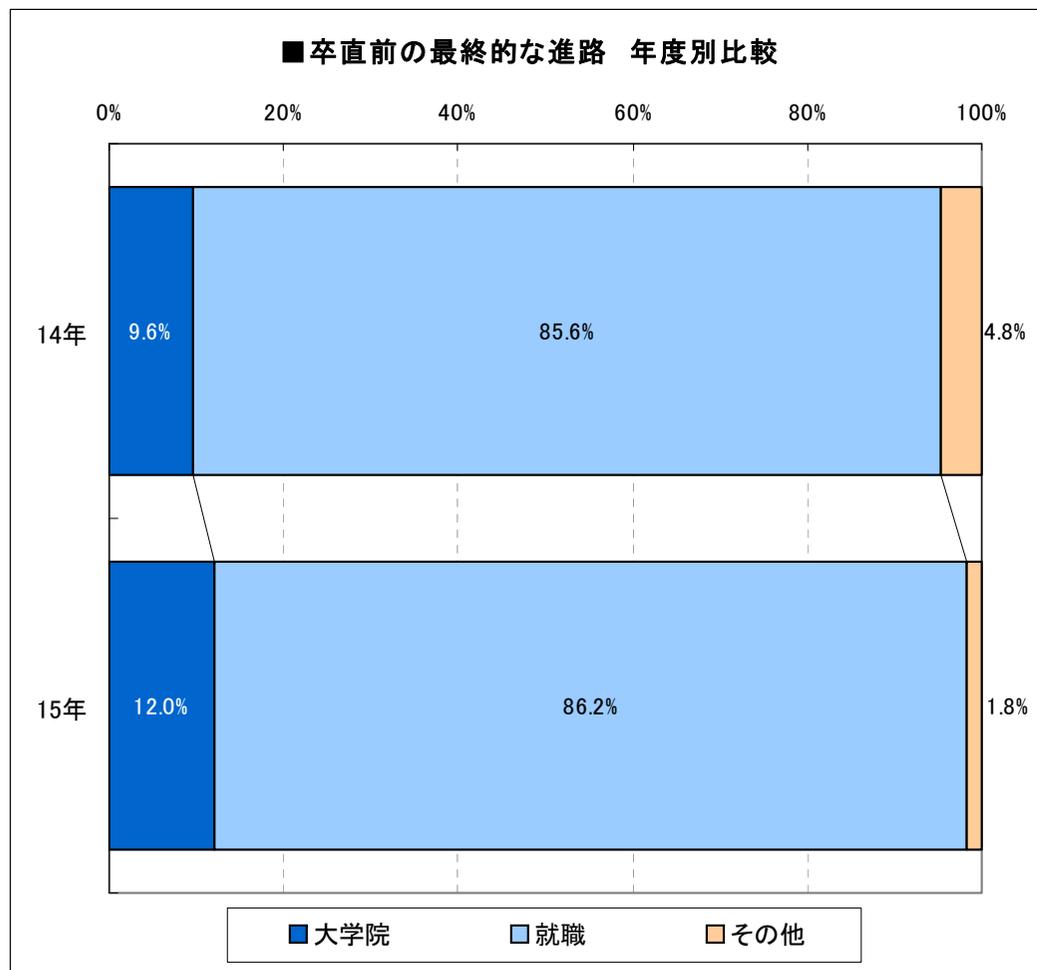
■ 卒直前の大学院進学検討の有無

- 「卒直前」には「大学院への進学を検討しましたか？」という質問の仕方をしている。今回は「進学を検討した」が26.2%で、前回は1.1ポイント上回っており、大きな変化はなかった。そして、「進学を検討しなかった」は73.8%となっていた。
- 学部別に比較したところ、「工」で「進学を検討した」が34.2%であり、「在学生全体」を8.2ポイント上回り、進学意欲の強さが見られた。そして、「情報」では「進学を検討した」が16.8%とやや少なめであり、「環境・建築」と「バイオ・化学」はほぼ同じであった。
- 前項の1～3年次の大学院進学意向を見ると、「バイオ・化学」がやや高めであったが、「卒直前」では「工」が非常に高くなっており、1年間での意識の変化がうかがえる結果となっていた。



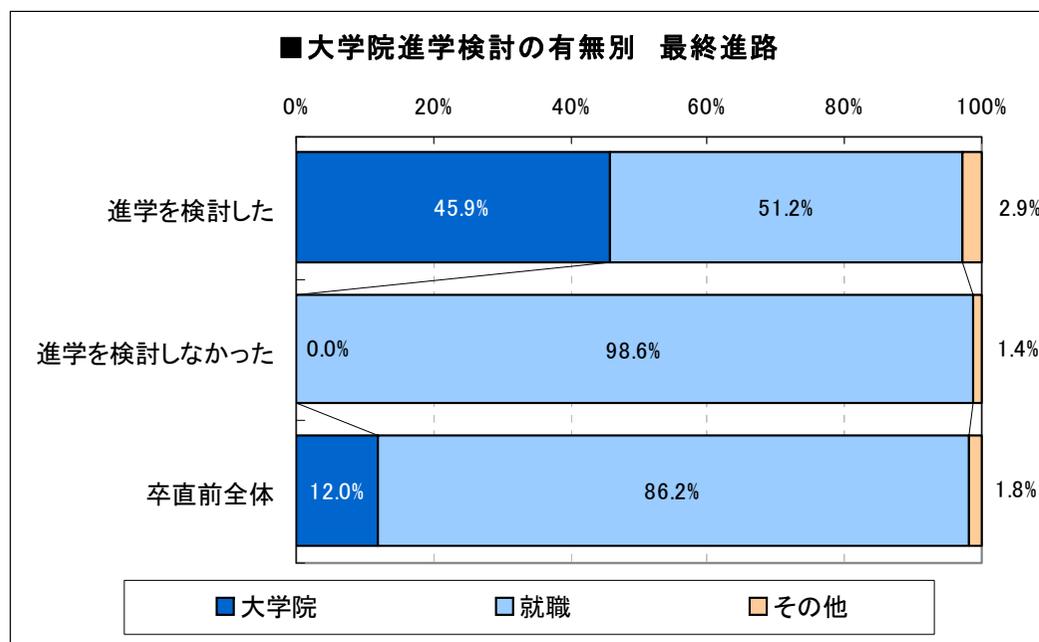
■ 卒直前の最終的な進路

- 「卒直前」に「最終的な進路」を聞いているが、「就職」が86.2%と最も多く、「大学院」が12.0%、「その他」が1.8%となっていた。前回と比較すると「大学院」が2.4ポイント増加し、「就職」が0.6ポイント増加、「その他」が3.0ポイント減少という結果になっていた。
- 学部別に比較すると、「大学院」は「工」が17.8%と最も多く、「情報」が4.0%で最も少なかった。そして、「環境・建築」と「バイオ・化学」はほぼ同じとなっており、前項の「大学院進学検討の有無」と一致する結果となっていた。
- 「工」で前項の結果と合わせて見ると、大学院に関して「進学を検討した」は34.2%、「大学院に進学した」が17.8%であり、検討した学生のほぼ半数が進学に至っているという結果となっており、「環境・建築」「バイオ・化学」を見てもほぼ半数で、似た傾向となっていた。一方、「情報」では、「検討」の16.8%に対して「進学」は4.0%で、やや少ない傾向となっていた。



■大学院進学検討の有無別の最終進路比較

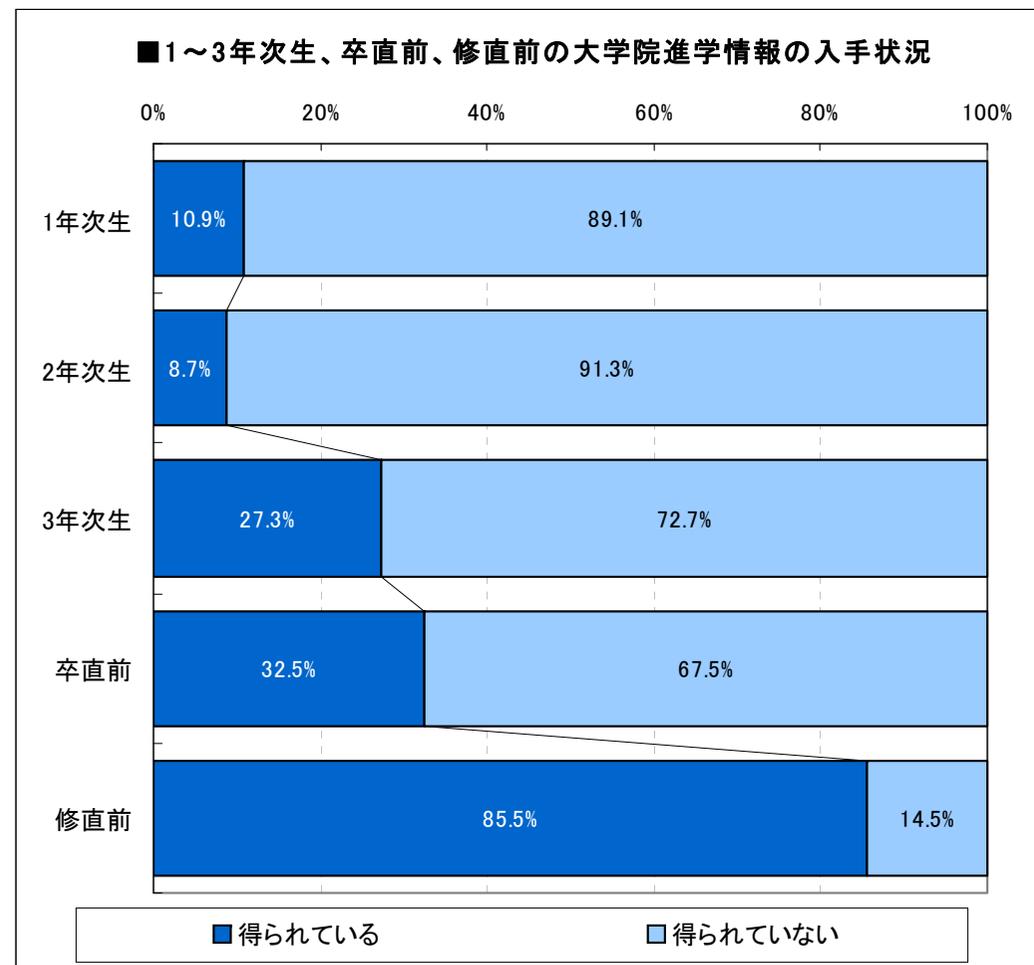
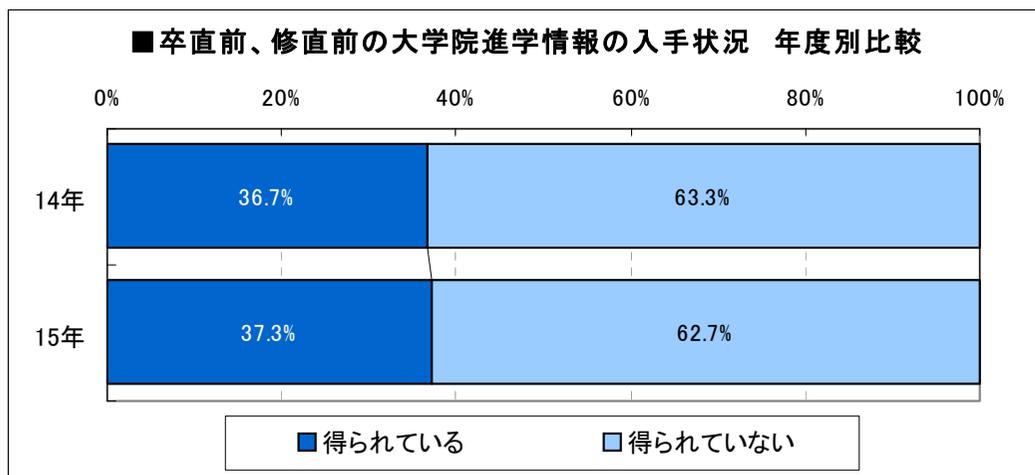
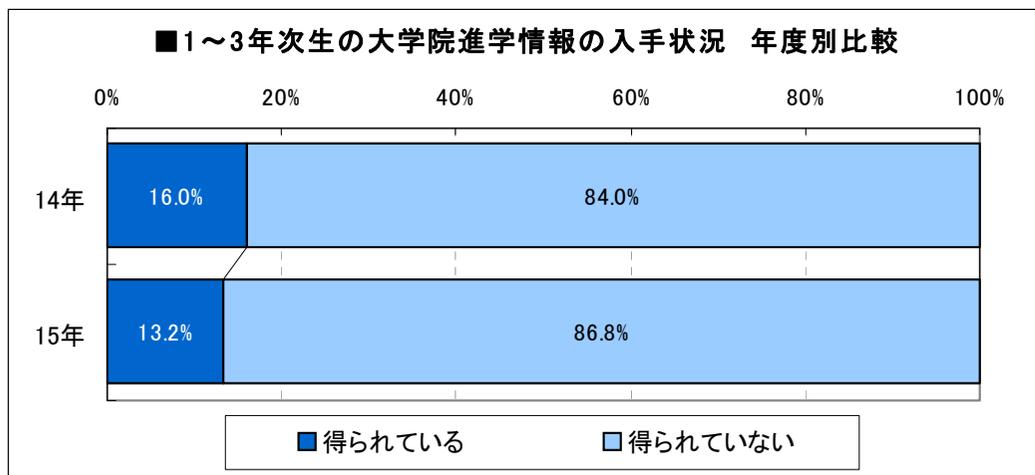
- 「卒直前」の「大学院進学検討の有無」の違い別に「最終進路」を見た。大学院進学を検討した学生の45.9%が大学院に進学し、51.2%が就職しており、前項で見た「ほぼ半数」というところで一致していた。
- 一方、大学院進学を検討しなかった学生は全員が就職を選択していた。



<7-2> 大学院進学への情報入手状況

■ 1～3年次生の大学院進学情報の入手状況

- 「大学院進学への情報は得られていますか？」という質問は、「1～3年次生」と「卒直前・修直前」は異なる形式で聞いているため、年度別の比較は別々の集計としている。
- 「1～3年次生」では、「得られている」が13.2%で前回より2.8ポイント低下していた。そして、「卒直前・修直前」では「得られている」が37.3%で、こちらは前回は0.6ポイント上回っていた。
- 学年別比較は、1つのグラフにまとめている。「得られている」の割合は「1年次生」と「2年次生」では1割程度、「3年次生」で27.3%、「卒直前」で32.5%と徐々に増加していた。そして、最終的に大学院に進学している「修直前」では85.5%となっており、14.5%が「得られていない」と答えていた。



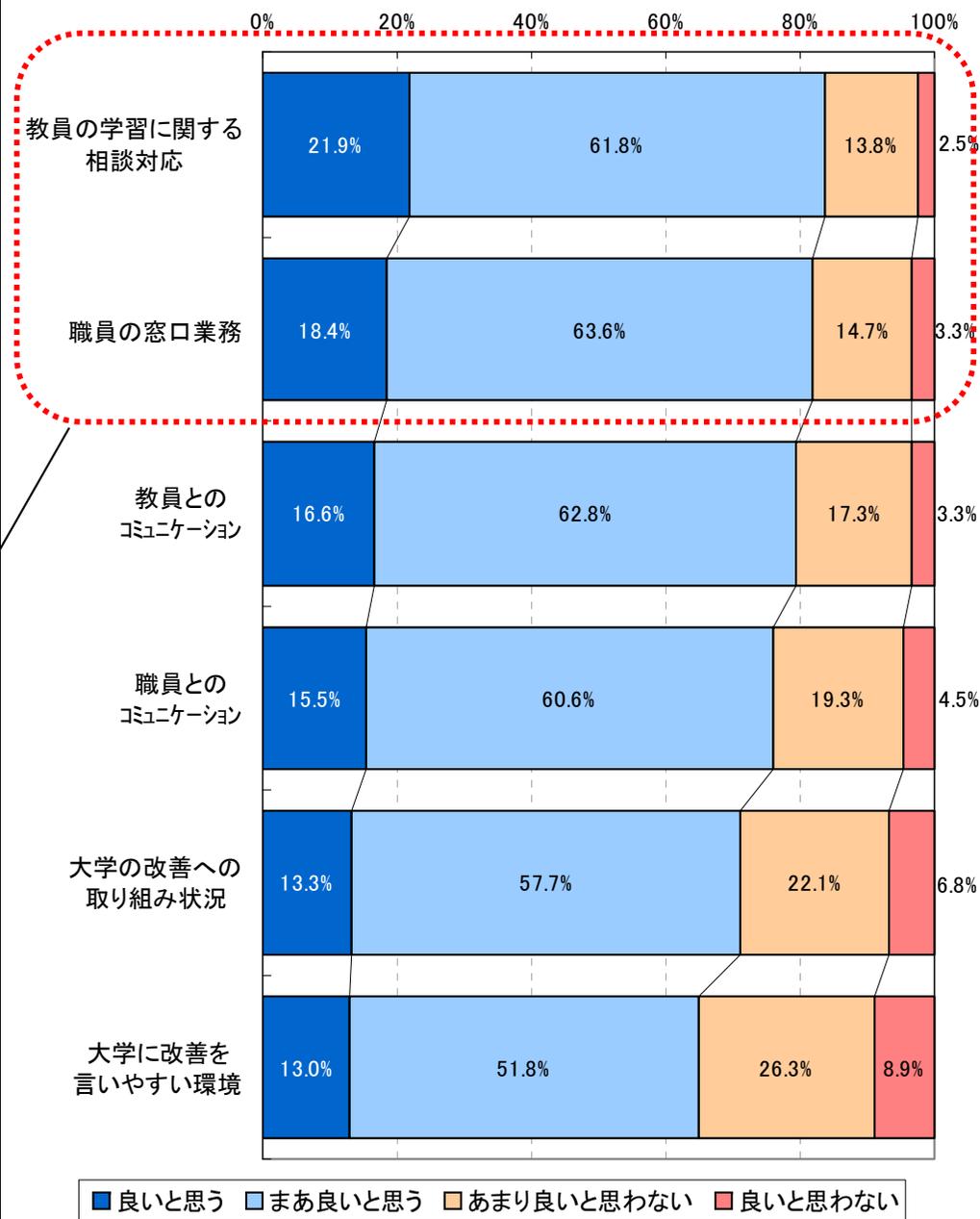
<8-1>教職員と大学の改善取り組み状況の評価

■教職員と大学の改善取り組み状況の評価

- 教職員と大学の改善への取り組み状況の評価で、肯定的な意見が最も多かったのは「教員の学習に関する相談対応」であり、83.7%が良いという意見となっていた。次いで、「職員の窓口業務」が82.0%であり、この2項目では肯定的な意見が8割を超えていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「大学に改善を言いやすい環境」であり、肯定的な意見は64.8%であった。そして、「大学の改善への取り組み状況」が71.0%と続いていた。
- 教職員とのコミュニケーションに関しては、「教員とのコミュニケーション」で肯定的な意見が79.4%、「職員とのコミュニケーション」が76.1%となっており、わずかではあるが教員とのコミュニケーションの方が良好なようであった。

良い評価が
8割以上

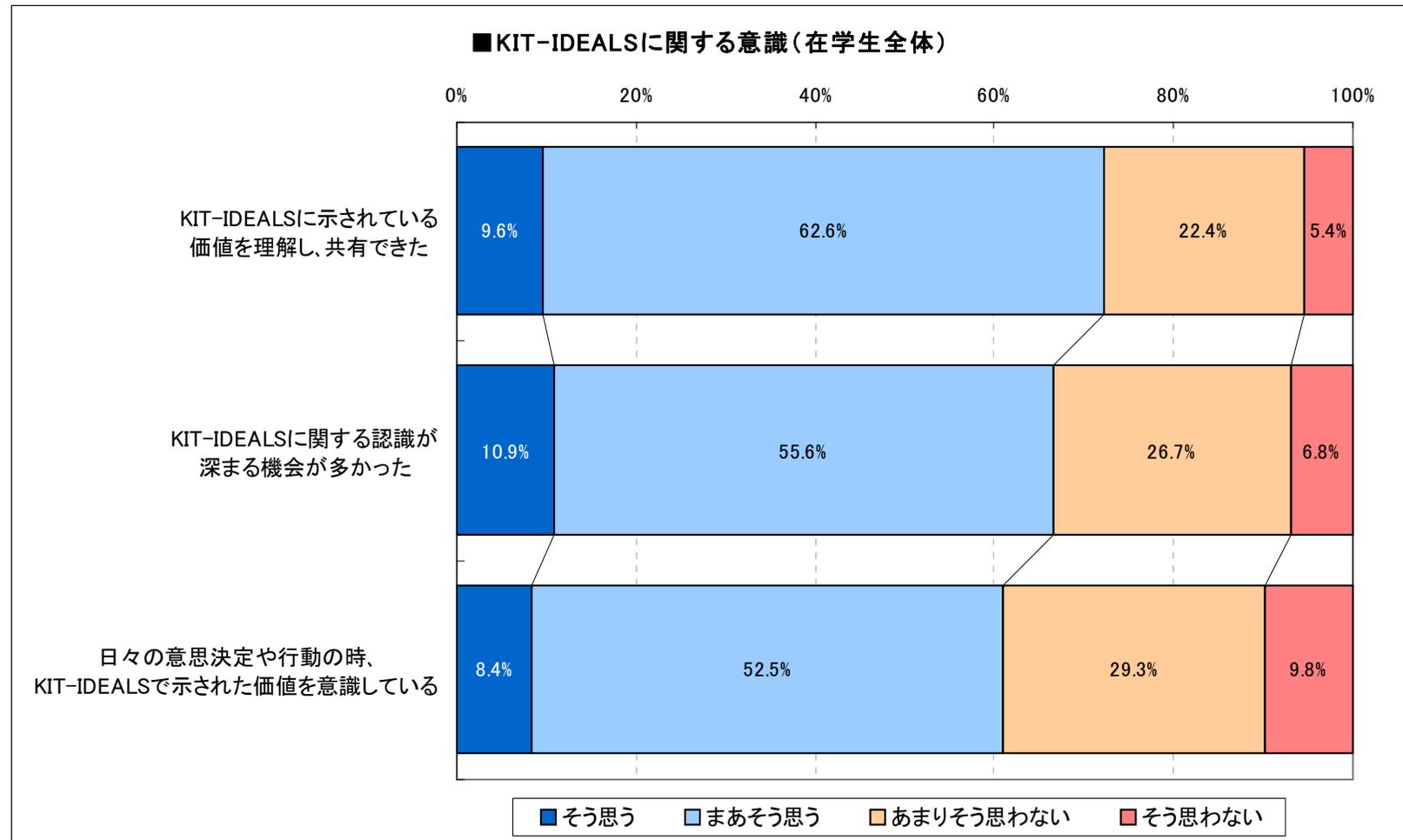
■教職員と大学の改善取り組み状況の評価（在学生全体）



<9-1> KIT-IDEALSに関する意識

■KIT-IDEALSに関する意識

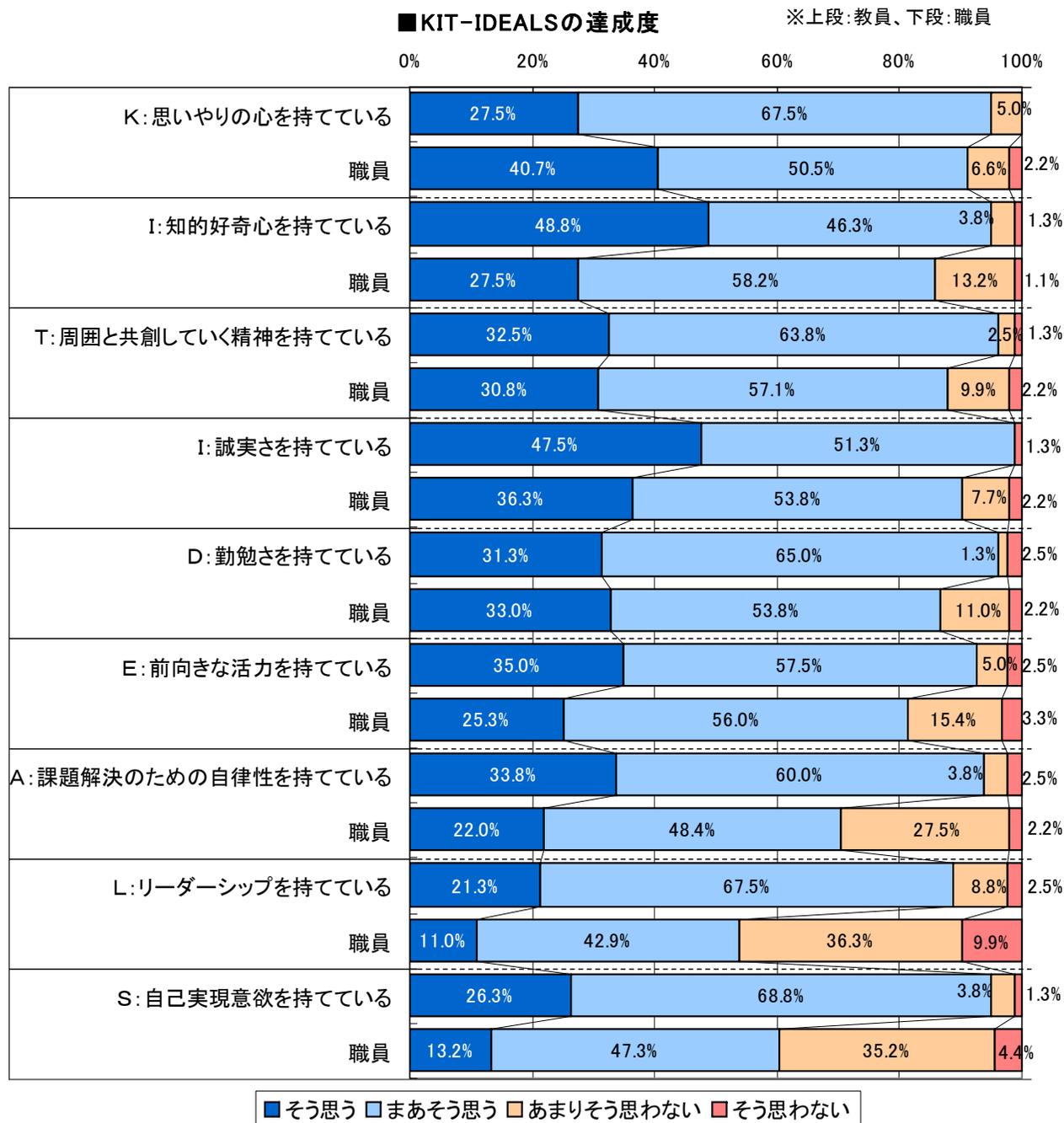
- 「KIT-IDEALSに示されている価値を理解し、共有できた」では「まあそう思う」が62.6%と多かったものの、肯定的な意見の合計は72.2%となっていた。
- 次いで、「KIT-IDEALSに関する認識が深まる機会が多かった」では66.5%、「日々の意思決定や行動の時、KIT-IDEALSで示された価値を意識している」では60.9%が肯定的な意見となっていた。



<9-2>教職員のKIT-IDEALSの達成度

■教職員のKIT-IDEALSの達成度

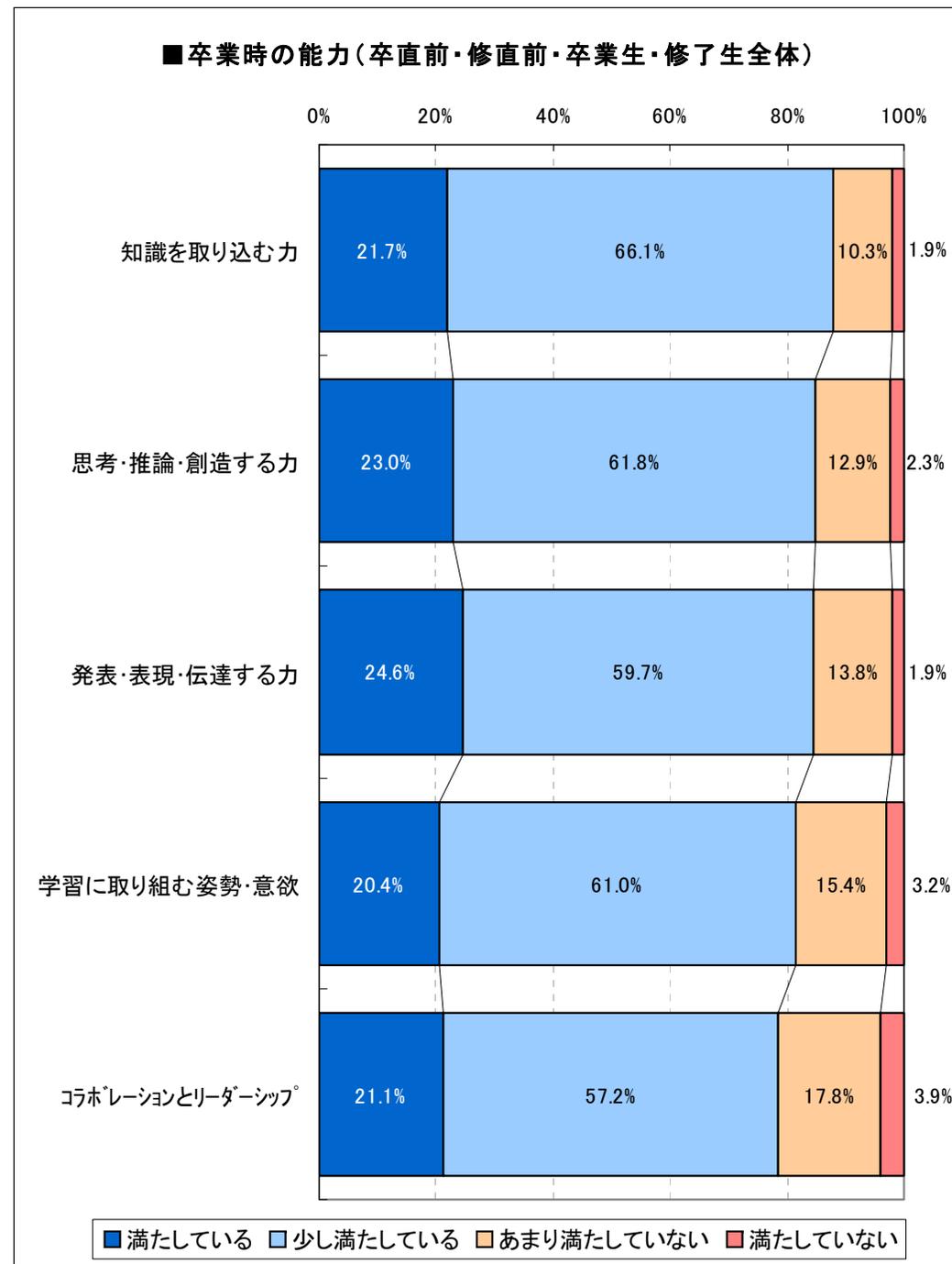
- 「教員」と「職員」には「KIT-IDEALS」の達成度を聞いている。
- 「教員」は全体的に肯定的な意見が多く、「L:リーダーシップを持てている」だけは肯定的な意見が9割をわずかに下回っていたが、その他の項目は9割以上が肯定的な意見であった。中でも「I:知的好奇心を持てている」と「I:誠実さを持てている」では「そう思う」という回答だけを見ても5割に近く、しっかりと達成できていると感じている教員も多いようであった。
- 「職員」はやや低いものが見られ、肯定的な意見の合計で見ると、「L:リーダーシップを持てている」「S:自己実現意欲を持てている」「A:課題解決のための自律性を持てている」の低さが目立っていた。また、全項目で「教員」の達成度を下回っていた。



<10-1>卒業時の能力

■卒業時の能力の属性別比較

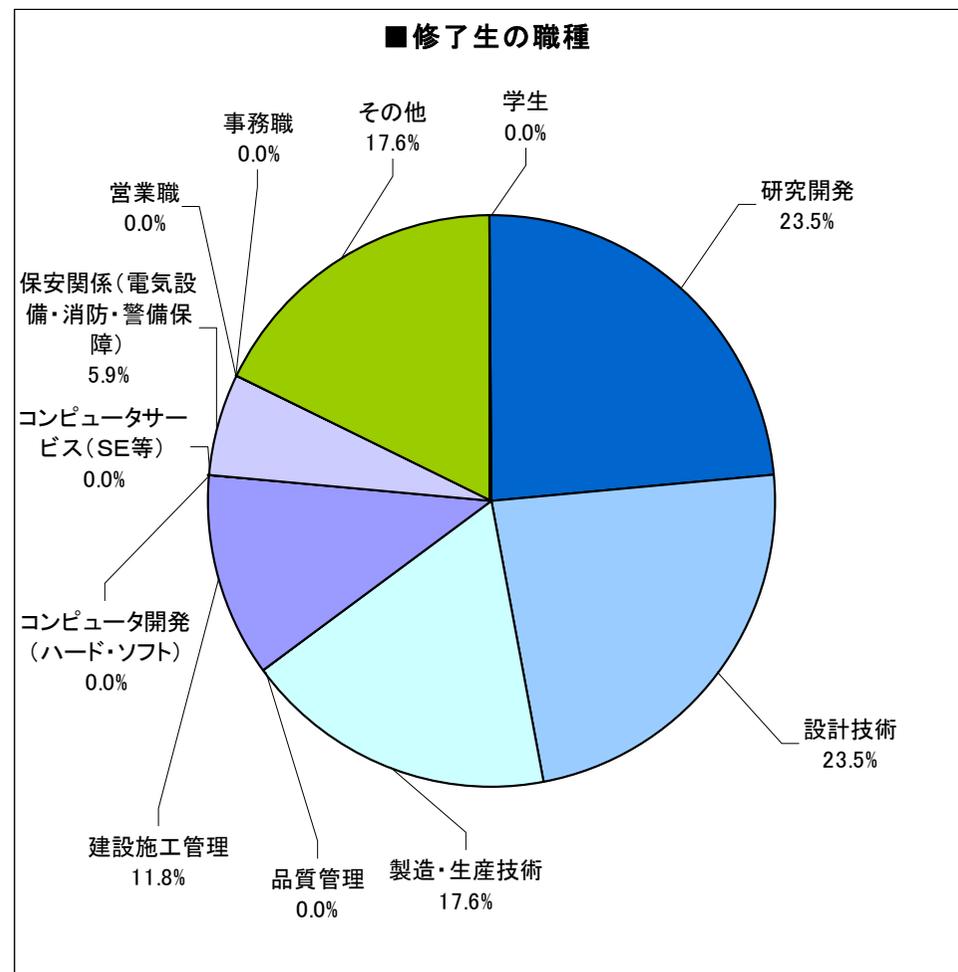
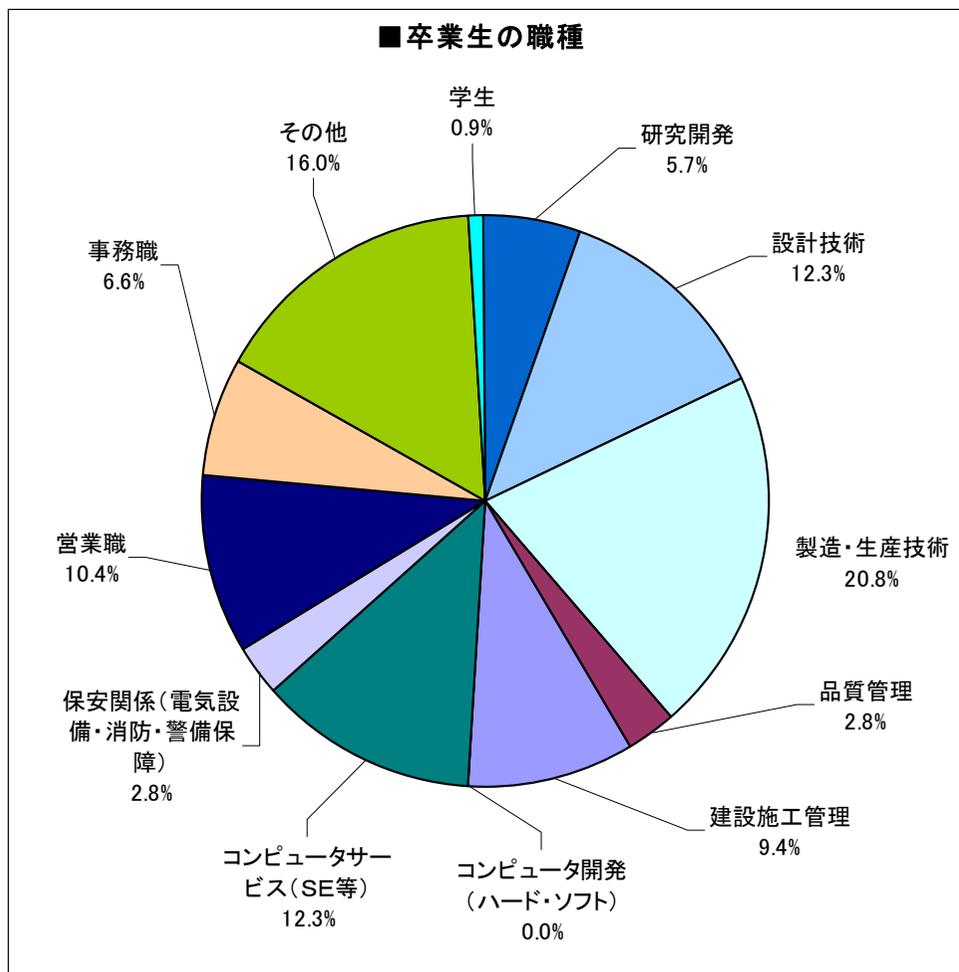
- 卒直前・修直前、卒業生・修了生に、5つの能力に対して卒業時に自分がどの程度満たしていたか、自己評価を聞いた。
- 卒業時の5つの能力で、自分が満たしていたという肯定的な意見が最も多かったのは「知識を取り込む力」であり、「満たしている」が21.7%、「少し満たしている」が66.1%であり、合わせると87.8%となっていた。
- 上記に次いで、「思考・推論・創造する力」が84.8%、「発表・表現・伝達する力」が84.3%と続いていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「コラボレーションとリーダーシップ」であり、肯定的な意見は78.3%となっていた。
- 「満たしている」だけを見ると、全項目で2割程度であり、回答した学生の2割程度は各能力がしっかりと身につけていると感じているようであった。



<11-1>卒業・修了生の基本属性

■現在の職種

- 卒業生の現在の職種では、「製造・生産技術」が20.8%で最も多く、「設計技術」と「コンピュータサービス(SE等)」が12.3%で並んでおり、「営業職」が10.4%、「建設施工管理」が9.4%と続いていた。
- 修了生では、「研究開発」と「設計技術」が23.5%で並んでおり、「製造・生産技術」が17.6%、「建設施工管理」が11.8%で続いていた。
- 卒業生と修了生を比較すると、修了生では「コンピュータサービス(SE等)」「営業職」「事務職」がゼロになり、卒業生で「研究開発」「設計技術」が少なくなるといった差が見られた。

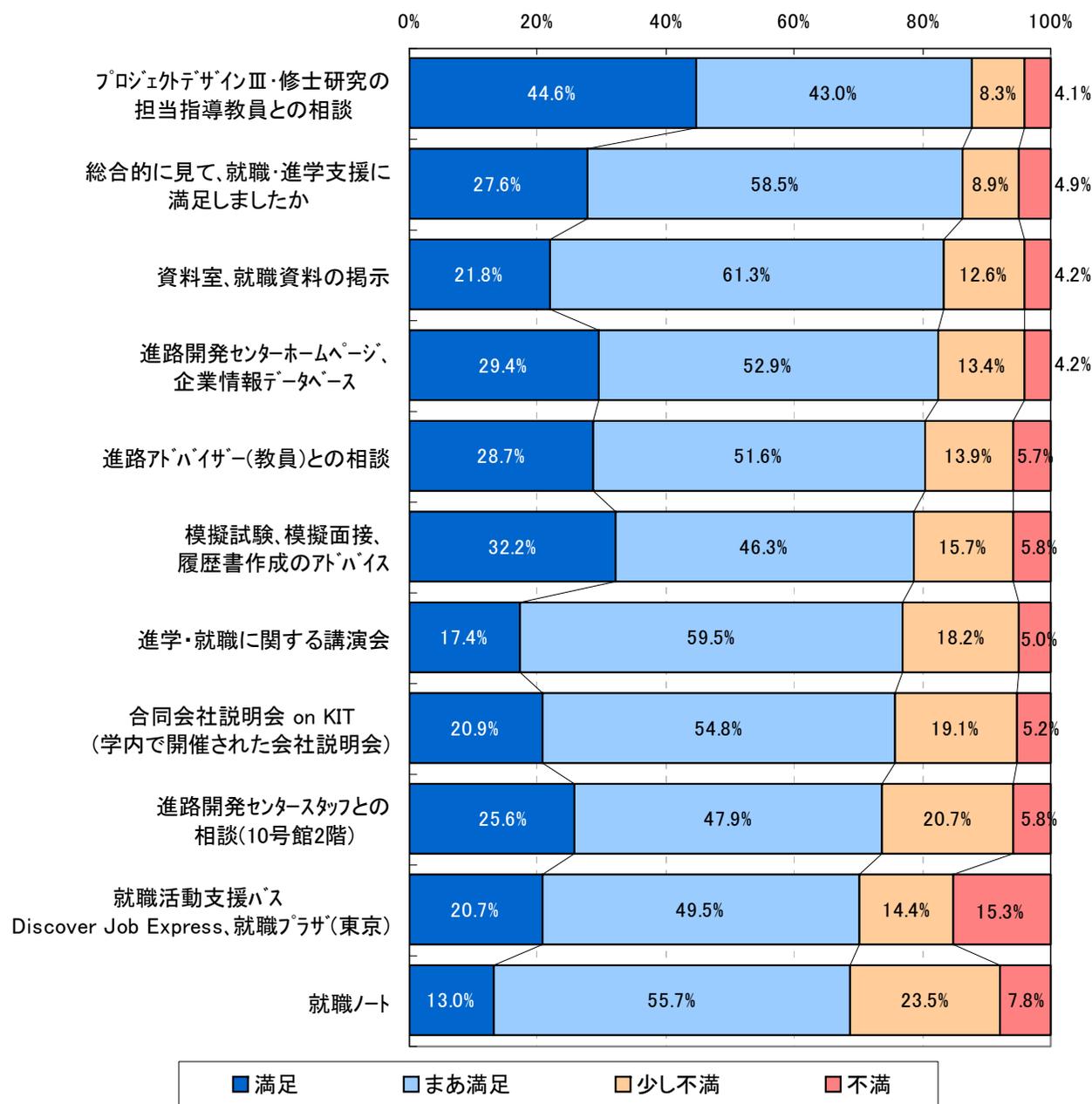


<11-2>就職・進学支援の評価

■就職・進学支援の評価

- 「卒業・修了生」には就職・進学支援策の満足度を聞いている。
- 全体の評価である「総合的に見て、就職・進学支援に満足しましたか」に対しては、「満足」が27.6%、「まあ満足」が58.5%であり、合計すると86.1%が満足しているという回答となっていた。
- 全体で見て最も満足度が高かったのは「プロジェクトデザインⅢ・修士研究の担当指導教員との相談」であり、44.6%が「満足」と答えており、肯定的な意見の合計は87.6%であった。次いで、「資料室、就職資料の掲示」が83.1%、「進路開発センターホームページ、企業情報データベース」が82.3%と続いていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「就職ノート」であり、肯定的な意見は68.7%であった。そして、「就職活動支援バス、就職プラザ」が70.2%、「進路開発センタースタッフとの相談」が73.5%となっていた。
- 特徴的であったのは「就職活動支援バス、就職プラザ」であり、「不満」という回答の割合が15.3%と最も高くなっており、一部の学生が強い不満を持っていたものと思われる。

■就職・進学支援の評価(卒業・修了生全体)

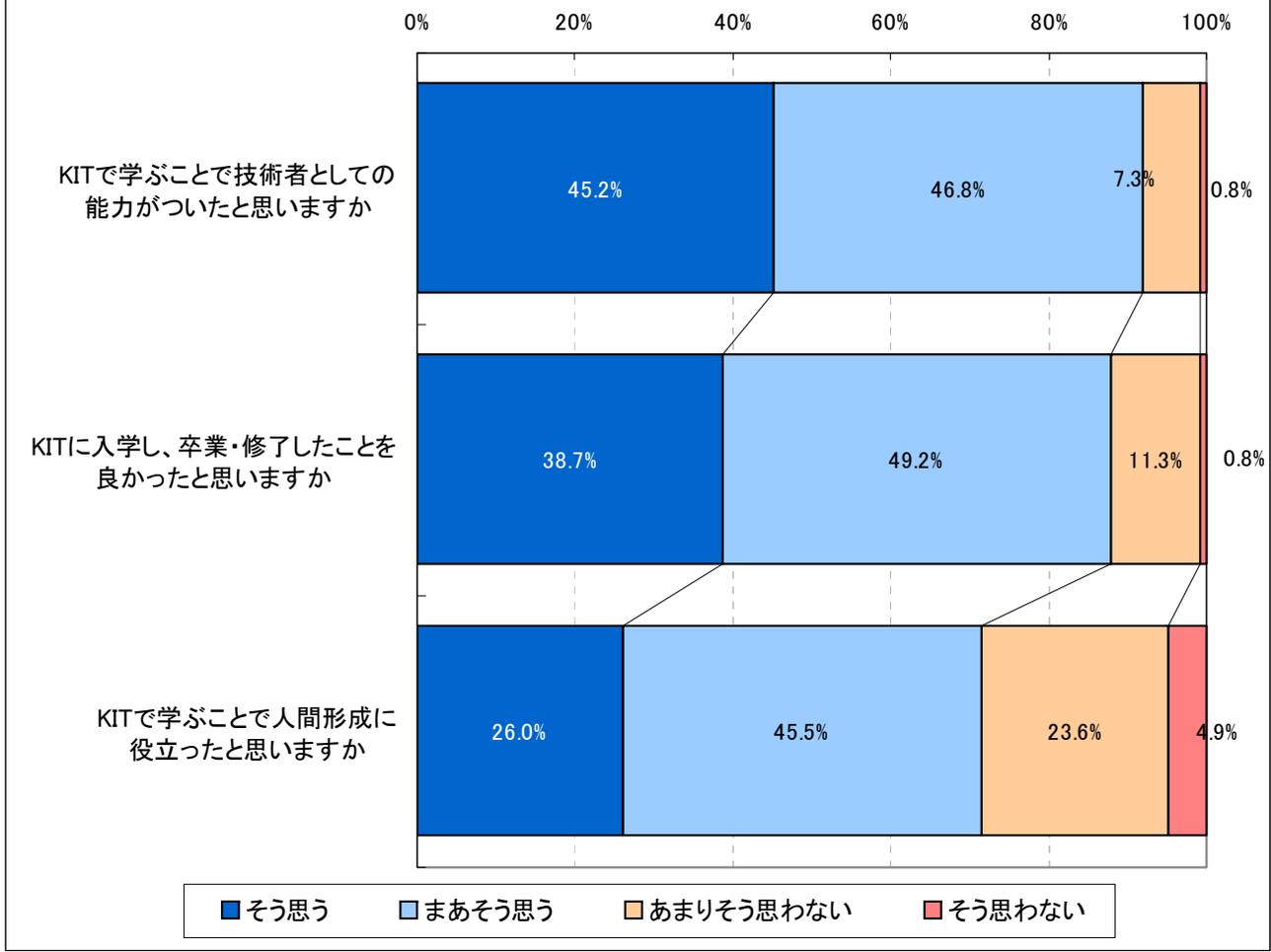


<11-3>卒業後のKITの評価

■卒業後のKITの評価

- 卒業生、修了生に、「卒業後に振り返ってのKITの評価」を聞いた。
- 肯定的な意見が最も多かったのは「KITで学ぶことで技術者としての能力がついたと思いますか」であり、92.0%が肯定的な意見であった。
- 上記に次いで、「KITに入学し、卒業・修了したことを良かったと思いますか」では87.9%、「KITで学ぶことで人間形成に役立ったと思いますか」では71.5%が肯定的な意見であり、卒業・修了生が社会に出たのち、KITに全体的に満足している様子がうかがえた。

■卒業後に振り返ってのKITの評価(卒業・修了生全体)



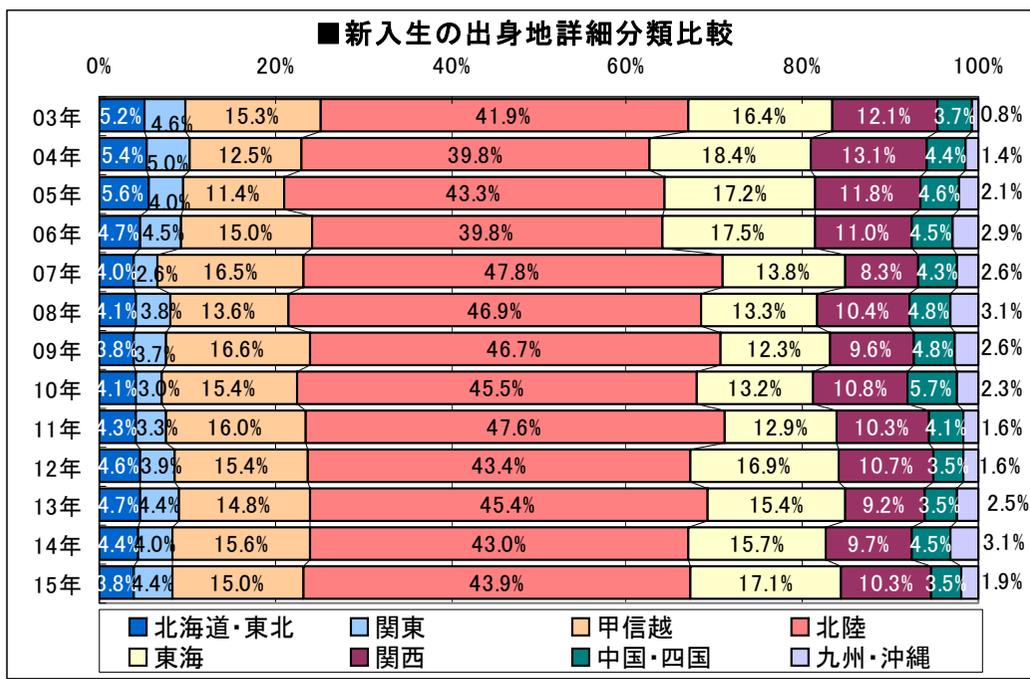
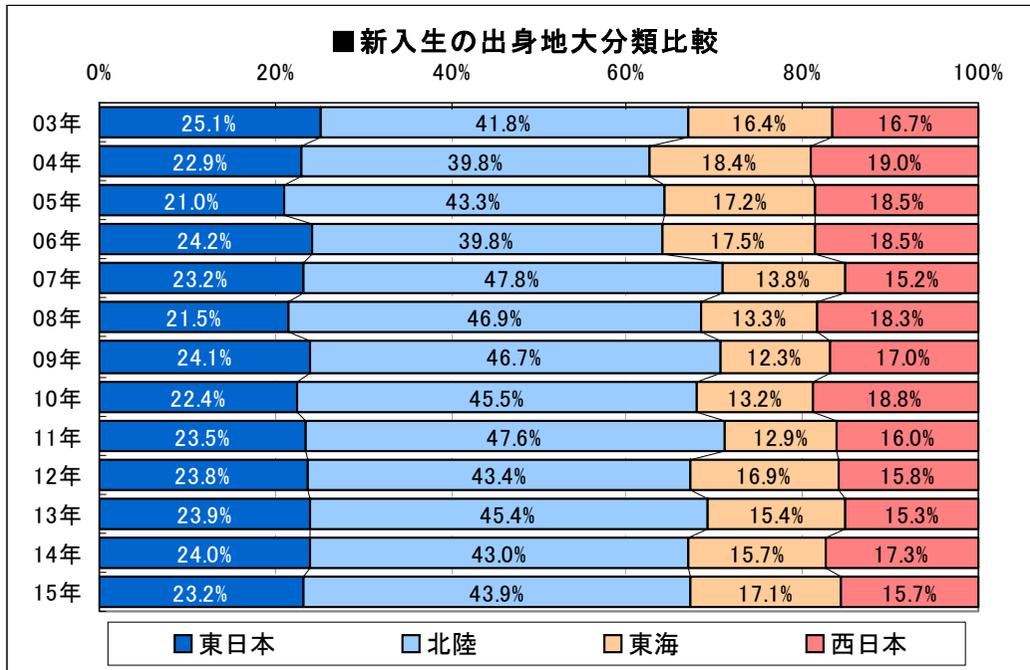
<12-1>新入生のプロフィール

■新入生の学部・学科、出身地

- 新入生の所属学部は「工学部」が51.4%、「情報フロンティア学部」が16.2%、「環境・建築学部」が21.4%、「バイオ・化学部」が10.7%であった。
- 出身地の大分類では「北陸」が43.9%と最も多かった。そして、「東日本」が23.2%、「東海」が17.1%、「西日本」が15.7%と続いており、昨年と比べるとわずかな差ではあるが「東海」と「西日本」の順序が入れ替わっていた。
- 出身地詳細分類では「北陸」が最も多く、「東海」「甲信越」「関西」と続いており、ここまでは10%以上を占めていた。

■学部・学科割合

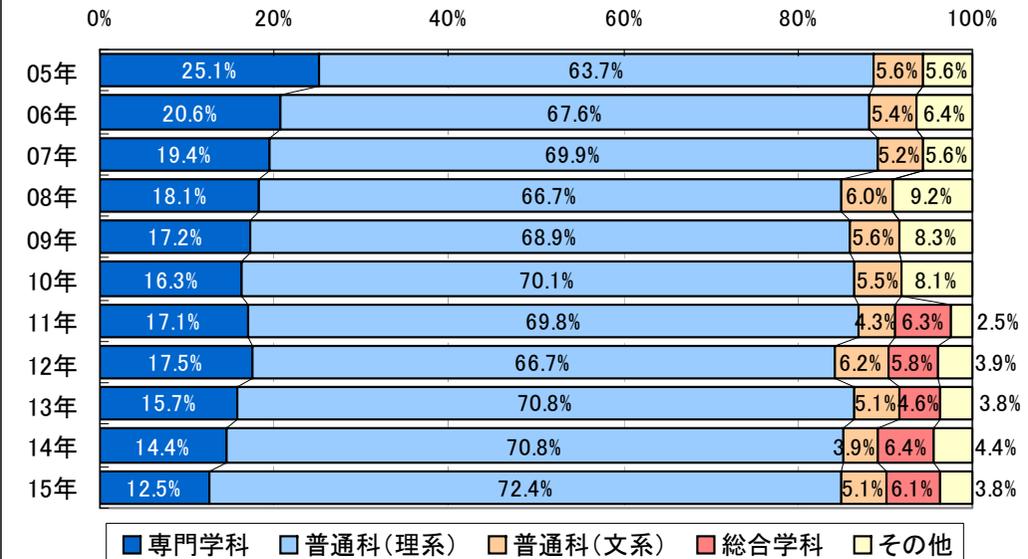
学部	学科	回答者数	割合	回答者数	割合
工学部	機械工学科	856	51.4%	220	13.2%
	航空システム工学科			66	4.0%
	ロボティクス学科			133	8.0%
	電気電子工学科			183	11.0%
	電子情報通信工学科			43	2.6%
	情報工学科			211	12.7%
情報フロンティア学部	メディア情報学科	269	16.2%	143	8.6%
	経営情報学科			63	3.8%
	心理情報学科			63	3.8%
環境・建築学部	建築デザイン学科	356	21.4%	140	8.4%
	建築学科			137	8.2%
	環境土木工学科			79	4.7%
バイオ・化学部	応用化学科	178	10.7%	78	4.7%
	応用バイオ学科			100	6.0%
無回答		5	0.3%	5	0.3%
合計		1,664	100.0%	1,664	100.0%



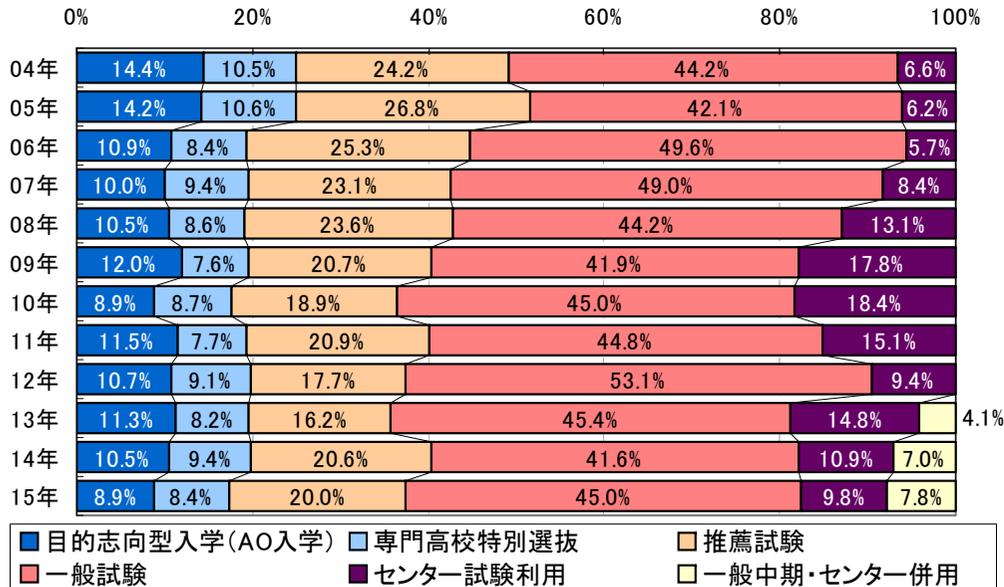
■新入生の入試の種類、高校課程、現浪

- 入試の種類では「一般試験」が45.0%と最も多く、「推薦試験」が20.0%、「センター試験利用」が9.8%、「目的志向型入学(AO入学)」が8.9%と続いており、「一般試験」は前回より3.4ポイント増加していた。
- 出身校の課程では、「普通科(理系)」が72.4%で最も多く、前回より増加していた。次いで多かった「専門学科」(12.5%)は減少、「普通科(文系)」(5.1%)は増加という変化が見られた。
- 入学時の現浪比較では「現役入学」が90.2%であり、経年変化はほとんど見られなかった。

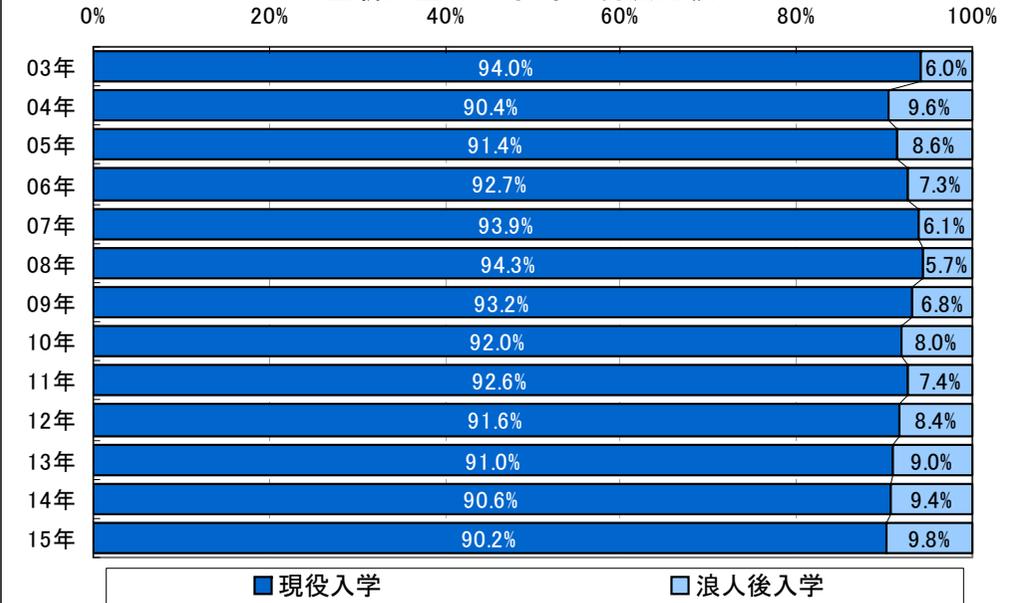
■新入生の出身高校課程比較



■入試の種類

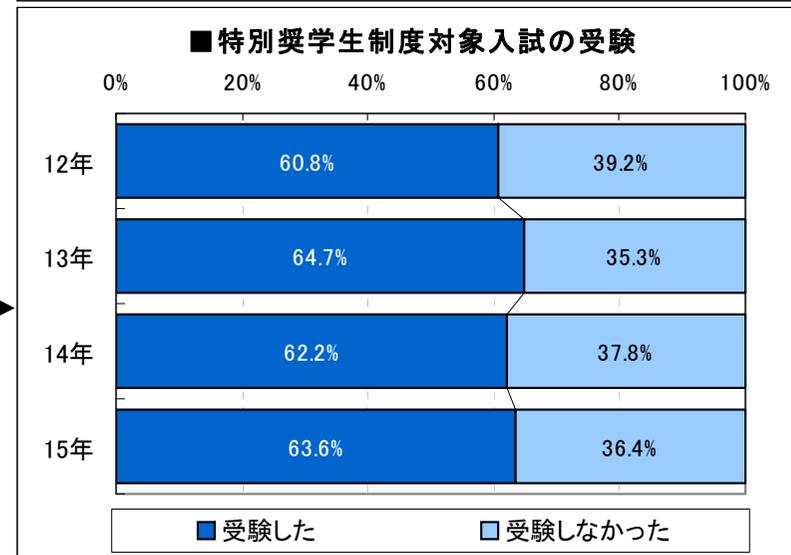
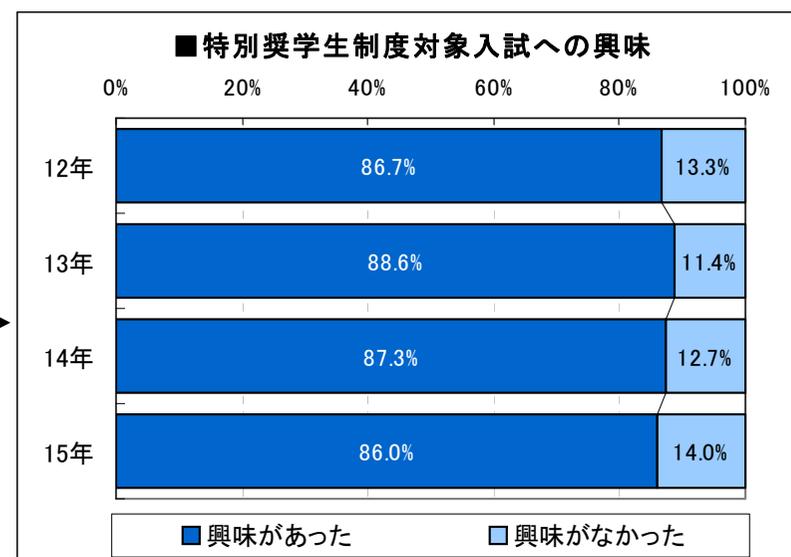
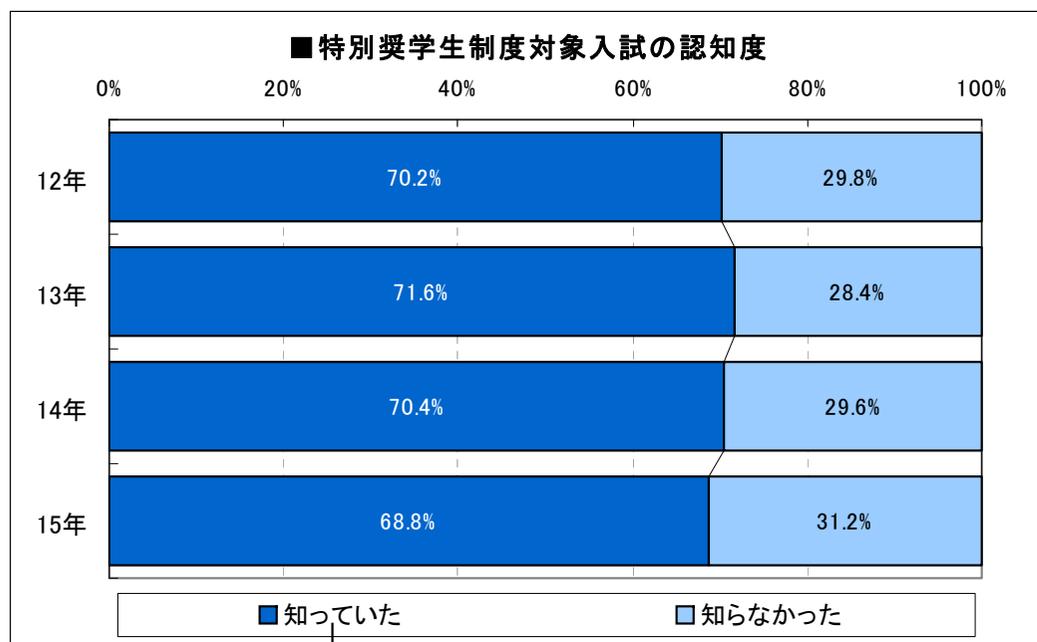


■新入生の入学時の現浪比較



■特別奨学生制度対象入試の受験

- 「特別奨学生制度」の認知度では、「知っていた」が68.8%であり、前回より1.6ポイント減少していた。
- 「特別奨学金制度」を「知っていた」と答えた学生に「制度への興味」を聞くと、86.0%が「興味があった」と答えていた。この割合は前回より1.3ポイント減少しており、13年より継続的に減少が続いていた。
- 同様に「特別奨学金制度」を「知っていた」と答えた学生に「特別奨学生制度対象入試の受験の有無」を聞いたところ、63.6%が「受験した」と答えており、変化は少ないものの前回は1.4ポイント上回っていた。



■過去4年間の出身地一覧

■12年 出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	19	1.1%	東日本	北海道・東北
青森県	8	0.5%		
岩手県	7	0.4%		
宮城県	7	0.4%		
秋田県	8	0.5%		
山形県	20	1.1%		
福島県	10	0.6%		
茨城県	12	0.7%		
栃木県	8	0.5%		
群馬県	23	1.3%		
埼玉県	6	0.3%		
千葉県	5	0.3%		
東京都	7	0.4%		
神奈川県	6	0.3%		
新潟県	160	9.2%	411 23.6%	79 4.5%
山梨県	6	0.3%		
長野県	99	5.7%		
富山県	222	12.7%		
石川県	419	24.0%		
福井県	108	6.2%		
岐阜県	81	4.6%		
静岡県	97	5.6%		
愛知県	78	4.5%		
三重県	36	2.1%		
滋賀県	53	3.0%	292 16.7%	265 15.2%
京都府	31	1.8%		
大阪府	27	1.5%		
兵庫県	56	3.2%		
奈良県	8	0.5%		
和歌山県	9	0.5%		
鳥取県	7	0.4%		
島根県	3	0.2%		
岡山県	22	1.3%		
広島県	15	0.9%		
山口県	4	0.2%		
徳島県	3	0.2%		
香川県	1	0.1%		
愛媛県	5	0.3%		
高知県	1	0.1%		
福岡県	14	0.8%	273 15.6%	184 10.5%
佐賀県	2	0.1%		
長崎県	1	0.1%		
熊本県	2	0.1%		
大分県	2	0.1%		
宮崎県	2	0.1%		
鹿児島	1	0.1%		
沖縄県	4	0.2%		
不明	20	1.1%		
合計	1745	100.0%		

■13年 出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	24	1.3%	東日本	北海道・東北
青森県	9	0.5%		
岩手県	6	0.3%		
宮城県	9	0.5%		
秋田県	15	0.8%		
山形県	19	1.0%		
福島県	6	0.3%		
茨城県	17	0.9%		
栃木県	13	0.7%		
群馬県	25	1.3%		
埼玉県	4	0.2%		
千葉県	5	0.3%		
東京都	7	0.4%		
神奈川県	12	0.6%		
新潟県	151	8.0%	447 23.7%	88 4.7%
山梨県	13	0.7%		
長野県	112	5.9%		
富山県	258	13.7%		
石川県	481	25.5%		
福井県	108	5.7%		
岐阜県	61	3.2%		
静岡県	92	4.9%		
愛知県	75	4.0%		
三重県	60	3.2%		
滋賀県	40	2.1%	288 15.3%	276 14.6%
京都府	34	1.8%		
大阪府	24	1.3%		
兵庫県	57	3.0%		
奈良県	7	0.4%		
和歌山県	10	0.5%		
鳥取県	11	0.6%		
島根県	4	0.2%		
岡山県	13	0.7%		
広島県	12	0.6%		
山口県	6	0.3%		
徳島県	4	0.2%		
香川県	3	0.2%		
愛媛県	5	0.3%		
高知県	8	0.4%		
福岡県	15	0.8%	285 15.1%	172 9.1%
佐賀県	3	0.2%		
長崎県	5	0.3%		
熊本県	2	0.1%		
大分県	2	0.1%		
宮崎県	5	0.3%		
鹿児島	4	0.2%		
沖縄県	11	0.6%		
不明	19	1.0%		
合計	1886	100.0%		

■14年 出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	15	0.8%	東日本	北海道・東北
青森県	3	0.2%		
岩手県	4	0.2%		
宮城県	14	0.7%		
秋田県	5	0.3%		
山形県	23	1.2%		
福島県	7	0.4%		
茨城県	9	0.5%		
栃木県	11	0.6%		
群馬県	18	1.0%		
埼玉県	5	0.3%		
千葉県	8	0.4%		
東京都	8	0.4%		
神奈川県	5	0.3%		
新潟県	124	6.6%	386 23.9%	71 4.4%
山梨県	10	0.5%		
長野県	117	6.2%		
富山県	198	10.5%		
石川県	399	21.2%		
福井県	93	4.9%		
岐阜県	57	3.0%		
静岡県	80	4.2%		
愛知県	67	3.6%		
三重県	48	2.5%		
滋賀県	39	2.1%	252 15.6%	251 15.6%
京都府	19	1.0%		
大阪府	22	1.2%		
兵庫県	59	3.1%		
奈良県	7	0.4%		
和歌山県	9	0.5%		
鳥取県	7	0.4%		
島根県	6	0.3%		
岡山県	18	1.0%		
広島県	12	0.6%		
山口県	8	0.4%		
徳島県	8	0.4%		
香川県	10	0.5%		
愛媛県	2	0.1%		
高知県	1	0.1%		
福岡県	26	1.4%	277 17.2%	155 9.6%
佐賀県	4	0.2%		
長崎県	3	0.2%		
熊本県	3	0.2%		
大分県	2	0.1%		
宮崎県	5	0.3%		
鹿児島	0	0.0%		
沖縄県	7	0.4%		
不明	9	0.5%		
合計	1,614	85.6%		

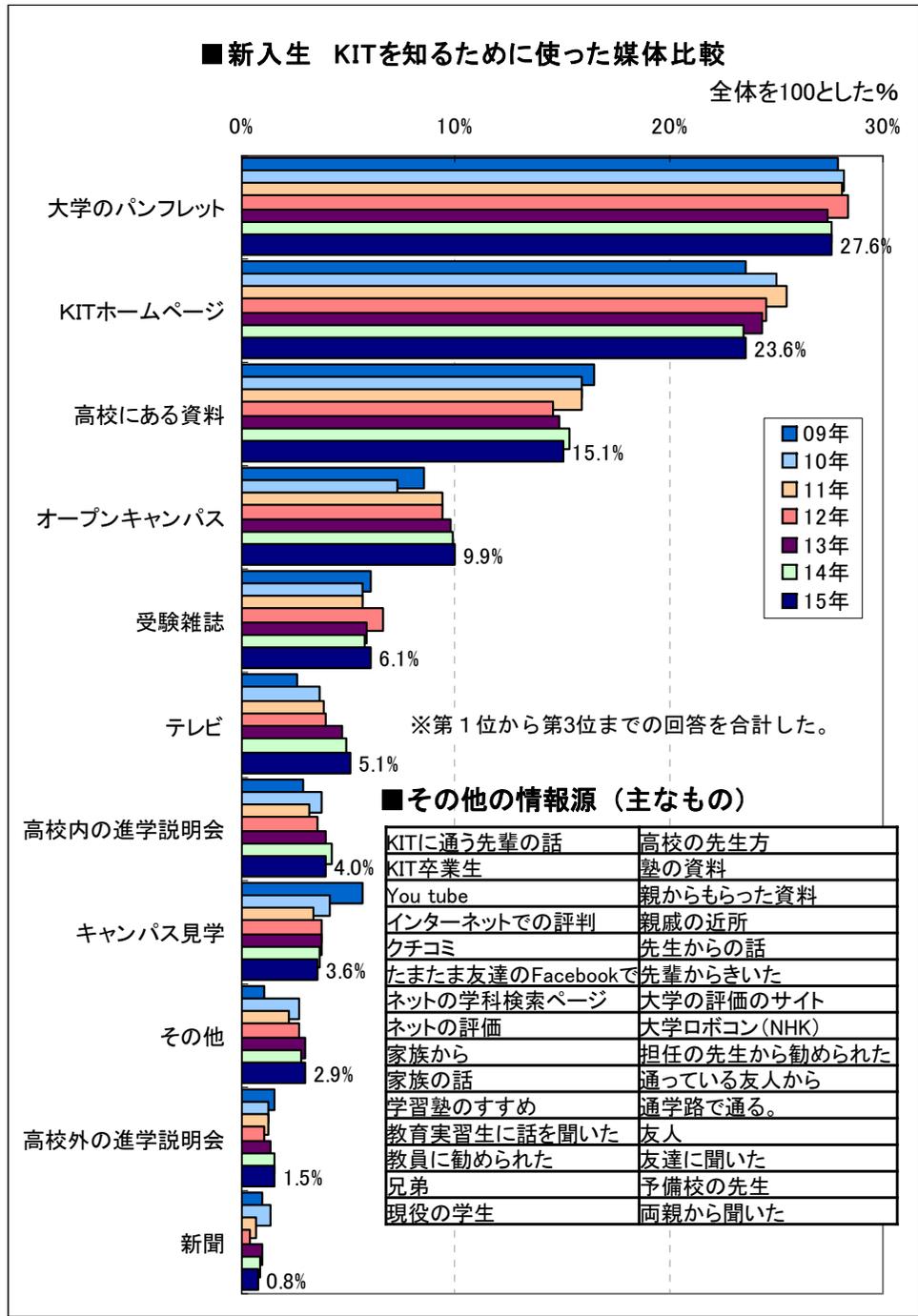
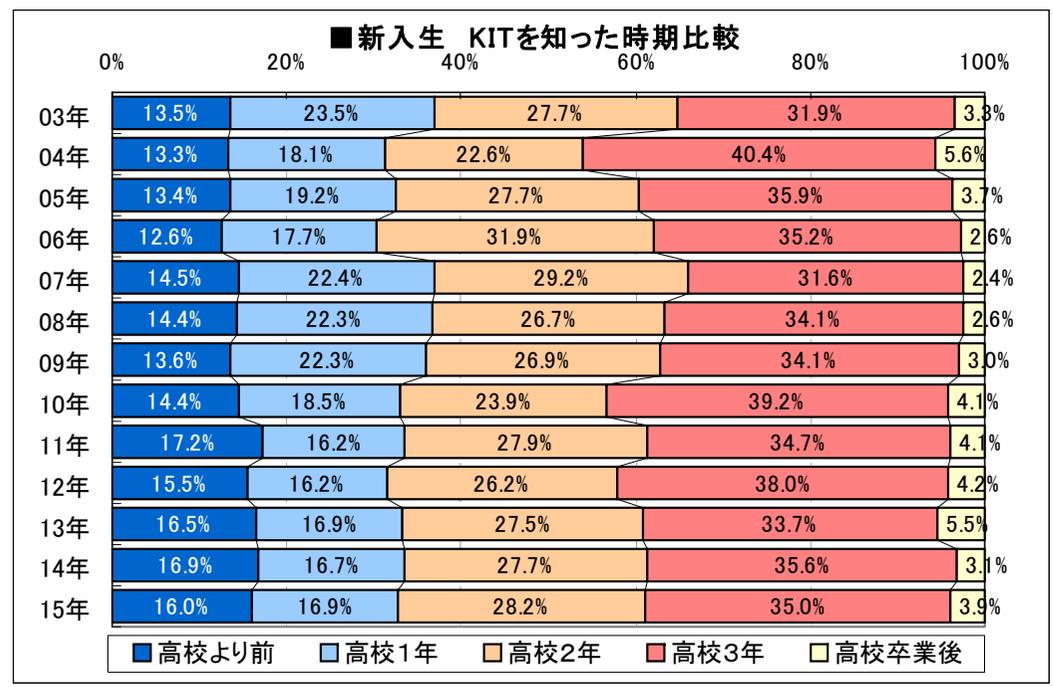
■15年 出身地一覧

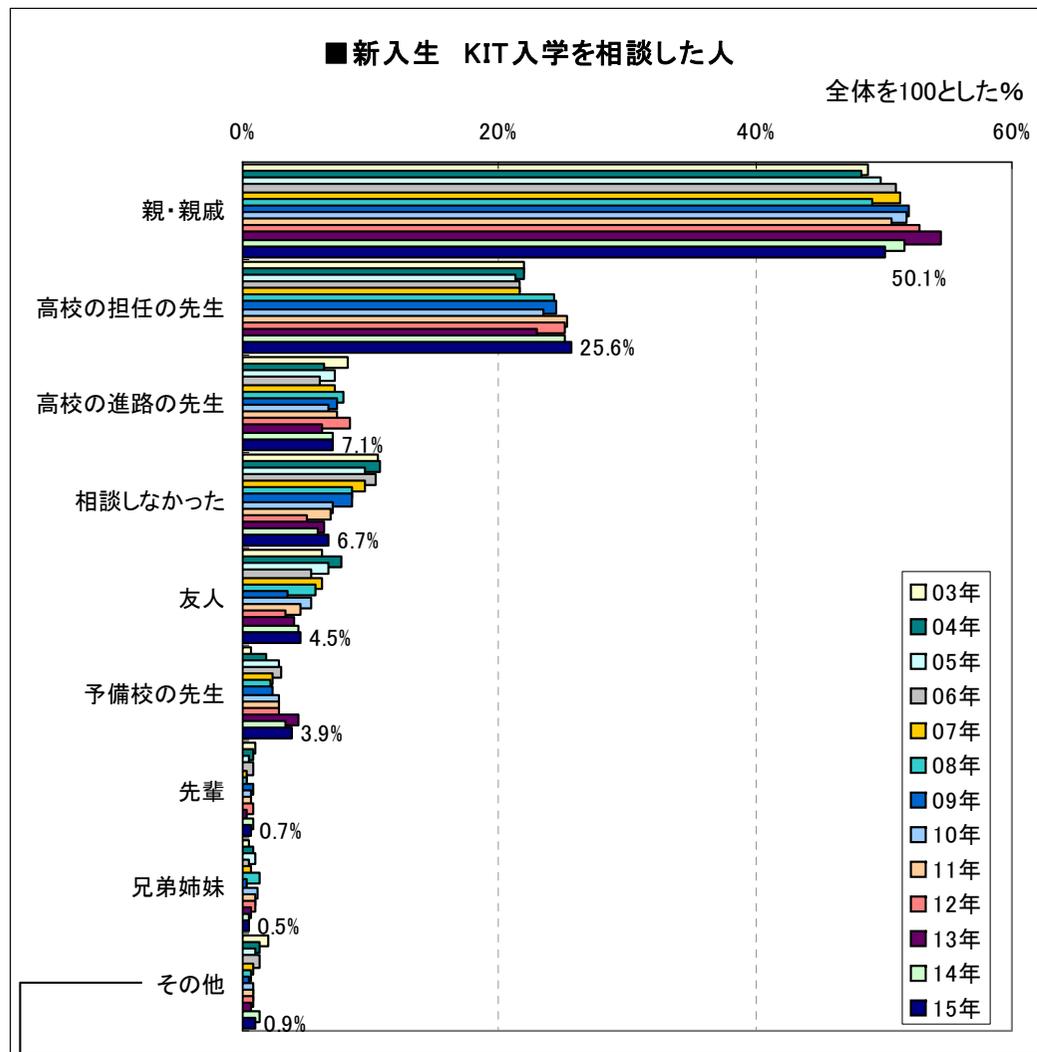
都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	16	0.8%	東日本	北海道・東北
青森県	3	0.2%		
岩手県	3	0.2%		
宮城県	10	0.5%		
秋田県	4	0.2%		
山形県	16	0.8%		
福島県	11	0.6%		
茨城県	11	0.6%		
栃木県	5	0.3%		
群馬県	29	1.5%		
埼玉県	6	0.3%		
千葉県	5	0.3%		
東京都	10	0.5%		
神奈川県	7	0.4%		
新潟県	129	6.8%	384 23.1%	63 3.8%
山梨県	7	0.4%		
長野県	112	5.9%		
富山県	185	9.8%		
石川県	448	23.8%		
福井県	92	4.9%		
岐阜県	62	3.3%		
静岡県	103	5.5%		
愛知県	75	4.0%		
三重県	43	2.3%		
滋賀県	48	2.5%	283 17.0%	248 14.9%
京都府	33	1.7%		
大阪府	21	1.1%		
兵庫県	44	2.3%		
奈良県	11	0.6%		
和歌山県	13	0.7%		
鳥取県	4	0.2%		
島根県	10	0.5%		
岡山県	12	0.6%		
広島県	9	0.5%		
山口県	6	0.3%		
徳島県	3	0.2%		
香川県	7	0.4%		
愛媛県	5	0.3%		
高知県	2	0.1%		
福岡県	16	0.8%	260 15.6%	170 10.2%
佐賀県	1	0.1%		
長崎県	1	0.1%		
熊本県	1	0.1%		
大分県	0	0.0%		
宮崎県	2	0.1%		
鹿児島	2	0.1%		
沖縄県	9	0.5%		
不明	12	0.6%		
合計	1,664	88.2%		

<12-3> KITの認知経路などに関して

■KITを知った時期と利用した媒体

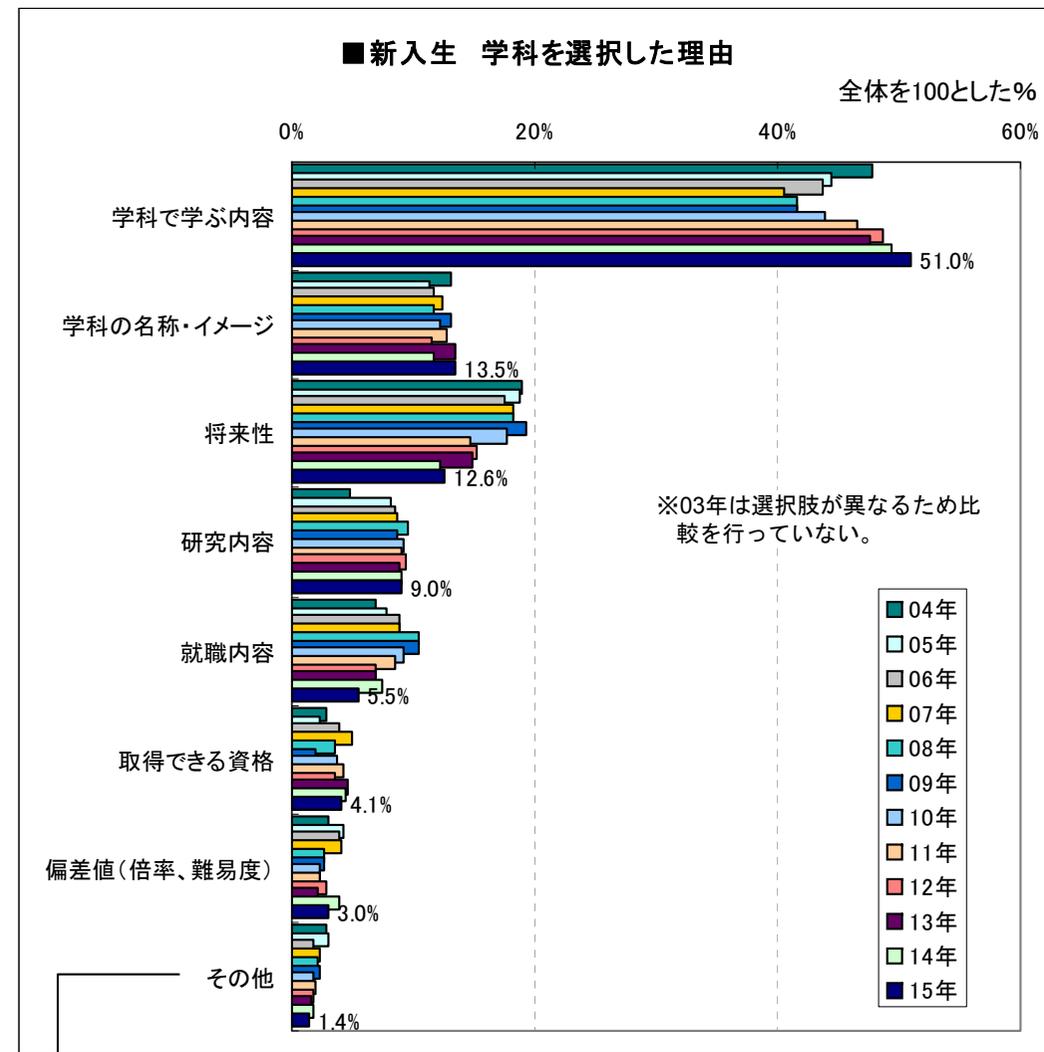
- 新生にKITを知った時期を聞いたところ、「高校3年」が35.0%で最も多く、「高校2年」が28.2%、「高校1年」が16.9%と続いており、前年との差はほとんど見られなかった。
- KITを知るために使った媒体で最も多かったのは「大学のパンフレット」の27.6%であり、「KITホームページ」が23.6%、「高校にある資料」が15.1%と続いていた。以前との比較では「オープンキャンパス」「テレビ」が今までで最高となっており、いずれも継続的に利用率が増加していた。
- 次のページの「KIT入学を相談した人」で最も多かったのは「親・親戚」の50.1%であり、「高校の担任の先生」「高校の進路の先生」と続いており、「高校の担任の先生」は過去最高であった。
- 「学科を選択した理由」では「学科で学ぶ内容」が51.0%で最も多く、これまでで最高となっていた。次いで、「学科の名称・イメージ」「将来性」と続いていた。





■ その他の相談相手

部活顧問	高校の機械科の先生
高校の先生	最も信頼できた先生(図書館の先生)
学校へ電話をかけた。(大学)	塾の先生
塾の講師	高校の部活の先生
建築に詳しい先生	塾の先生
高校の自分が大学で学びたい教科の先生	学年主任の先生
塾の先生	高校の工業系部活の顧問の先生
部活の顧問	塾の先生

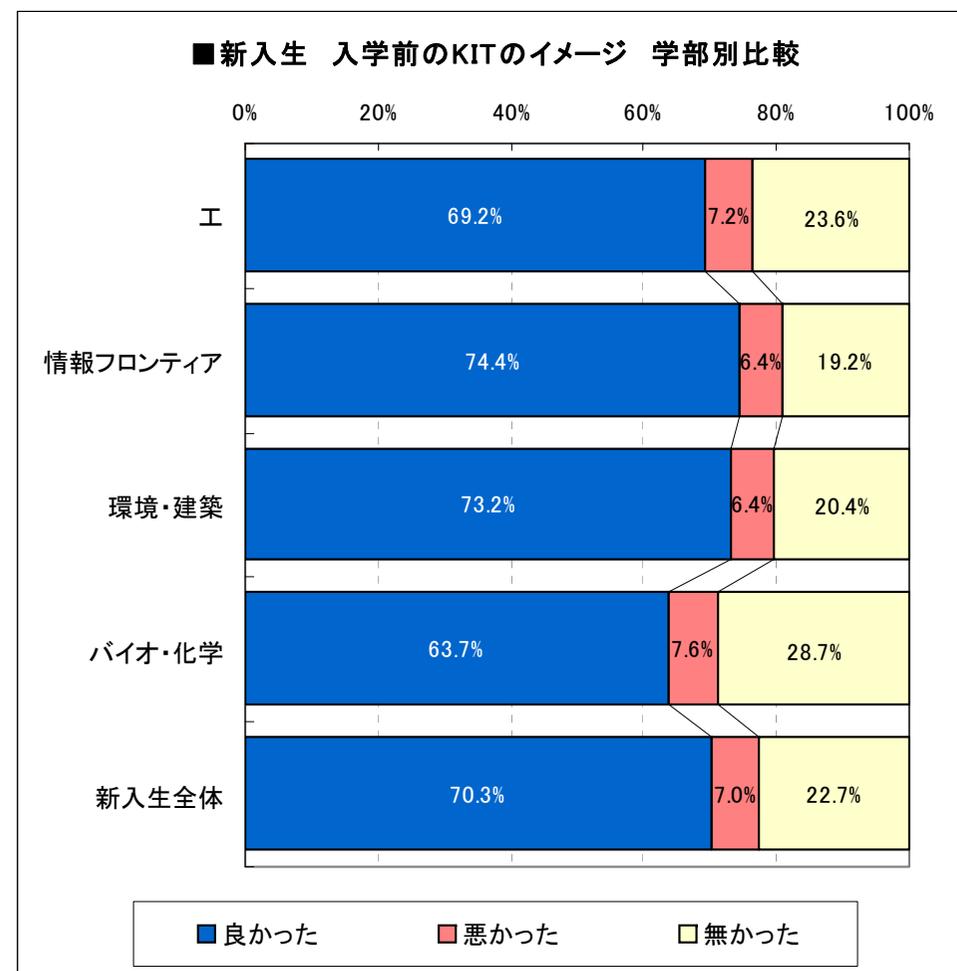
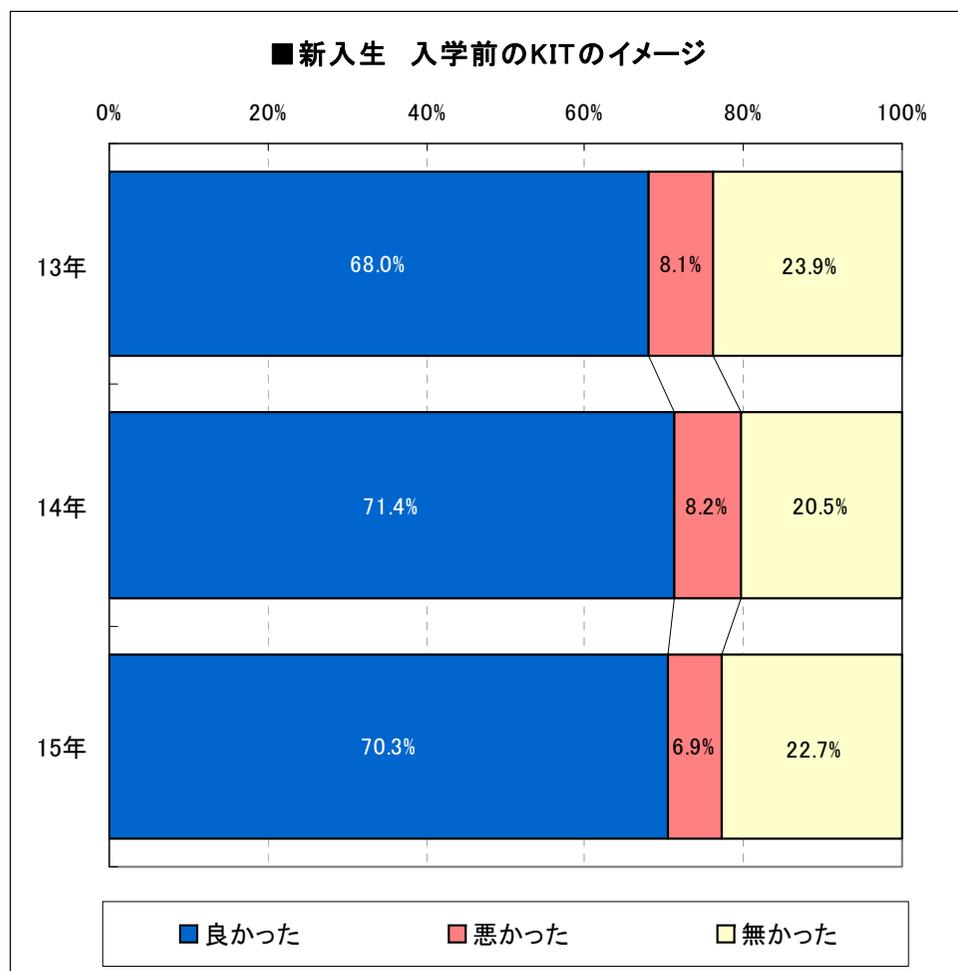


■ その他の学科選択理由

1番学びたい学科だったから。	自分の能力の適性
オープンキャンパス時の教授とお話	自分の夢
やりたいことがあるため	自分の目標達成のため
興味があった。	女子が多いと聞いたから。
好きな教科だったから	設備の充実さ、選択肢の多さ
高校が工学科だったから	父親の影響
高校で建築を学んでいた為	部活(ハンドボール)
高校で情報を学んでいたから	文系で受験できる中で一番デザインを学べそう
高校の延長	夢考房でメカニカルサポートに入りたいから
高校の時と同じ機械科	面倒見が良い

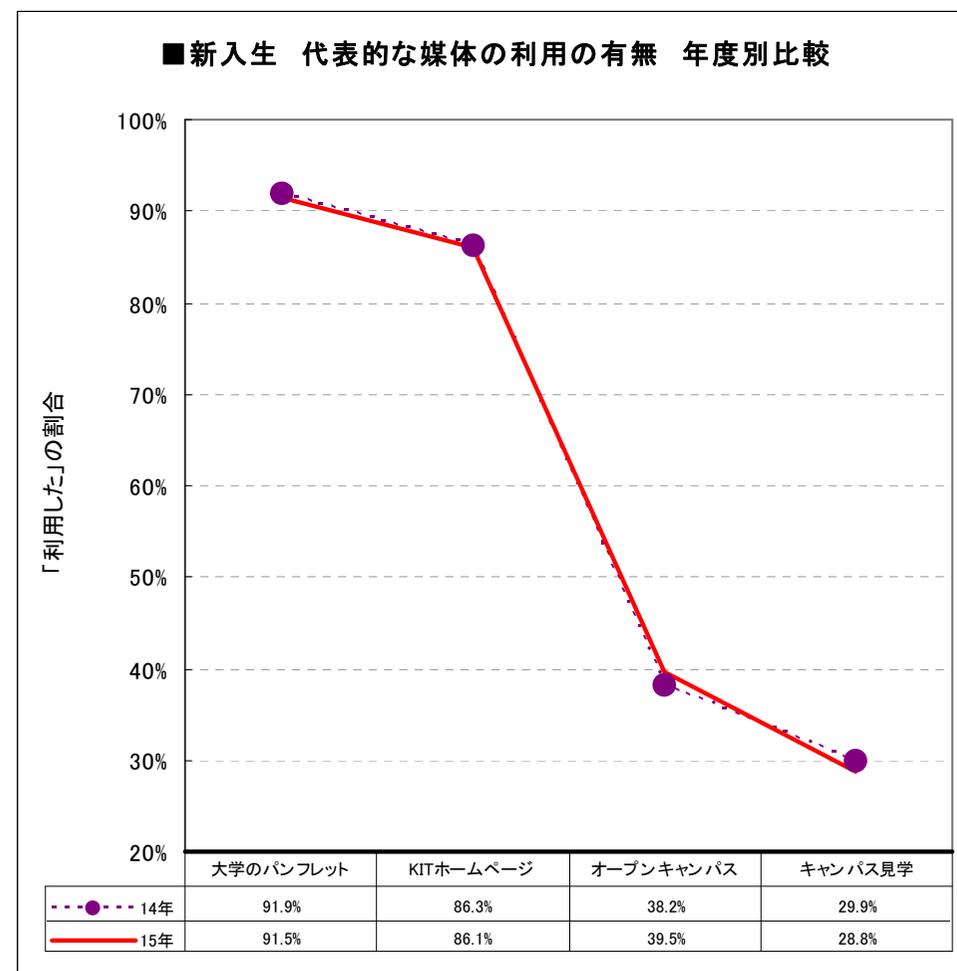
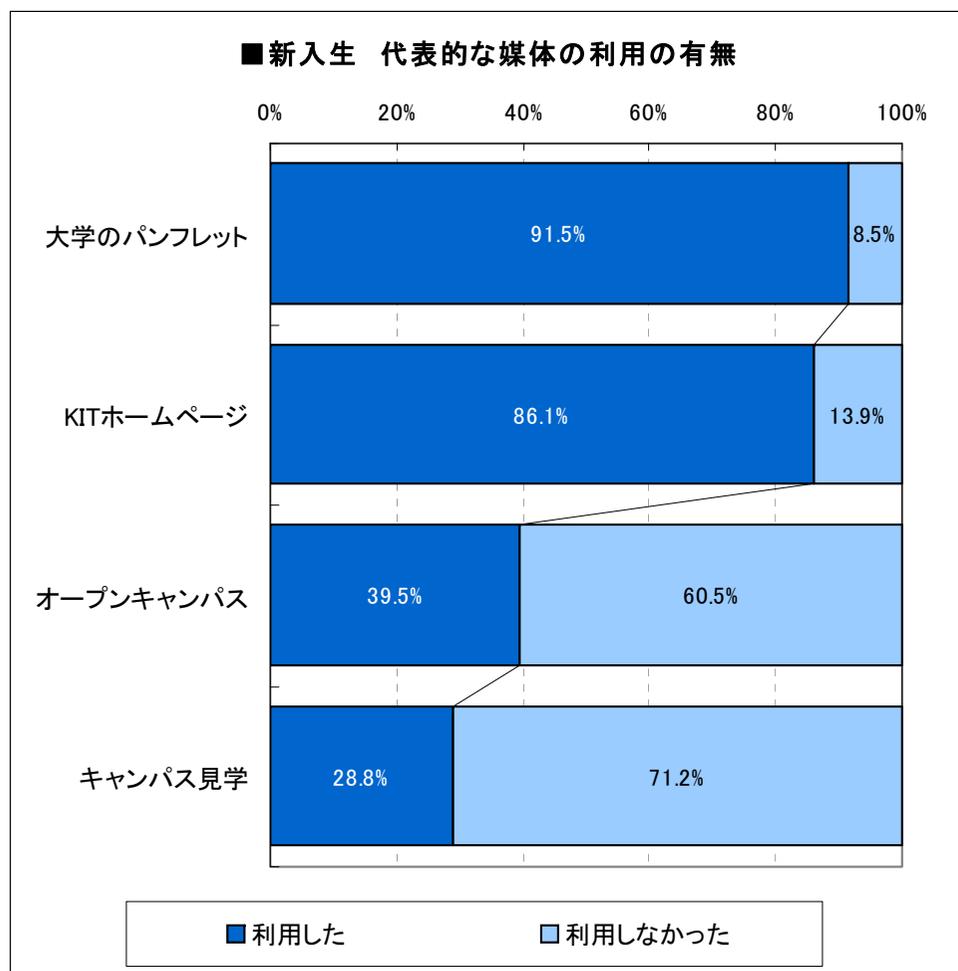
■入学前のKITのイメージ

- 今回の入学前のKITのイメージでは「良かった」が70.3%、「悪かった」が6.9%、「無かった」が22.7%であり、多くの新入生が良いイメージを持って入学していることがわかった。前回と比較すると「悪かった」が前回より1.3ポイント減少して、これまでで最も少なくなっていたが、「無かった」が前回より2.2ポイント増加している点が気になった。
- 学部別に比較すると、「良かった」は「情報フロンティア」で74.4%と最も多く、「環境・建築」が73.2%、「工」が69.2%、「バイオ・化学」が63.7%となっており、「情報フロンティア」と「バイオ・化学」との差は10.7ポイントあった。そして、「悪かった」の割合は学部によってそれほど大きな差は見られなかったが、「無かった」の割合が「バイオ・化学」で28.7%と非常に多く、イメージを持っていない学生が少なくないことがわかった。



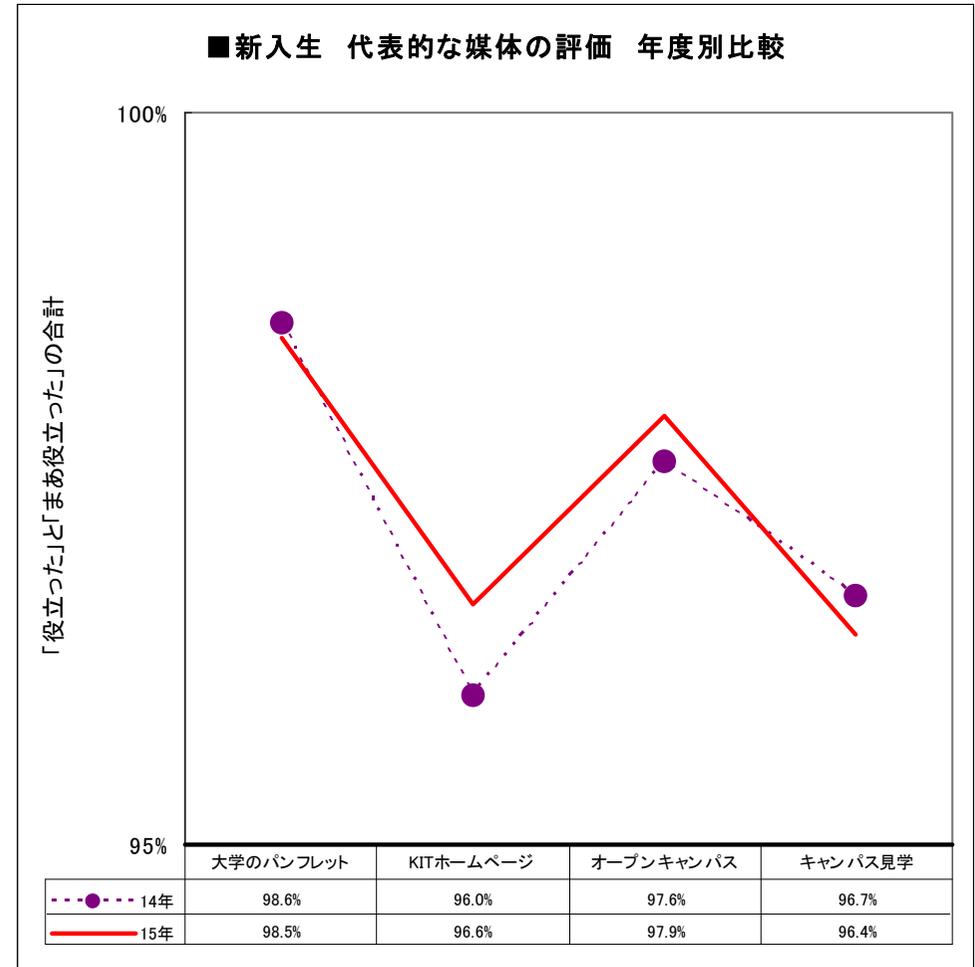
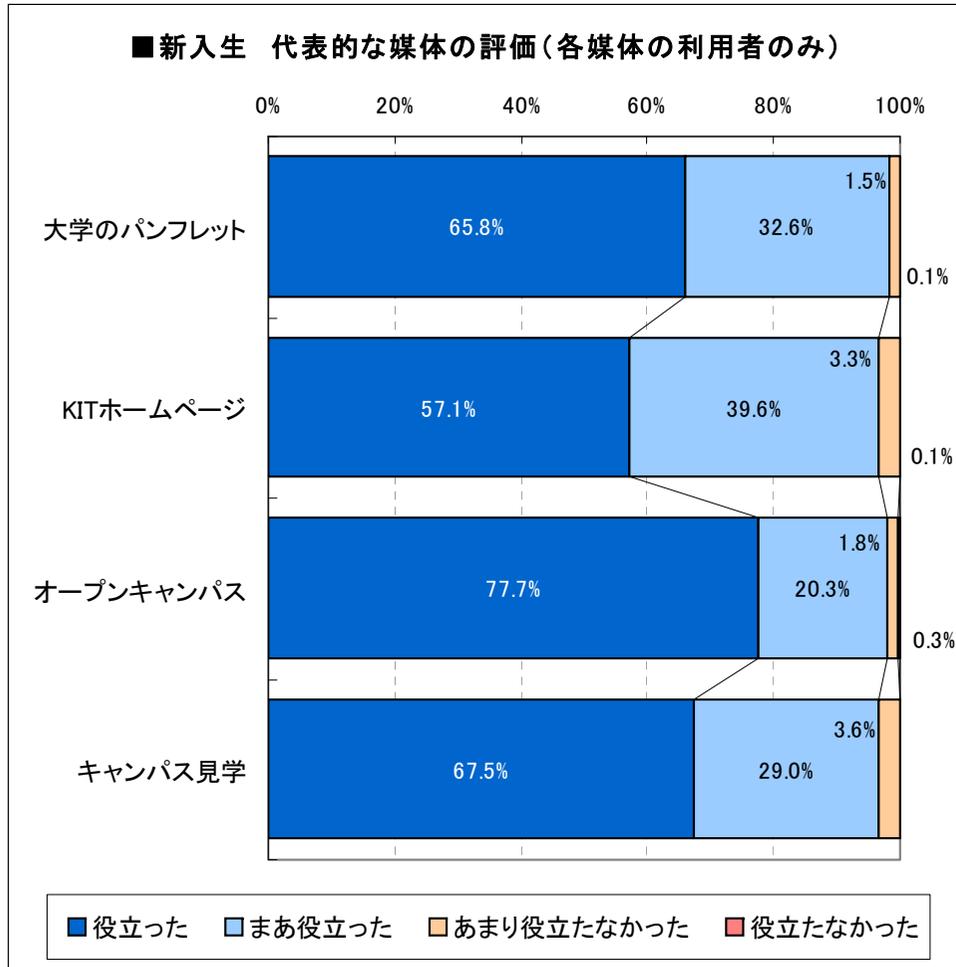
■ 代表的な媒体の利用状況

- 代表的な4つの広報媒体の利用経験を聞くと、「大学のパンフレット」は91.5%が「利用した」と答えており、2番目の「KITホームページ」(86.1%)と共に中心的な媒体になっていることがわかる。そして、「オープンキャンパス」が39.5%、「キャンパス見学」が28.8%となっていた。
- 今回が2回目の質問になるため、前回との比較を見たところ、差はほとんど見られなかった。



■ 代表的な媒体の評価

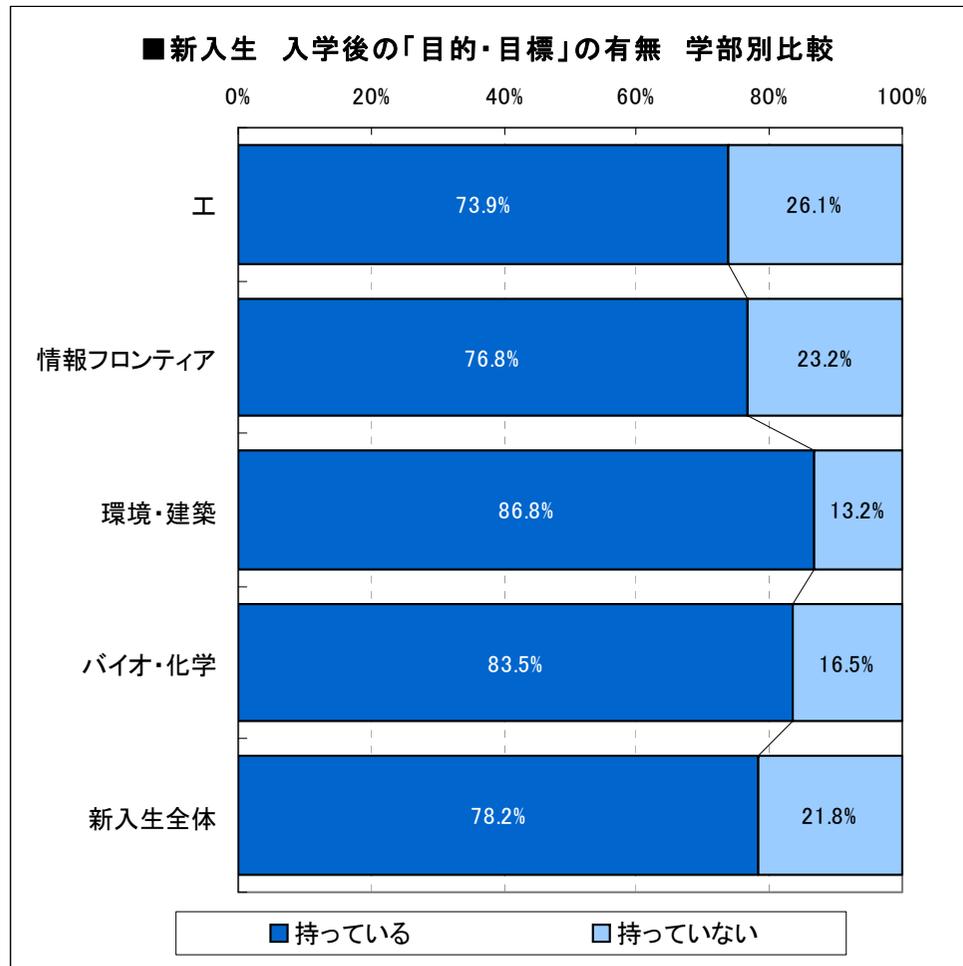
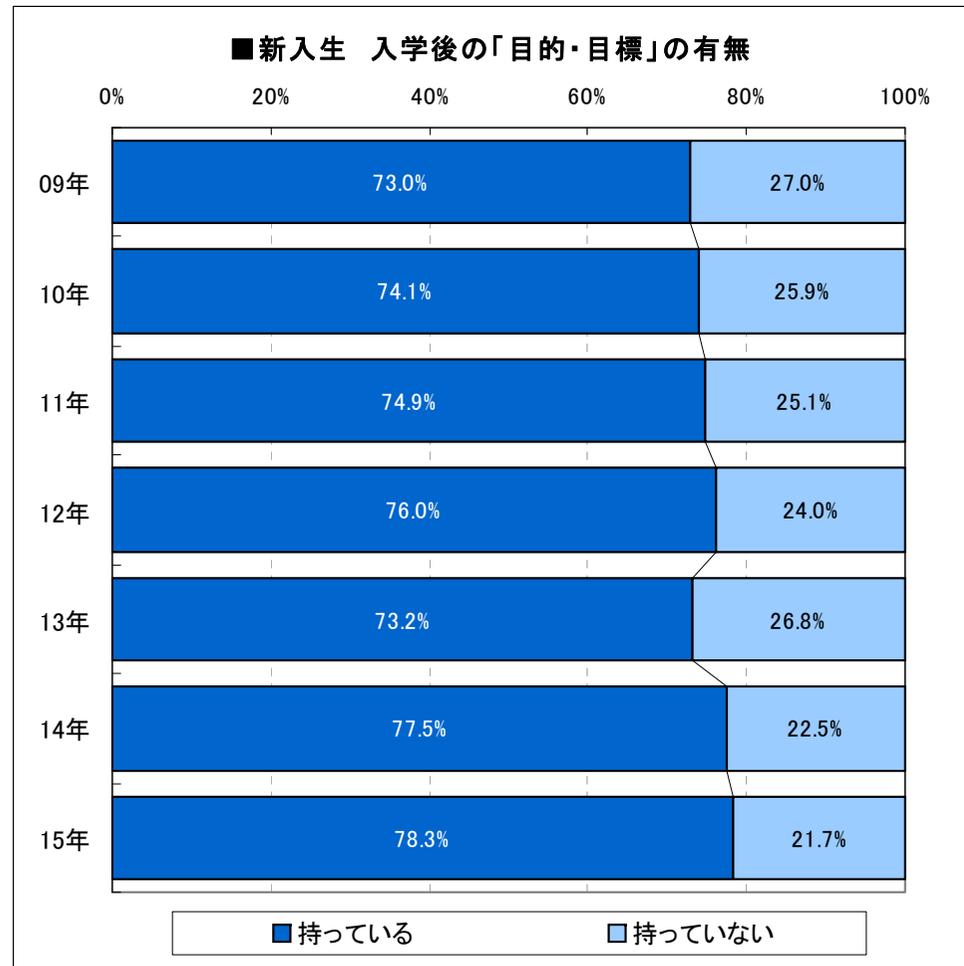
- 各媒体の利用者に各々の評価を聞いたところ、「役立った」と「まあ役立った」の合計は全て95%を超えており、評価は非常に高かった。
- 「役立った」だけで比較すると、「オープンキャンパス」が77.7%で最も高く、「キャンパス見学」が67.5%、「大学のパンフレット」が65.8%と続いていた。
- 前回と比較すると、いずれの年も全項目で肯定的な意見が95%以上を占めており、評価としては非常に高い状態が続いているが、「KITホームページ」と「オープンキャンパス」が前回を上回り、「キャンパス見学」がわずかに低下するという結果になっていた。



<12-4>入学後の目的・目標、期待に関して

■入学後の目的・目標の有無

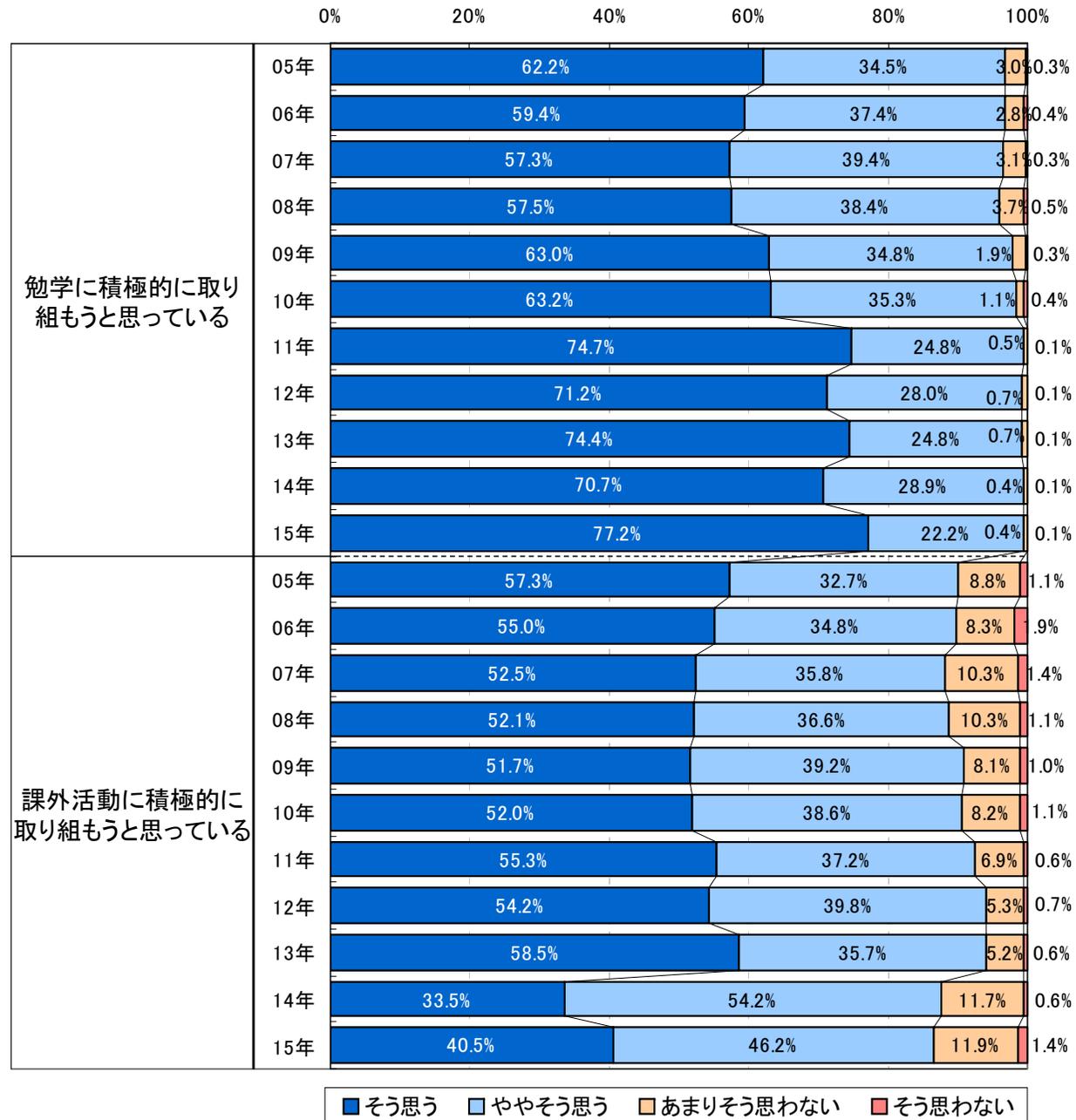
- 「大学に入ってからこれがやりたいという目的・目標を持っていますか？」に対しては、78.3%が「持っている」と答えていた。前回と比較すると0.8ポイント増加して過去最高となっており、13年には下がっているものの、継続的に目的・目標を持っている新入生が増加する傾向が確認できた。
- 学部別に「目的・目標あり」の割合を比較すると、「環境・建築」が86.8%で最も多く、「バイオ・化学」が83.5%、「情報フロンティア」が76.8%、「工」が73.9%となっており、「環境・建築」と「工」の差は12.9ポイントになっていた。



■KITへの期待、心構え

- 13年までは「勉学に積極的に取り組もうと思っている」は「勉強に積極的に取り組もうと思っている」と聞いており、同様に「課外活動に積極的に取り組もうと思っている」は「勉強以外に積極的に取り組めるものを探そうと思っている」と聞いており、前回の14年から質問文のニュアンスが少し変わっている。
- 今回の「勉学に積極的に取り組もうと思っている」に関しては、「そう思う」が77.2%、「ややそう思う」が22.2%となっており、合わせると99.4%が積極的な気持ちを持っていた。これまででもほとんどが積極的という意見であったが、「そう思う」という回答の割合がこれまでで最も高くなっており、積極性は上がっていると言える。
- 「課外活動に積極的に取り組もうと思っている」では「そう思う」が40.5%、「ややそう思う」が46.2%であり、合わせると86.7%が肯定的な意見であった。これまでの変化を見ると、14年に質問文が変わったことが大きく影響しているものと思われるが、積極性がやや低下している。ただし、14年と比較すると、肯定的意見の合計は1.0ポイント下がったものの、「そう思う」という回答は7.0ポイント増加していた。

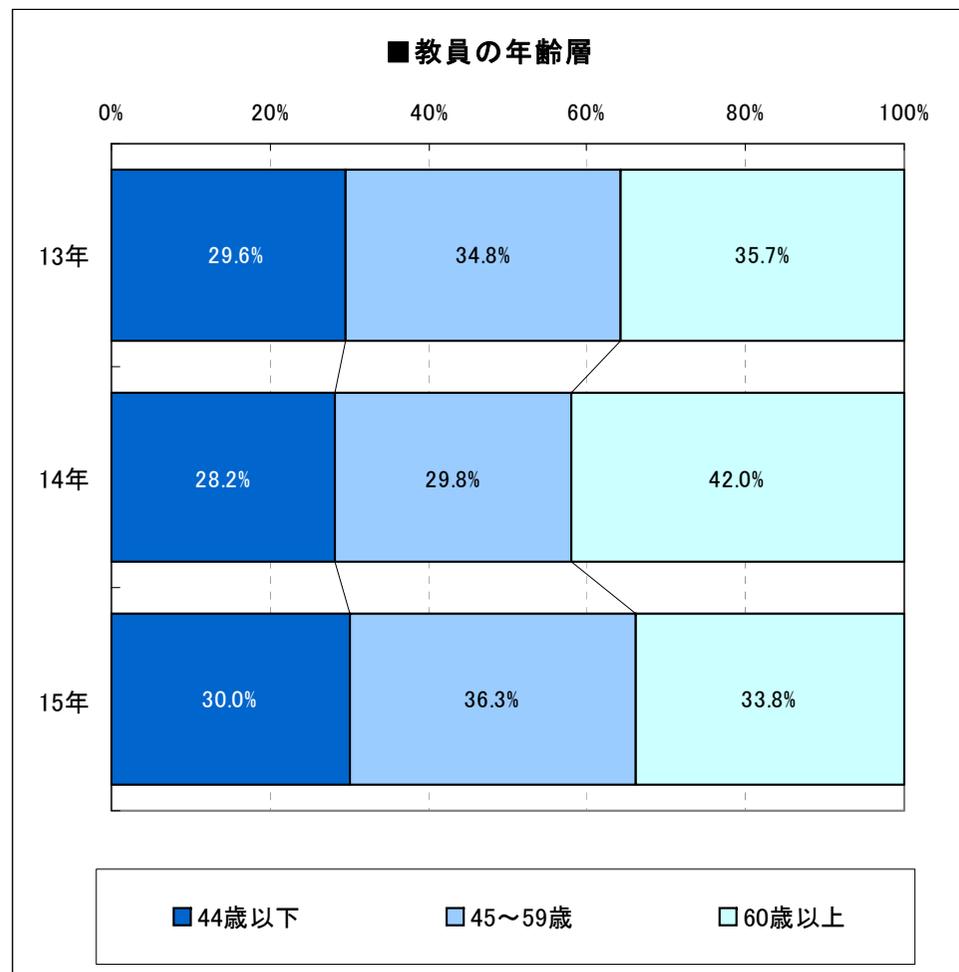
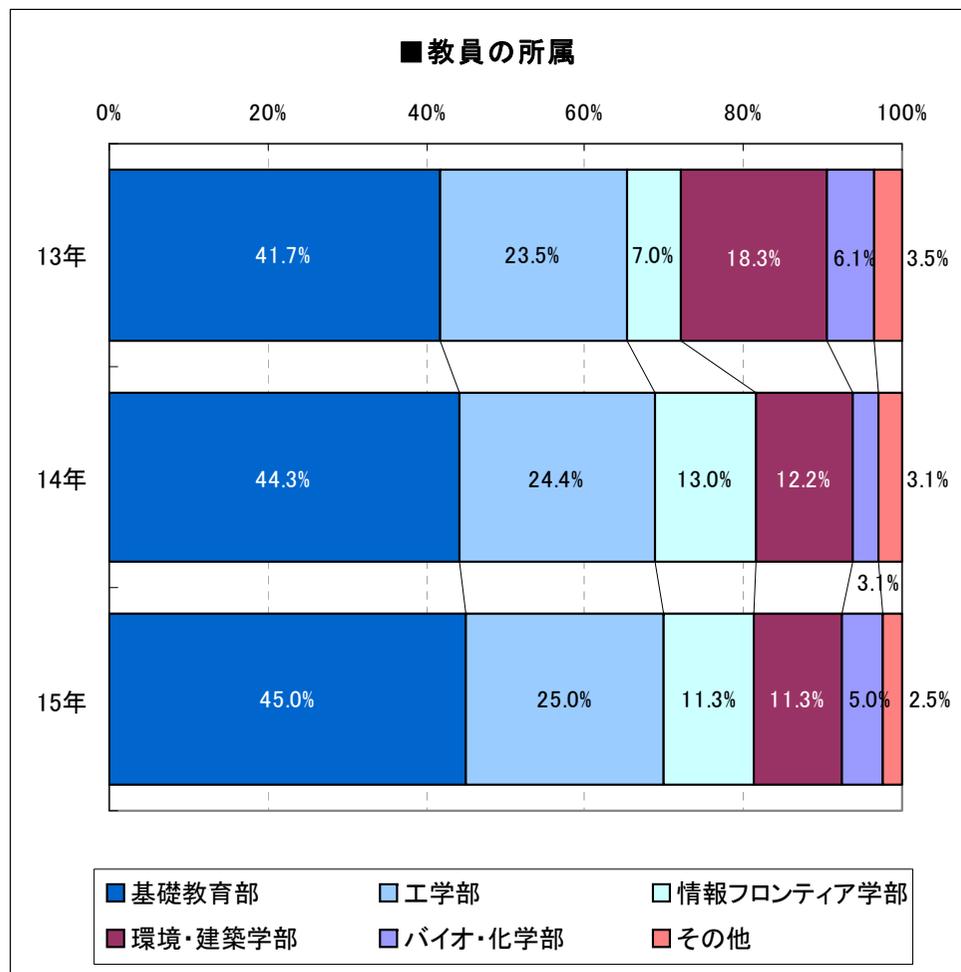
■新入生 KITへの期待、心構え



<13-1>教職員の基本属性

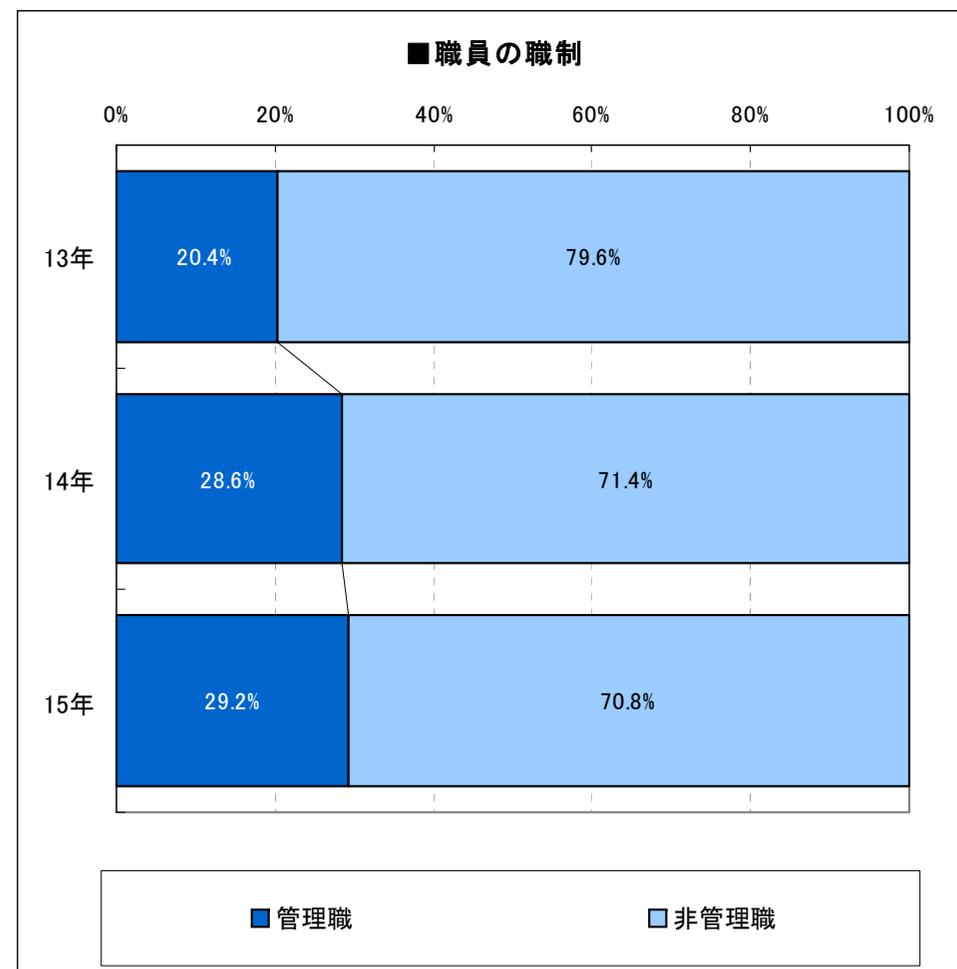
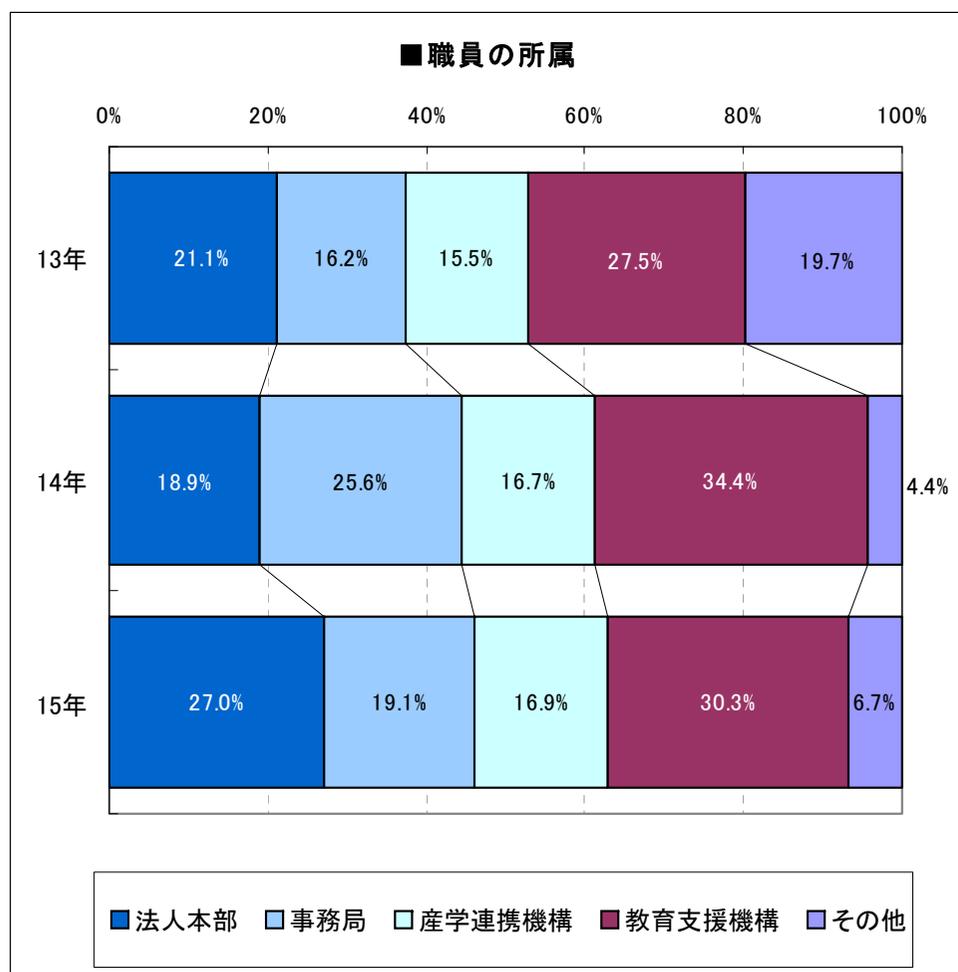
■教員の基本属性

- 「教員の所属」では「基礎教育部」が45.0%と半数近く、次いで「工学部」が25.0%、「情報フロンティア学部」と「環境・建築学部」が11.3%、「バイオ・化学部」が5.0%と続いており、前回と比較すると「基礎教育部」と「情報フロンティア学部」「バイオ・化学部」がわずかずつ増加していた。
- 「教員の年齢層」では、「44歳以下」が30.0%、「45歳～59歳」が36.3%、「60歳以上」が33.8%であり、前回と比較すると「44歳以下」が1.8ポイント増加、「45～59歳」が6.5ポイント増加していたが、「60歳以上」は8.2ポイント減少していた。



■ 職員の基本属性

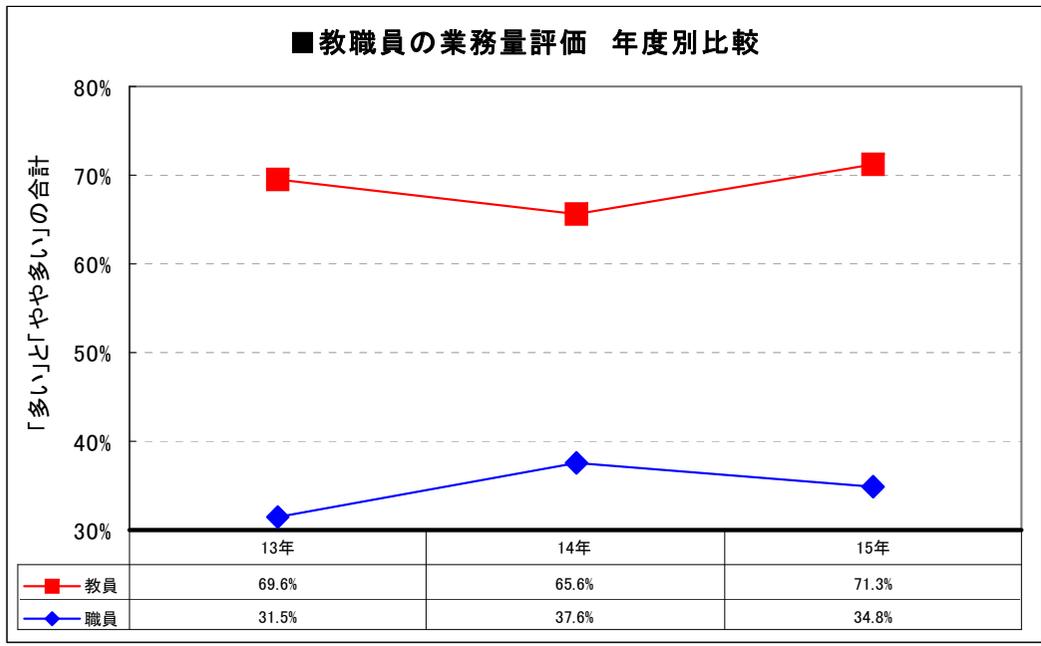
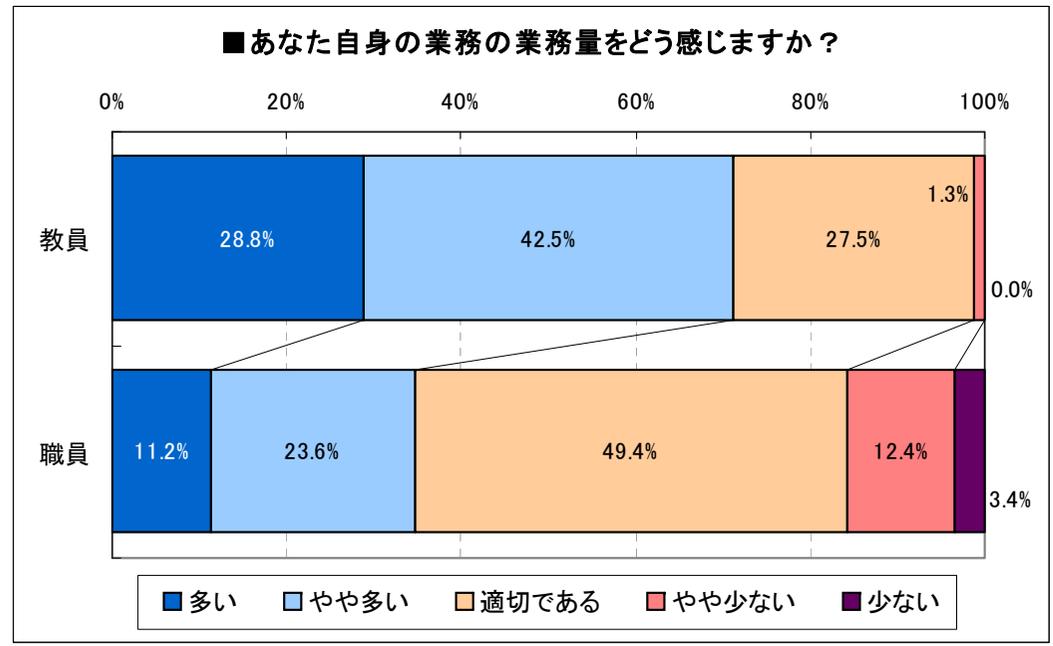
- 「職員の所属」では「教育支援機構」が30.3%と最も多く、次いで「法人本部」が27.0%、「事務局」が19.1%、「産学連携機構」が16.9%と続いていた。前回と比較して目立っていたのは「法人本部」の8.1ポイントの増加であった。「事務局」は6.5ポイント減少、「教育支援機構」は4.1ポイント減少しており、変化はやや大きかった。
- 職員の「職制」では「管理職」が29.2%、「非管理職」が70.8%であり、前回との大きな差は見られなかった。



<13-2>業務の状況に関して

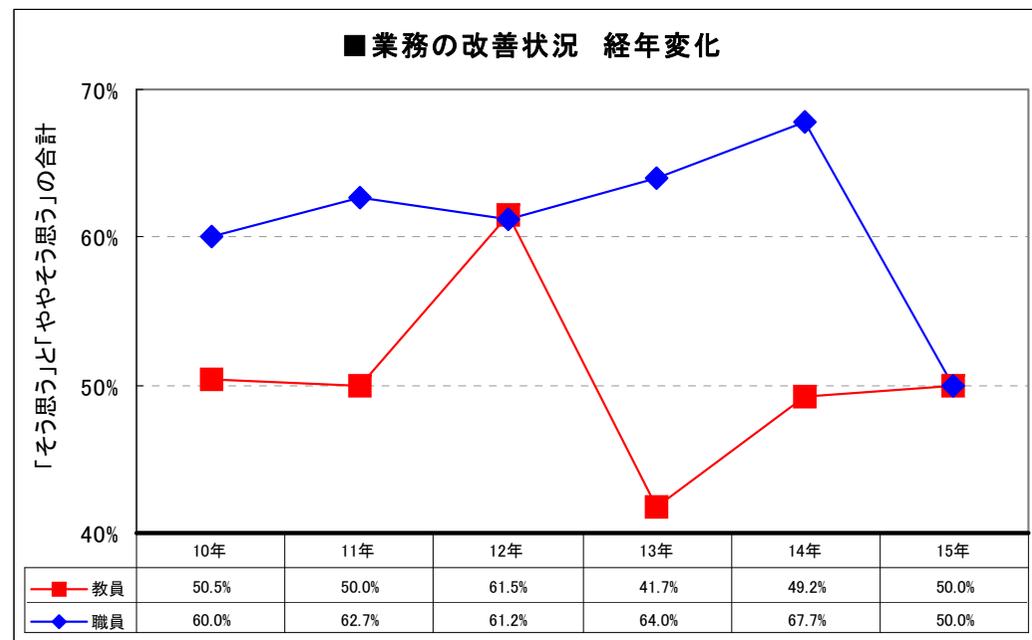
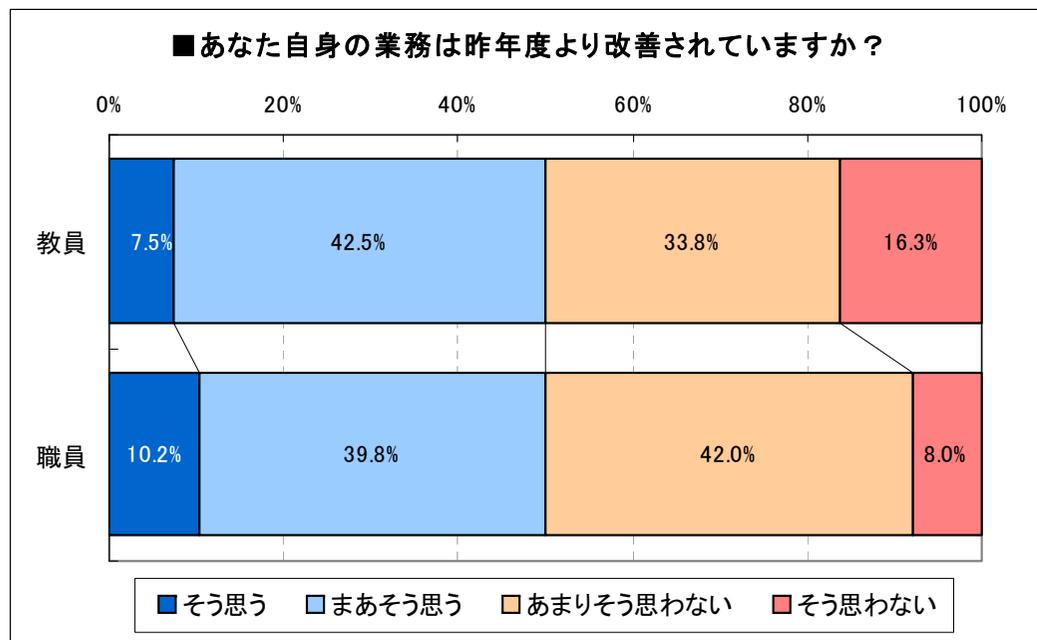
■自分自身の業務量

- 「あなた自身の業務量をどう感じますか？」に関して、「教員」では「多い」が28.8%、「やや多い」が42.5%であり、合わせると71.3%が業務が多いと感じており、「適切である」が27.5%、「やや少ない」が1.3%となっていた。
- 「職員」では「多い」が11.2%、「やや多い」が23.6%で、合わせると34.8%であり、「教員」を36.5ポイント下回っていた。そして、「適切である」は49.4%で、ほぼ半数となっていた。
- 経年変化は、横軸を年度として変化を見ているが、「教員」では業務量が多いという割合が前回よりわずかに増加し、これまでで最も高くなっていた。一方、「職員」では前回は下回り、両者で逆の変化となっていた。



■ 自分自身の業務改善状況

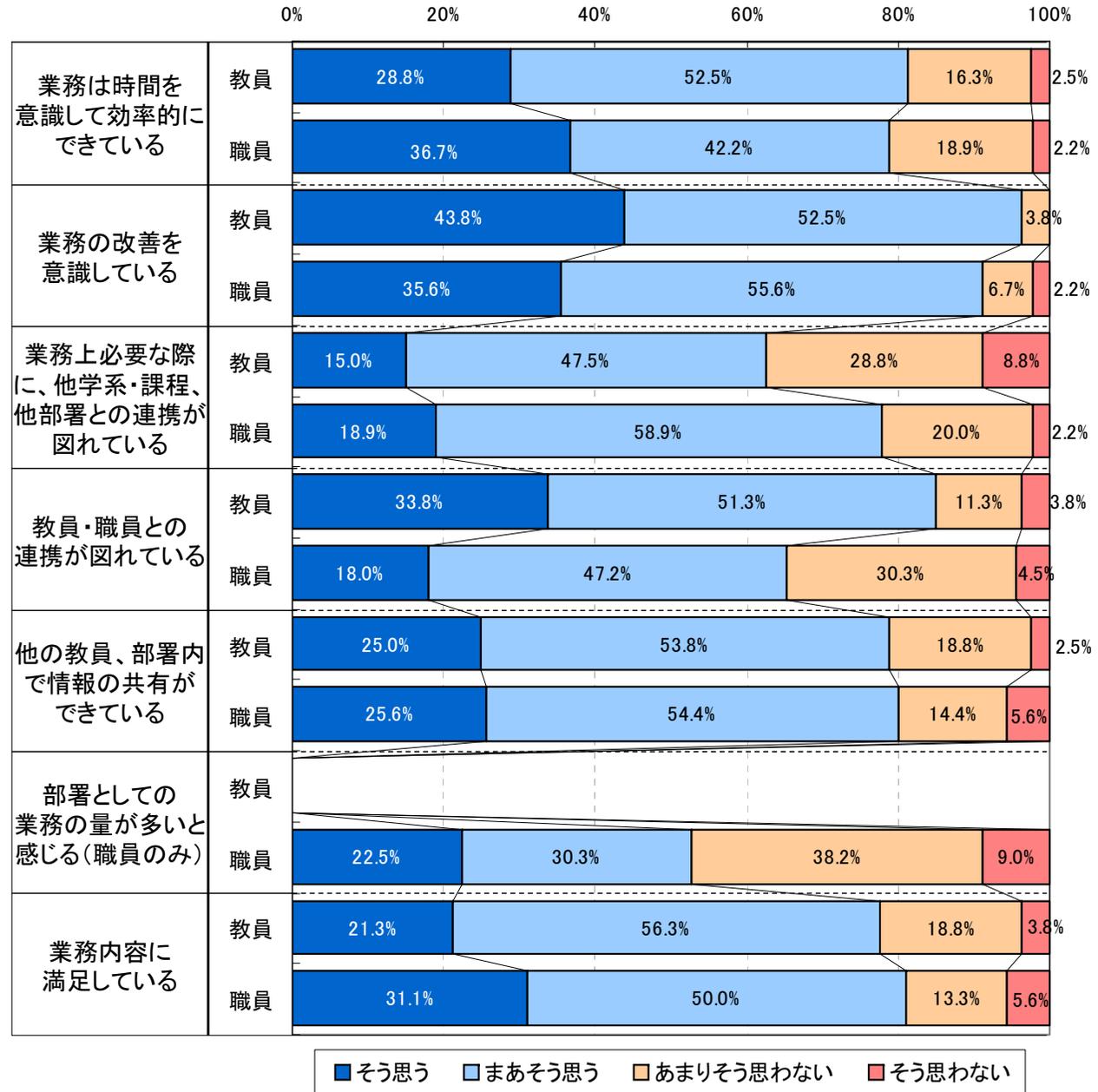
- 「あなた自身の業務は昨年度より改善されていますか？」に対して、「教員」では「そう思う」が7.5%、「まあそう思う」が42.5%であり、合計すると50.0%が改善が進んでいると答えていた。また、「職員」では「そう思う」が10.2%、「まあそう思う」が39.8%であり、合わせると「教員」と同様に50.0%が肯定的な意見となっていた。
- 経年変化を見ると、「教員」では肯定的な意見が前回とほぼ同じであった。そして、「職員」は、例外はあるものの10年前から前回まで、肯定的な意見がなだらかに増加してきていたが、今回は前回は17.7ポイント下回って、これまでで最も低くなっていた。この変化の要因をしっかりと把握しておく必要があると思われる。



■自分自身の業務状況

- 業務全体の評価として、「業務内容に満足している」を見ると、肯定的な意見の合計は「教員」で77.6%、「職員」で81.1%となっており、「職員」の満足度の方がやや高かった。
- 全体で肯定的な意見が多かったのは「業務の改善を意識している」であり、「教員」で96.3%、「職員」で91.2%が肯定的な意見であった。
- 「教員」と「職員」の差が少なかったのは「他の教員、部署内で情報の共有ができています」であり、いずれも約8割が肯定的な意見であった。そして、「業務は時間を意識して効率的にできている」に対しても、「そう思う」という回答だけを見ると「職員」が多かったものの、肯定的な意見の合計はいずれも8割程度で、「教員」と「職員」の差はあまりなかった。
- 「教員」と「職員」の差が見られたのは2項目あったが、「教員」で肯定的な意見が多かったのは「教員・職員との連携が図れている」であり、「職員」の方はやや連携が図れていないと感じているようだった。逆に「職員」で肯定的な意見が多かったのは「業務上必要な際に、他学系・課程、他部署との連携が図れている」であり、こちらは「教員」がやや課題を感じているようであった。
- 「部署としての業務の量が多いと感じる」は「職員」だけに聞いたものであるが、「そう思う」が22.5%、「まあそう思う」が30.3%であり、合わせると「職員」の52.8%が業務の量が多いと感じていた。

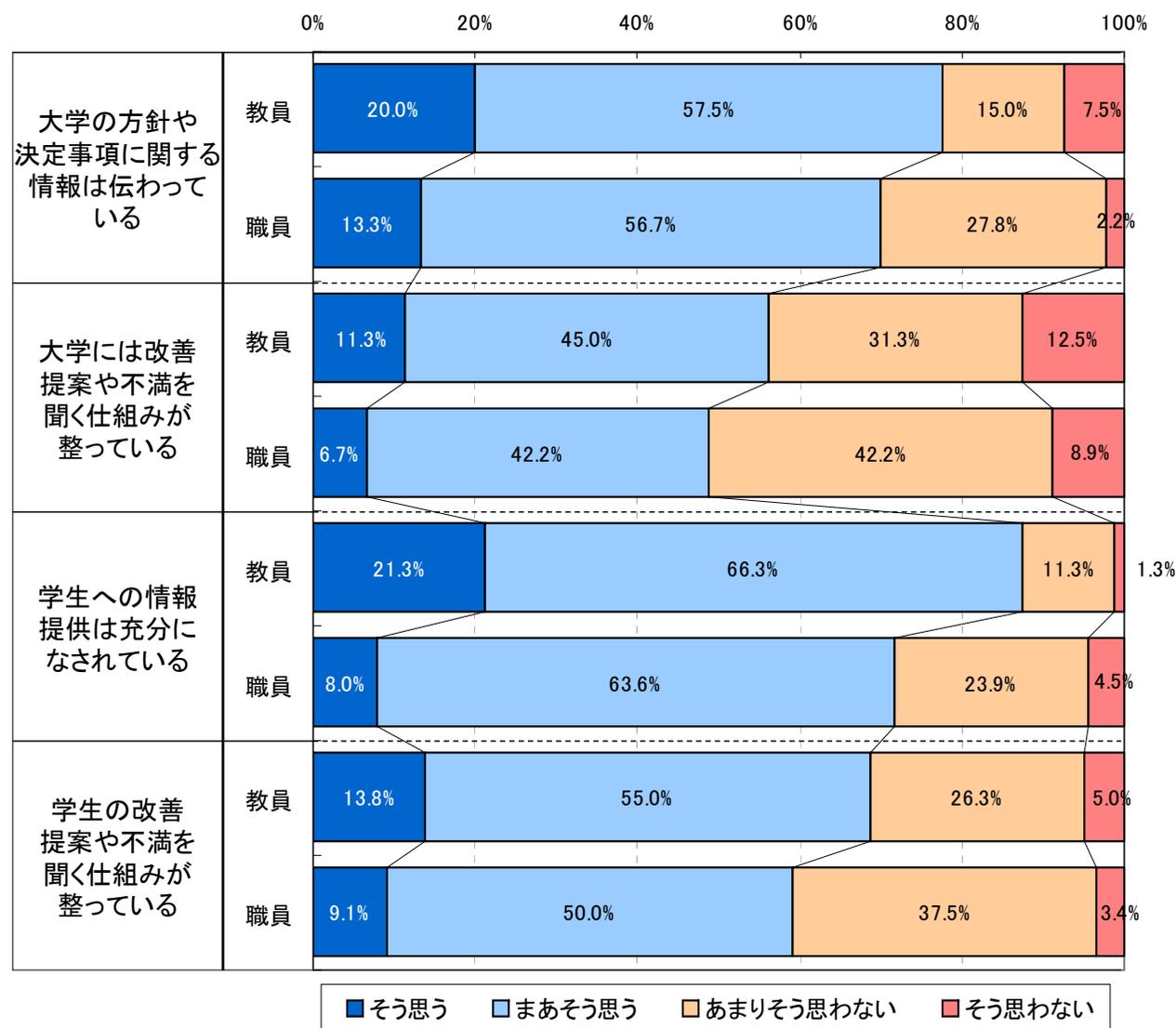
■自分自身の業務状況



■大学全体の業務改善の進捗状況

- 「大学全体の業務改善の進捗状況」では4つの質問をしているが、全ての項目で「教員」の方が肯定的な意見が多くなっており、意識の差が見られた。
- 「教員」では「学生への情報提供は充分になされている」で肯定的な意見の割合が87.6%と非常に高く、「大学の方針や決定事項に関する情報は伝わっている」で77.5%、「学生の改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」で68.8%、「大学には改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」で56.3%となっており、いずれも5割以上が肯定的な意見となっていた。
- 「職員」も「学生への情報提供は充分になされている」で肯定的な意見の割合が71.6%と最も高かった。次の「大学の方針や決定事項に関する情報は伝わっている」は70.0%で、1位との差は少なかった。そして、「学生の改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」が59.1%、「大学には改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」が48.9%と続いており、順序は「教員」と同じとなっていた。

■大学の改善への取組状況

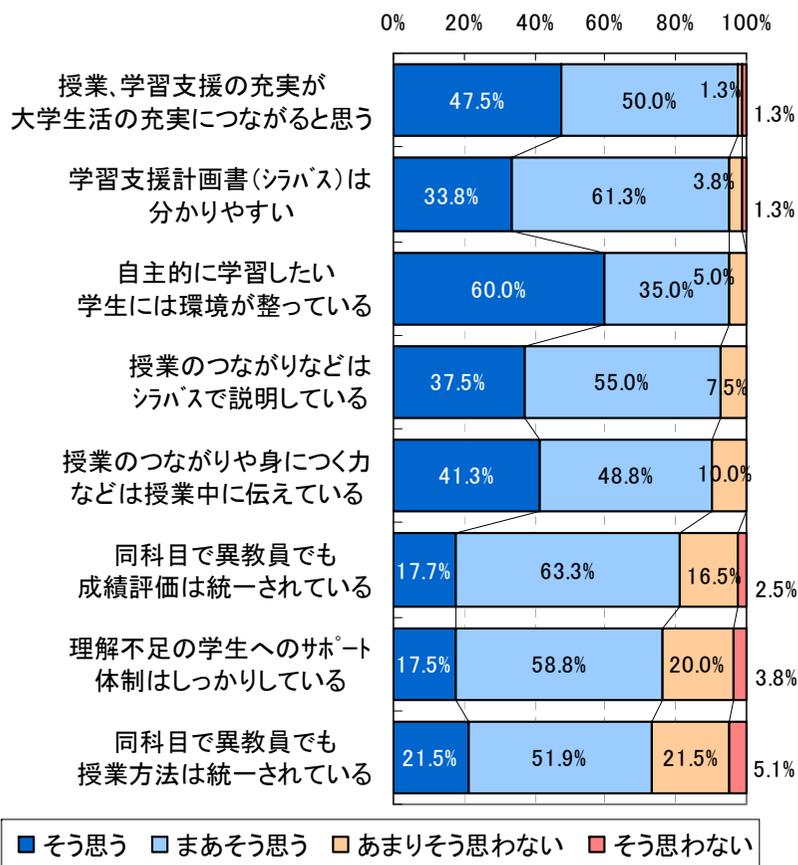


<13-3>教員の授業および学習支援の自己評価

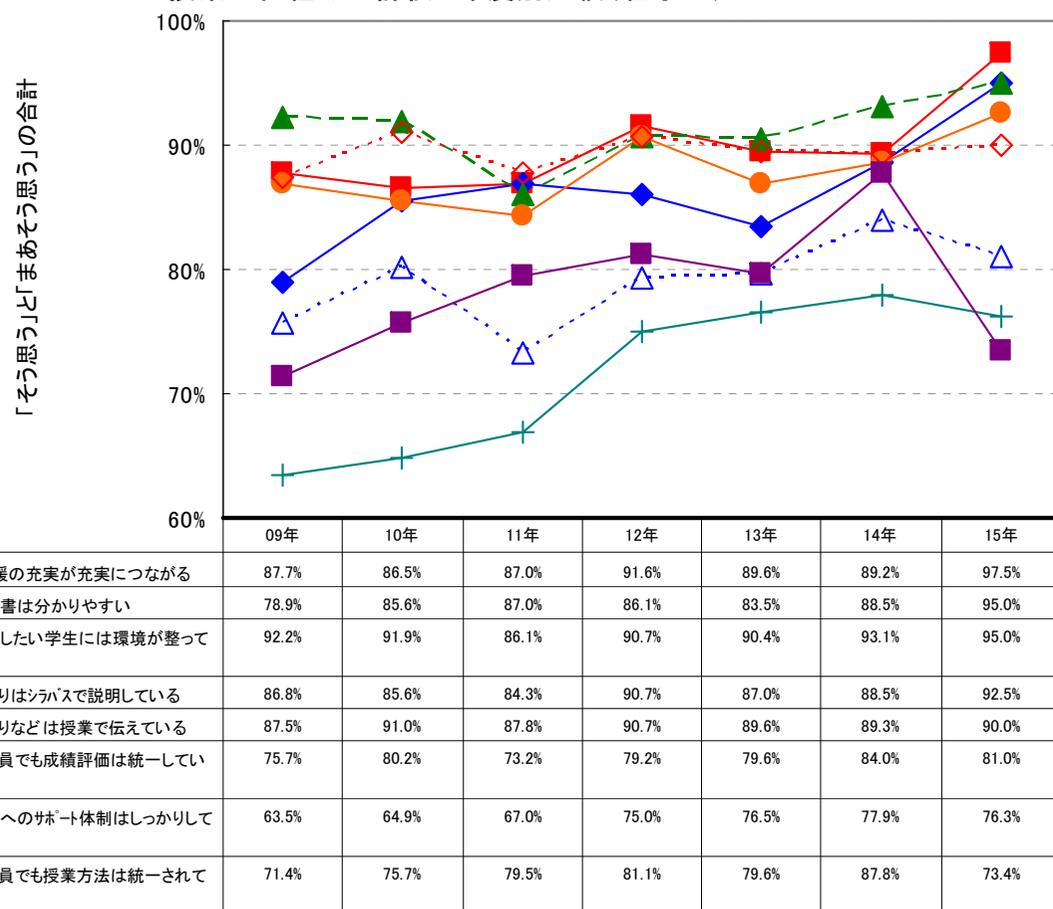
■教員の授業および学習支援の自己評価

- 教員の自己評価は肯定的な意見の合計によって並び替えているが、最も肯定的な意見が多かったのは「授業、学習支援の充実が大学生活の充実につながると思う」であり、ほとんどの教員が授業や学習支援の重要性を感じていた。そして、「学習支援計画書は分かりやすい」「自主的に学習したい学生には環境が整っている」「授業のつながりなどはシラバスで説明している」「授業のつながりや身につく力などは授業中に伝えている」と続いており、ここまでの5項目では肯定的な意見が9割を超えていた。特に「自主的に学習したい学生には環境が整っている」では「そう思う」が60.0%となっており、学習に関する環境の充実を感じているようであった。
- 年度別比較を見ると、「授業、学習支援の充実が大学生活の充実につながると思う」と「学習支援計画書は分かりやすい」は前回は大きく上回って過去最高の評価となっており、「自主的に学習したい学生には環境が整っている」「授業のつながりなどはシラバスで説明している」もわずかなではあるが前回は上回って過去最高となった。前回より低下した項目は3項目あったが、「同科目で異教員でも授業方法は統一されている」は前回高かった評価を大きく下げて、09年の評価に近い低さとなっていた。

■教員の授業および学習支援の自己評価



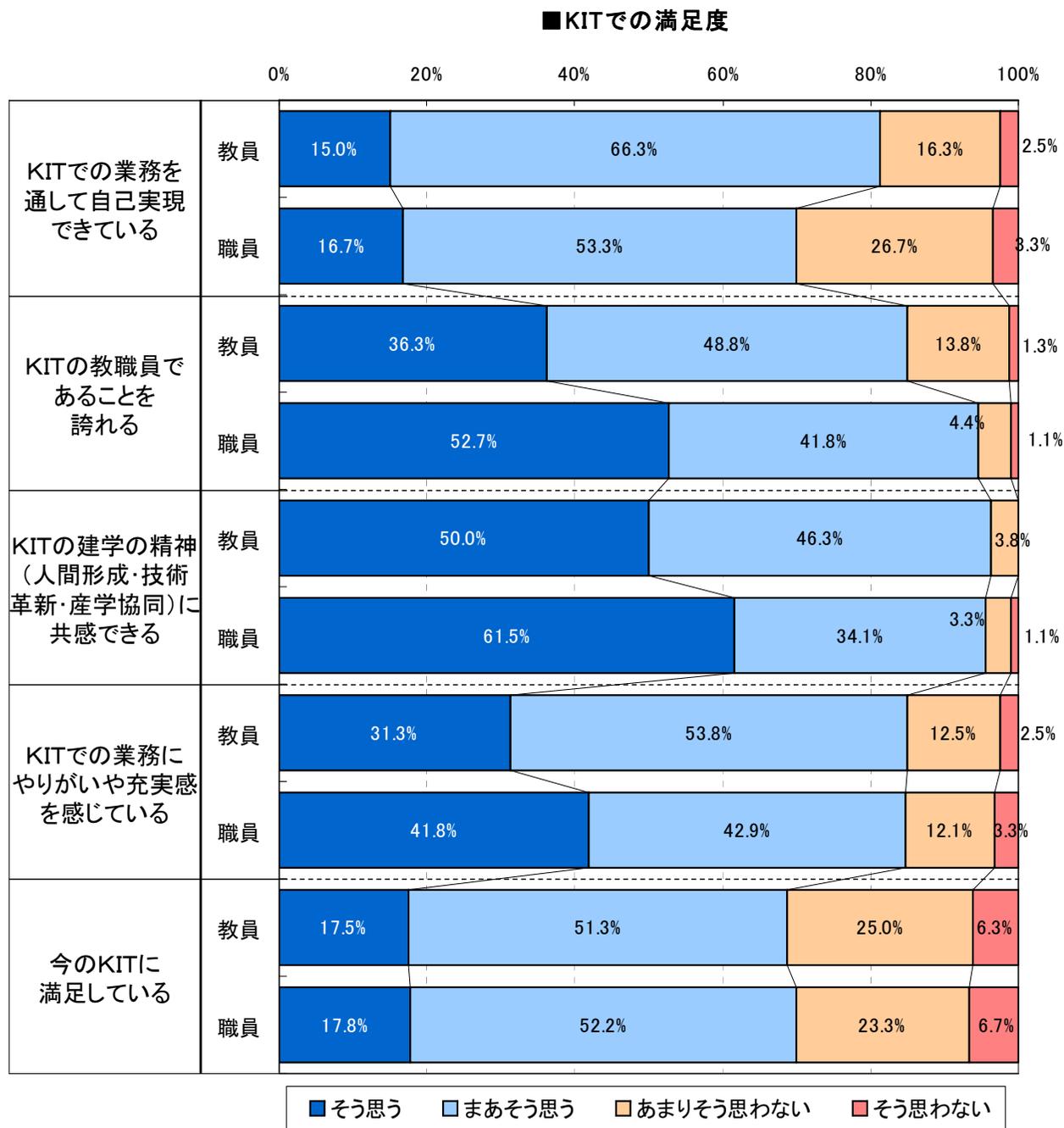
■授業の仕組みの評価 年度別比較(在学生)



<13-4> KITでの満足度

■KITでの満足度

- 「教員」と「職員」のKITでの満足度は、5つの項目について聞いている。
- まず、総合的な評価として「今のKITに満足している」を見たところ、「教員」では「そう思う」が17.5%、「まあそう思う」が51.3%で、合わせると68.8%が満足と答えていた。そして、「職員」では「そう思う」が17.8%、「まあそう思う」が52.2%で合わせると70.0%となり、「教員」「職員」のいずれも約7割がKITに満足していると回答していた。
- 「教員」「職員」ともに肯定的な意見が多かったのは「KITの建学の精神に共感できる」で、肯定的な意見の合計は「教員」で96.3%、「職員」で95.6%であった。また、「KITでの業務にやりがいや充実感を感じている」では「教員」が85.1%、「職員」が84.7%であった。
- ここまで見た項目以外の2項目は「教員」と「職員」の差がやや大きく、「KITでの業務を通して自己実現できている」では「教員」の肯定的な意見の方がやや多く、「KITの教職員であることを誇れる」では「職員」の方が多かった。
- 「そう思う」の差などから全体の傾向をまとめると、KITに対する満足度や自己実現ができているかについては「教員」「職員」で差はないが、「職員」はKITの建学の精神に共感し、業務にやりがいを感じており、職員であることに誇りを持っているという傾向があるのではないかと考えられた。



継続的な改善活動のために!

在学生・卒業生・教職員

2015 KIT総合アンケート調査結果[報告書]

■発行日	平成27年10月1日
■発行者	学校法人 金沢工業大学
■調査票設計・分析	有限会社 アイ・ポイント
■編集	金沢工業大学企画部CS室

無断複製厳禁